事　業　報　告　書

2016（平成 28）年度

社会福祉法人　愛　　光

2016（平成 28）年度　事業報告書

回顧と展望

「平成の福祉改革」にさす光と影

■視覚障害者支援事業の移管

本年（2017 年）4 月 1 日は国鉄が分割・民営化されＪＲが発足して 30 周年にあたる。それは肥大化した事業を分割して企業の再生を図るという経営戦略だった。その国鉄分割民営化と比べること自体恐れ多いが、われわれもささやかな「事業分割」に未来をかける取り組みをスタートさせた。

「視覚障害者福祉に特化した新法人を立ち上げ事業移管する」という構想には疑問や異論も出された。ただ歴史的にも視覚障害者福祉は当事者活動と一体化して取り組まれることの多い事業分野であることは知られている。愛光と組織の成り立ちが同根の関係にある公益社団法人千葉県視覚障害者福祉協会（千視協）を協働のパートナーとすることで、専門性と当事者性を合体させ、その相乗効果に発展を期そうということになった。

したがって愛光は今後、地域社会の福祉ニーズと向き合う事業展開を目指す。ただ「盲重複障害者の施設ケア」という独自に築いてきたサービスは、「一隅を照らす実践」としてこれまでどおり堅持していくことを申し添えておきたい。

■「津久井やまゆり園事件」のインパクト

多くの人命が奪われた特異な事件の犠牲者が重度の知的障害者だったということが、これまで眠っていた社会の「病」を呼び醒ました。

「障害者は生きていても仕方がない」とする優生思想が犯行の動機にあるとされた。それはこの世界の先達が築き上げてきた「福祉の思想」への挑戦とも受け止められた。

また事件の容疑者が精神科に入院歴があったことで精神保健福祉法の見直しが図られようとしている。そのあまりの拙速は、暗い過去を引き継ぐ精神障害者への偏見と無縁とは思えないことも気がかりだ。

こうした重い課題を投げかけた事件は、障害者福祉と政権の目玉政策の「共生社会」との折り合いがいかに難しいかということもわれわれに投げかけたと思う。

■忘れてはならない「何のための改革か」

2016 年 3 月 31 日成立の「社会福祉法等の一部を改正する法律」は「社会福祉法人制度改革法」でもあった。それは次の 3 点に要約される。

（1）経営組織のガバナンスの強化（議決機関としての評議員会の必置化・一定規模以上の法人への会計監査人の導入等）

（2）事業運営の透明性の向上（財務諸表・現況報告書・役員報酬基準等の公表に係る規程の整備等）

（3）財務規律の強化（適正かつ公正な支出管理・いわゆる内部留保の明確化・社会福祉事業等への計画的な再投資・「社会福祉充実残額（再投下財産額）」の明確化等）

当法人ではこのうち「事業運営の透明性の向上」については 16 年 4 月施行とされているところから、情報公開の体制整備を行ったところである。

そして年度内の制度改革対応の中心は「経営組織のガバナンスの強化」、すなわち経営組織の整備であった。6 月に行政のガイドラインが発出され、定款の大幅な変更に全社会福祉法人が着手し、当法人も例外ではなかった。理事会や理事の役割も法制化され、法律上の権限や責任が明らかになることで法人経営がどのように変わるか。また 2016 年度決算をもとに「財務規律の強化」の名目で財務管理がより一層厳しい行政監視の下に置かれることになる。この改革の原点は「社会福祉法人は本来の使命を取り戻せ」ということであった。それが「公益的取組」の努力義務としての明文化（第 24 条第 2 項）でもあった。ただ法の縛りを伴う「社会貢献」で、果たして社会福祉法人が本来的機能を再生させることができるだろうか。当事者である社会福祉法人関係者の議論が熟さないまま現実は先行する。

■新たな指定管理事業と「地域共生社会」と

2016 年 4 月、法人としては 3 つ目の佐倉市指定管理事業「佐倉市南部地域福祉センター」の受託運営がスタートした。前任の指定管理者に競り勝っての指名獲得であった。それだけに関係者からの注目度も高く、成果が問われる。

ここで「成果」とは、契約上の業務をこなすことではない。この指定管理者指名が得られた理由が、「総合相談」の実績をもとに、「地域共生社会」というトレンドとも合致していた点にあると分析するからである。

改めてその「地域共生社会」政策が打ち出された経過をみると、厚労省が 2015 年 9 月にとりまとめた「新たな時代に対応した福祉の提供システム」が議論の叩き台だった。そのビジョンでは、地域住民の参画と協働により、誰もが支え合う共生社会の実現を目指して、次の 4 点を提言している。

①包括的な相談から見立て、支援調整の組み立て、資源開発
②高齢、障害、児童等への総合的な支援の提供
③効果的、効率的なサービス提供のための生産性向上
④総合的な人材の育成・確保

中でも①と②を「新しい地域包括支援体制」を構成するものとして、そこでは社会福祉法人を含む多機関協働の仕組みが意図されている。

さらに、2016 年 6 月 2 日に閣議決定された「ニッポン一億総活躍プラン」においても追認され、7 月 15 日には厚労省に厚生労働大臣を本部長とする「『我が事・丸ごと』地域共生社会実現本部」が設置された。その初会合の席で本部長の塩崎厚労相は、地域共生社会構想を「福祉改革の哲学の基本コンセプトと位置づける」と発言している。

この「共生社会」という考え方は、社会福祉の世界ではもともとあったものだ。半世紀前、北欧発の「ノーマライゼーション」（生活の常態化）運動も同じ趣旨であった。人里離れた施設に「収容」され、集団生活を強いられてきた知的障害者を、その大規模施設から解放し、地域社会に移して「普通の暮らし」を実現させようというものだった。遅々とした歩みではあったが、わが国においても、グループホームの制度化など、障害者福祉の施策や実践が福祉先進国の後を追った。

それは 1994 年のわれわれの事業所移転以降の経営戦略にも大きく影響している。その意味で、今回われわれが南部地域福祉センター事業の運営に取り組むことになったのは、経営戦略の一つの到達点であり、新たな実践の出発点ともなりうると思う。

（2017 年 4 月　理事長　法澤　奉典）

目　　次

Ⅰ．法人本部

Ⅰ－１　法人本部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

Ⅱ．視覚障害者支援事業部

Ⅱ－１　視覚障害者総合支援センターちば・・・・・・　１４

Ⅱ－２　アイサポート・・・・・・・・・・・・・・・・・　２７

（特定相談支援事業）

Ⅱ－３　ワークショップ四街道・・・・・・・・・・・・　３１

（就労継続Ｂ型）

Ⅲ．障害者支援事業部

Ⅲ－１　ルミエール・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３７

（障害者支援施設）

Ⅲ－２　めいわ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４５

（障害者支援施設）

Ⅲ－３　リホープ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５９

（障害者支援施設）

Ⅲ－４　佐倉市よもぎの園・・・・・・・・・・・・・・・　６７

（就労継続支援Ｂ型）

Ⅲ－５　ワークショップかぶらぎ・・・・・・・・・・・　７５

（就労継続支援Ｂ型/自立訓練）

Ⅲ－６　ジョーの家・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８３

（共同生活援助）

Ⅲ－７　事業部統合運営部門・・・・・・・・・・・・・　８９

（健康管理/食事/ボランティア）

Ⅳ．高齢者福祉事業部・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９７
Ⅴ．地域福祉事業部
　Ⅴ－１　南部児童センター／学童保育所・・・・・・・・　１１３
　Ⅴ－２　総合相談センター・・・・・・・・・・・・・・・　１１７
　　（佐倉市南部地域包括支援センター/アシスト）
　Ⅴ－３　南部地域福祉センター・・・・・・・・・・・・・　１２５

Ⅰ. 法 人 本 部

Ⅰ－1　法人本部

2016（平成 28）年度　事業報告書
法　人　本　部

１．概況

●『受けとめよう、叶えよう、この街の願いを』

「社会福祉法等の一部を改正する法律案」が 2016 年 3 月 31 日に成立した。評議員会や理事会のあり方を見直し、社会福祉法人が地域から信頼され、公益性の高い非営利組織として取り組むことになった。社会福祉法改正では、法第 24 条に「地域における公益的な取り組み」が追加され、すべての社会福祉法人が地域貢献を行うことが義務化された。これまでにも愛光は、経営理念に「地域貢献」を掲げて地域福祉に取り組んできたが、スローガンとして改めて〝地域への取り組み〟の意識化を図った。

折しも 4 月より、南部地域福祉センターの指定管理を佐倉市より受託、同時に併設した「総合相談」（南部地域包括支援センター・アシスト）窓口とともに、まさに地域密着の福祉サービスとなった。南部地域福祉センターでは、地域福祉センターの利用拡大と総合相談利用の利便性を考慮して、佐倉市南部地域の交通空白地域への移送サービス（愛光たすけあい移送サービス）としてマイクロバスの運行を 11 月より開始した。地域住民の方への浸透はまだまだであるが、地域貢献事業としての利用拡大を図りたい。

「総合相談」に関しては、2 月厚生労働省より高齢者や子ども、障害者向けの福祉サービスを一体で受けられる「地域共生社会」実現のための工程表が示された。福祉の縦割りを排し、相談窓口を一元化させようというもの。人材や財源に限りがある中で、近隣の心配事を地域で解決しようという仕組みである。佐倉市の理解のもと 2013 年 7 月から法人独自で実施してきた総合相談事業であるが、法人の強みを活かしてこの事業の推進に取り組んでいきたい。

●障害者施設殺傷事件を受けて

2016 年 7 月、神奈川県の障害者支援施設において、外部からの侵入者によって多数の利用者が殺傷されるという痛ましい事件が発生し、世間を震撼させた。障害者差別解消法が施行された矢先の事件で、社会の中にある差別的な意識など、重い問いかけになるとともに福祉関係者にやりきれない感情を抱かせた。身体に障害があったり、会話の手段が異なったりと人は誰であれ同じではない。性格や考え方もさまざまで、一人ひとり違うことが個性でもある。どんな違いも認めあい、尊重しあえる共生社会の実現には、差別の芽を見つめ、そのような意識を失くす努力が必要である。事件後、防犯体制の強化が求められ、障害者支援施設では、非常通報装置、鍵や正門の修繕等への助成が行われ、新たな工事を実施した。安全確保の行き過ぎは、施設を閉ざすことに結びつき、ノーマライゼーションの考えに逆行することでもあり、両立の難しさを感じた。また、事件の波紋は、精神障害者の措置入院のあり方など精神保健福祉法の改正におよび、このことが障害者差別解消法の停滞に繋がらなければと案ずる。

●障害者グループホーム着工へ

かねてからの障害者グループホーム開設を望む声に応え、法人では土地を取得し建設に向けた準備を進めてきた。障害者グループホーム（共同生活援助）は、地域の中で少人数（10 人以下）での共同生活を支援するサービスで、夜間において食事、入浴、その他の日常生活上の援助を実施、昼間は近隣の日中活動の場や就労の場への通所となる。かつてのケアホーム（共同生活介護）は、障害者総合支援法によってグループホームに一元化された。これまで法人内のグループホームは、「ジョーの家」（定員 4 名）のみであったため、地域からのニーズに応えられず、中期経営計画での検討課題でもあった。

建設予定地の佐倉市太田・山王地区の住民の方への建設計画の説明会を実施、理解を得て 2 月 13 日地鎮祭の運びとなった。今後入居利用者の募集、2017 年秋の竣工に向けて準備が進む。

●盲重複障害者合理的配慮ガイドブック作成

障害者差別解消法が 2016（平成 28）年 4 月に施行された。法律は、障害者に対して差別的な禁止と合理的な配慮（社会的障壁を取り除く）を行い、障害者の方が地域生活を送りやすいように配慮しましょうというものである。厚生労働省では 2015 年 11 月「福祉事業者向けガイドライン」が作成され、福祉サービス事業者に対して障害特性に応じた合理的配慮のポイントが示された。しかし、このガイドラインには、盲重複障害者向けの記載はなく、これを補足する形での盲重複障害者向けガイドブックの必要性を考え、コンプライアンス委員会が中心となって法人独自の「盲重複障害者を支援する人のための合理的ガイドブック」を作成した。内容は、『障害者差別解消法とは／合理的配慮の進め方／障害特性に応じた合理的配慮の例／倫理綱領・行動規範』から構成している。今後、サービス現場での支援の一助として、また職員研修での教材として活用していきたい。

●指定管理業務等２事業で継続受託決定

法人では、本年度より受託した「佐倉市南部地域福祉センター」のほか「佐倉市よもぎの園」、「佐倉市南部児童センター及び 7 学童保育所」の 3 件の指定管理と「佐倉市南部地域包括支援センター」の事業委託を引き受けている。本年度、「佐倉市よもぎの園」と「佐倉市南部地域包括支援センター」の次年度に向けた公募があり、審査の結果、両事業とも継続して運営することが決定された。それぞれの事業では、これまでの実績等（よもぎの園 9 年、南部地域包括 8 年）から評価された結果であると思うが、奢ることなく更なるサービスの質の向上と地域住民のニーズに応え、信頼を深める事業を展開したい。

●第三者評価受審

法人では毎年、福祉サービス第三者評価事業を受審している。本年は、ワークショップかぶらぎが受審した。第三者評価は、福祉サービスを提供する事業所の質を公平、中立的な立場から第三者評価機関が専門的かつ客観的な視点で評価をし、事業所が施設運営における課題を把握し、サービスの質の向上に結びつけるとともに、受審結果を公表することで利用者のサービスの選択に資することを目的にするものである。ただ、県内事業所ではあまり実施されていないと県議会で問題視されたようである。

ワークショップかぶらぎの評価の改善点は、①オピニオンリーダーとしての状況適応型事業展開が求められる。②事業目標達成のために内部環境分析の制度を高め、職員個別の人材育成が求められる。③利用者の声を反映させるために記録の充実が望まれる。ということであった。この評価を真摯に受け止め、次につながる実践に取り組んでいきたい。また今後も法人内各事業所での第三者評価機関による評価事業を継続し、質の高いサービスをめざしていきたい。

●広報プロジェクトからの発信

これまで法人からの情報発信は、広報誌「ＡＩＫＯＨ」、愛光ホームページ、愛光パンフレット、後援会愛の灯台基金だより等であったが、それぞれの担当者が別々に活動していた。広報活動や情報発信については、美的センスやアピール力が求められるが、発信力等での課題が指摘されていた。特に福祉人材不足が叫ばれる中、リクルート（人材募集）関係でのパンフレットやホームページの刷新での求人活動の強化と情報発信の一体化を考え、広報戦略プロジェクトを構築した。ホームページは、各施設からの情報発信に向けた″施設だより″、求人情報として″マイなび″コーナーを新設、今後スマートフォン対応も検討したい。パンフレットは、サービスの利用拡大や人材の確保につながるよう、デザインや内容で目を引くよう既存のものとはイメージを一新したい。パンフレットは、２０１７年夏に完成予定である。

（総括施設長　池田　勝也）

1　2016（平成 28）年度実績

（1）財務（単位：百万円）

	28 年度	前年	増減	本部	相談	視覚	障害	高齢	地域
サービス活動収益	1,955	1,888	67	0	59	150	1,202	392	154
経常増減差額	95	74	21	−93	0	10	190	−30	17
経常増減差額比率（%）	4.8	4.0	0.8	−27763.6	0.3	6.9	15.8	−7.7	11.1

※内部取引相殺および、単位未満の端数を四捨五入して表示しているため、表中の総額と内訳の合計が一致しない場合がある。

（2）個別運営実績

経営改革	・第Ⅱ期中期経営計画の推進
新規事業	・佐倉市よもぎの園指定管理者・南部地域包括支援センター業務委託受託、推進 ・佐倉市南部地域福祉センター指定管理開始（愛光たすけあい移送サービス開始） ・視覚障害者相談支援事業開始 ・障害者グループホーム（仮称「山王の家」）建設着工
事業運営	・視覚障害者情報提供施設の経営移管（千葉県視覚障害者福祉協会） ・「総合相談センター」事業移設（南部保健福祉センター内設置）
地域貢献活動	≪福祉の国際交流≫ ・韓国の障害者施設「ラファエルの家」との交流（愛光秋まつりへの参加） ≪まちづくりへの協力≫ ・地域環境美化（「愛の灯台花壇」の設置） ・地域福祉活動への参加（地区社協・まちづくり協議会） ≪小中学生に対する福祉教育≫ ・地域の小中学校での福祉教育 ≪その他の地域貢献・交流活動≫ ・佐倉市南部地域福祉センター愛光たすけあい移送サービス ・施設利用者の音楽活動 ・小学生書き初め展 ・ボランティアの育成（顕彰・交流会・ボランティア保険援助・講座開催） ・認知症サポーター養成講座（小学生対象） ・「愛光秋まつり」への小学生招待 ・地域防災～「福祉避難所」
設備管理	・自動火災報知機更新工事・非常用放送設備 ・非常用発電装置 ・防犯対策補助事業（非常通報装置・門扉電子錠システム設置）
後援会	・ギャラリーあいこう【常設】 ・バリアフリー映画会 ・地域お祭りへの支援 ・あいとひかりのコンサート ・Ａｉｋｏｈフォーラム（講演会・研修）

（３）中期経営計画進捗状況（第Ⅱ期中期経営計画：2014～2016 年）

分　類	重点実施項目	実施計画	見直し・実績	評価
顧客の視点	社会資源の整備	ワークショップかぶらぎ改築	2015 年 6 月開始	A
		グループホーム開設準備	障害ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑ建設着工	A
		高齢者新事業計画	未策定	C
		障害施設機能見直し	見直しせず現状継続	C
	総合相談の公的認知	合同事務所の継続	南部地域福祉センター内移設	A
	地域ニーズへの対応	児童関連事業開発調査	ニーズなし継続	C
	虐待根絶への取組み	研修・実態調査と検証	継続検証	B
業務プロセスの視点	人事評価見直し	人事評価改訂版作成	制度問題なし運用面検討	C
	ＢＣＰ計画の見直し	マニュアル改正	2015 年改正	A
	情報公開と広報強化	ＨＰ･パンフレット等改訂	2017 年パンフレット改訂予定	B
地域貢献の視点	地域貢献活動推進	地域向けイベント	Aikoh フォーラム定期開催	A
	愛の灯台基金活動	組織のＮＰＯ化提案	現状継続	B
	ボランティア育成強化	ボランティア養成講座創設	2016 年地域デビュー講座実施	A
財務の視点	財務ビジョンの策定	経常増減差額等進捗管理	数値目標達成・巡回指導監査試行	B
	ファシリティマネジメントの実行	空調給湯照明設備更新	本部･はちす苑･四街道実施（水道光熱費 1300 万円削減）	A
学習と成長の視点	経営理念ビジョンの浸透	経営計画の進捗管理	周知に時間要	B
	研修体系構築	階層別経験年数別研修	2016 年実施	A

２　事業の現況（2018 年 3 月 31 日現在）

（１）四街道事業所（所在地／千葉県四街道市四街道 1－9－3）

事業所の名称	事業区分	事　業　内　容	管理者
視覚障害者総合支援センターちば	第二種事　業	【種別】視覚障害者情報提供施設 【開所】1951（昭和 26）年 10 月 1 日 【認可】1955（昭和 30）年 3 月 18 日	伊藤和男
		【種別】視覚障害者生活訓練・コミュニケーション支援等事業	
	公益事業	【種別】福祉用具の紹介と販売に関する事業	
		【種別】ホームヘルパー等養成研修事業	
		【種別】障害者 IT 支援事業	
ワークショップ四街道	第二種事　業	【種別】障害福祉サービス事業（就労継続支援Ｂ型） 【定員】20 名 【認可】2013（平成 25）年 2 月　1 日	川崎弘

（２）船橋事業所（所在地／千葉県船橋市西習志野 1－50－1　ハイツ藤原 101）

事業所の名称	事業区分	事　業　内　容	管理者
アイサポート	第二種事　業	【種別】障害者相談支援事業（特定相談） 【認可】2016（平成 28）年 4 月 1 日	川崎弘

※　四街道事業所・船橋事業所事業については、平成 29 年 4 月 1 日付　社会福祉法人千葉県視覚障害者福祉協会へ経営移管

（３）佐倉事業所（所在地／千葉県佐倉市山王 2－37－9）

事業所の名称	事業区分	事　業　内　容	管理者
ルミエール	第一種 事　業	【種別】障害者支援施設 【定員】生活介護・施設入所支援 60 名 【認可】2007（平成 19）年 11 月 1 日	池田浩一
	第二種 事　業	【種別】障害福祉サービス事業（短期入所） 【定員】3 名 【認可】2006（平成 18）年 10 月 1 日	
	公　益 事　業	【種別】地域生活支援事業（日中一時支援事業） 【認可】2006（平成 18）年 10 月 1 日	
めいわ	第一種 事　業	【種別】障害者支援施設 【定員】生活介護 80 名（めいわ 56 名・根郷通所 24 名） 施設入所支援 56 名 【認可】2008（平成 20）年 8 月 1 日	横川民夫
	第二種 事　業	【種別】障害福祉サービス事業（短期入所） 【定員】4 名 【認可】2006（平成 18）年 10 月 1 日	
	公　益 事　業	【種別】地域生活支援事業（日中一時支援事業） 【認可】2006（平成 18）年 10 月 1 日	
リホープ	第一種 事　業	【種別】障害者支援施設 【定員】生活介護・施設入所支援 50 名 【認可】2008（平成 20）年 4 月 1 日	安部一義
	第二種 事　業	【種別】障害福祉サービス事業（短期入所） 【定員】2 名（＋空床型 5 名） 【認可】2006（平成 18）年 10 月 1 日	
	公　益 事　業	【種別】地域生活支援事業（日中一時支援事業） 【認可】2006（平成 18）年 10 月 1 日	

（４）佐倉太田事業所（所在地／千葉県佐倉市太田 1145－1）

施設等の名称	事業区分	事　業　内　容	管理者
はちす苑	第一種 事　業	【種別】特別養護老人ホーム 【定員】50 名 【認可】1999（平成 11）年 10 月 1 日	西原弘明
ショートステイ はちす苑	第二種 事　業	【種別】老人短期入所事業 【定員】20 名 【認可】2000（平成 12）年 1 月 1 日	
デイサービス はちす苑		【種別】老人デイサービス事業 【定員】35 名 【認可】1999（平成 11）年 10 月 1 日	
ホームヘルプサービス はちす苑		【種別】老人居宅介護等事業 【認可】2000（平成 12）年 4 月 1 日	
ケアプラン はちす苑		【種別】居宅介護支援事業 【認可】2000（平成 12）年 4 月 1 日	麻生知明

（５）佐倉宮前事業所（所在地／千葉県佐倉市宮前 2－13－1）

事業所の名称	事業区分	事　業　内　容	管理者
佐倉市 よもぎの園	第二種 事　業	【種別】障害福祉サービス事業（就労継続支援Ｂ型） 【定員】40 名 【認可】2008（平成 20）年 4 月 1 日	中川光男

（６）佐倉鏑木町事業所（所在地／千葉県佐倉市鏑木町 352－2）

事業所の名称	事業区分	事　業　内　容	管理者
ワークショップ かぶらぎ	第二種 事　業	【種別】障害福祉サービス事業（就労継続支援Ｂ型） 【定員】24 名 【認可】2015（平成 27）年 6 月 1 日	菊地暁生
		【種別】障害福祉サービス事業（自立訓練〈生活訓練〉） 【定員】6 名 【認可】2015（平成 27）年 6 月 1 日	

（７）佐倉城事業所（所在地／千葉県佐倉市城 399－3）

事業所の名称	事業区分	事　業　内　容	管理者
ジョーの家	第二種 事　業	【種別】障害福祉サービス事業（共同生活援助） 【定員】4 名 【認可】2009（平成 21）年 4 月 1 日	菊地暁生

（８）佐倉大篠塚事業所（所在地／千葉県佐倉市大篠塚 1587 南部保健福祉センター内）

事業所の名称	事業区分	事　業　内　容	管理者
佐倉市立南部 児童センター	第二種 事　業	【種別】児童厚生施設（児童センター） 【受託】2014（平成 26）年 4 月 1 日	吉田信之
佐倉市立南部児童センター 学童保育所 根郷学童保育所 第二根郷学童保育所 山王学童保育所 大崎台学童保育所 寺崎学童保育所 弥富学童保育所 和田学童保育所	第二種 事　業	【種別】放課後児童健全育成事業（学童保育所） 【受託】2014（平成 26）年 4 月 1 日	
佐倉市南部 地域福祉センター	公　益 事　業	【種別】地域福祉センター 【受託】2016（平成 28）年 4 月 1 日	髙木千恵子
佐倉市南部 地域包括支援センター	公　益 事　業	【種別】地域包括支援センター 【認可】2009（平成 21）年 4 月 1 日	高梨子淳一
佐倉市障害者 生活支援センター アシスト	第二種 事　業	【種別】障害者相談支援事業（一般・特定相談） （佐倉市委託） 【受託】2002（平成 14）年 4 月 1 日	立石晃

３　理事会・評議員会

（１）理事会の開催状況

	開催日	場所	出席	欠席	主な議題
第１回 (270 回)	5 月 28 日 （土）	はちす苑 千田ホール	理事 8 名 監事 2 名	1 名	2015 年度事業報告・決算報告、役員選任、幹部人事について他
第 2 回 (271 回)	7 月 23 日 （土）	愛光本部 第一会議室	理事 9 名 監事 2 名	0 名	視障センター事業の再編、はちす苑特殊浴槽工事について他
第 3 回 (272 回)	9 月 17 日 （土）	はちす苑 千田ホール	理事 9 名 監事 2 名	0 名	2016 年度第 1 次補正予算、グループホーム施工業者選定について他
第 4 回 (273 回)	12 月 3 日 （土）	はちす苑 会議室	理事 9 名 監事 2 名	0 名	第 2 次補正予算、視障センター事業移管、定款変更、役員報酬規程について他
第 5 回 (274 回)	1 月 21 日 （土）	愛光本部 第一会議室	理事 8 名 監事 2 名	1 名	評議員選解任委員の選任、評議員候補者の推薦について他
第 6 回 (275 回)	3 月 25 日 （土）13 時	はちす苑 千田ホール	理事 8 名 監事 2 名	1 名	2016 年度第 3 次補正予算、2017 年度事業計画案、定款変更について他
第 7 回 (276 回)	3 月 25 日 （土）18 時	愛光本部 第一会議室	理事 8 名 監事 2 名	1 名	役員改選、幹部職員人事・執行理事体制への移行について他

※（　）内は通算回数

（２）評議員会の開催状況

	開催日	場所	出席	欠席	主な議題
第１回 (51 回)	5 月 28 日 （土）	はちす苑 千田ホール	13 名	5 名	2015 年度事業報告・決算報告、役員選任ついて他
第 2 回 (52 回)	9 月 17 日 （土）	はちす苑 千田ホール	14 名	4 名	2016 年度第 1 次補正予算、グループホーム施工業者選定について他
第 3 回 (53 回)	12 月 3 日 （土）	はちす苑 千田ホール	14 名	4 名	2016 年度第 2 次補正予算、定款変更、役員報酬規程について他
第 4 回 (54 回)	3 月 25 日 （土）	はちす苑 千田ホール	15 名	3 名	2016 年度第 3 次補正予算、2017 年度事業計画案、定款変更について他

※（　）内は通算回数

（３）理事・監事・顧問　　*任期/2015（平成27)年5月30日～2017(平成29)年5月29日*

役職名	氏　　名	現　職　等	選任領域区分
理事長	法澤　奉典		法人職員
副理事長	酒井綱一郎	会社取締役	地域の福祉関係者
常務理事	池田　勝也	総括施設長	法人職員
〃	河田ひろみ	障害者支援事業部長・視覚障害者支援事業部長	法人職員
〃	吉田　信之	地域支援事業部長	法人職員
理　事	伊藤　和男	千葉県視覚障害者福祉協会 代表	法人職員
〃	小川　裕二	社会福祉士事務所 代表	社会福祉有識者
〃	吉野　　智	弁護士	法律家
〃	河野　尋幸	元佐倉市福祉部長	地域の福祉関係者
監　事	滑川　里美	千葉県権利擁護支援ネットワーク 理事	社会福祉有識者
	千田　喜之	税理士事務所 所長	財務有識者
顧　問	荒木　直躬	社会福祉法人九十九会 理事長	
	岡田　正平	愛光後援会 会長	
	島本　賢一	元愛光家族協議会 会長	
	長谷川匡俊	学校法人大乗淑徳学園 理事長	
	望月　清義	前佐倉市議会議員	
	田邉　正雄	元佐倉市社会福祉協議会 理事	

（４）評議員　　*任期/2015(平成27)年5月30日～2017(平成29)年3月31日*

役職名	氏　　名	現　職　等	選任領域区分
評議員	相沢　　毅	社会福祉法人佐倉厚生会さくら苑 苑長	他の社会福祉法人の役員
〃	足立　元秀	根郷地区社会福祉協議会 会長	地域の福祉関係者
〃	石井　勢子	社会福祉士	地域の代表者
〃	石毛　滋之	愛光家族協議会 会長	利用者の家族の代表
〃	稲村多恵子	元根郷地区社会福祉協議会 会長	地域の福祉関係者
〃	遠藤　赳夫	佐倉市手をつなぐ育成会 副代表	地域の福祉関係者
〃	大賀　四郎	千葉県精神障害者家族会連合会 副理事長	地域の福祉関係者
〃	岡村　泰明	前県議会議員	地域の代表者
〃	小川　雅夫	千葉県総合教育センター教育相談員	社会福祉事業の学識経験者
〃	小林眞智子	佐倉市民生委員児童委員協議会 会長	地域の福祉関係者
〃	近藤　武雄	元佐倉山王自治会長	地域の福祉関係者
〃	三本松美和	利用者家族	利用者の家族の代表
〃	関　　次子	佐倉市障害者計画策定懇話会 委員	地域の福祉関係者
〃	高梨　和憲	愛光職員	職員代表
〃	千葉　憲司	愛光後援会「愛の灯台基金」役員	地域の代表者
〃	西村　広子	佐倉市立南部児童センター運営委員	地域の福祉関係者
〃	林　　菊盛	千葉県立桜が丘特別支援学校 校長	社会福祉事業の学識経験者
〃	松山　　毅	順天堂大学 先任准教授	社会福祉事業の学識経験者
〃	山崎　昭造	木ようの家 副理事長	地域の福祉関係者

４　職員の状況

（１）採用・退職・異動（2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日）

事業所名		2016.4.1 現員数	2016.4.1～2017.3.31 採用	異動入	異動出	退職	2017.3.31 現員数
本　部（企画室・総務課）		16（6）	0	2	2（1）	0	16（6）
地域福祉事業部	アシスト	4（1）	0	1	0	0	4（1）
	地域包括支援センター	7（1）	0	2	0	1（1）	7（1）
	福祉相談室	2	0	1	0	0	2
	南部地域福祉センター	11（9）	11（10）	2（1）		2（2）	12（10）
	南部児童センター 学童保育所	47（37）	37（37）	2（1）	2（1）	33（33）	54（43）
障害者支援事業部	ルミエール	45（8）	2	7（1）	6	2	43（8）
	めいわ	40（7）	4	2	7	2（1）	37（7）
	根郷通所センター	19（11）	2（1）	1	1	1（1）	18（10）
	リホープ	30（8）	4	6（1）	5（1）	1	29（8）
	よもぎの園	12（7）	0	2	2	0	12（7）
	ワークショップかぶらぎ	7（2）	0	0	0	1	7（2）
	ジョー家	3（3）	1（1）	0	0	0	3（3）
	栄養管理室	3（1）	0	0	0	0	3（1）
	健康管理センター	3（1）	4（3）	0	0	1	6（4）
高齢者福祉事業部（はちす苑）		95（52）	16（13）	6	9（3）	18（17）	96（50）
視覚障害者支援事業部	視障センターちば	26（13）	1（1）	1	3（1）	24（13）	27（14）
	アイサポート	1（1）	0	1（1）	0	1（1）	1（1）
	ワークショップ四街道	4（1）	1（1）	1	0	4（1）	4（1）
総　　数		375（169）	83（67）	37（5）	37（7）	91（70）	381（177）

★育休・休職・出向職員は現員から除く

★雇用形態変更・育休、休職の入出は、異動入・出にてカウントする

★年度末日退職者及び異動出職員は年度末日現員に含む

★年度当初採用者及び異動入職員は年度当初現員に含む

★事業所内での異動はカウントしない

★数字は総数で表示し、うちパート職員の数は（　）内に表示

（２）採用形態別（2016 年 4 月 1 日現在）

事業所名	総　数			正　職　員			サポート職員			パート職員		
	総数	男	女	小計	男	女	小計	男	女	小計	男	女
総　　数	375	118	257	164	78	86	42	10	32	169	30	139
本部	16	8	8	7	4	3	3	1	2	6	3	3
アシスト	4	1	3	2	1	1	1	0	1	1	0	1
地域包括支援センター	7	2	5	6	2	4	0	0	0	1	0	1
福祉相談室	2	2	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0
南部地域支援センター	11	5	6	1	0	1	1	0	1	9	5	4
児童センター・学童	47	8	39	3	0	3	7	1	6	37	7	30
ルミエール	45	20	25	34	18	16	3	1	2	8	1	7
めいわ	40	15	25	29	14	15	4	1	3	7	0	7
根郷通所センター	19	4	15	5	2	3	3	2	1	11	0	11
リホープ	30	11	19	21	10	11	1	1	0	8	0	8
よもぎの園	12	5	7	4	3	1	1	0	1	7	2	5
ワークショップかぶらぎ	7	4	3	5	4	1	0	0	0	2	0	2
ジョーの家	3	0	3	0	0	0	0	0	0	3	0	3
栄養管理・健康管理	6	0	6	4	0	4	0	0	0	2	0	2
高齢者福祉事業部	95	24	71	31	13	18	12	1	11	52	10	42
視覚障害者支援事業部	31	9	22	11	6	5	5	1	4	15	2	13

★常勤嘱託はサポート職員に含む

（３）役割等級別（2016 年 4 月 1 日現在）

事業所名	総数	正　職　員					ｻﾎﾟｰﾄ職員	パート職員	
		2 等級	3 等級	4 等級	5 等級	6 等級	1 等級	1 等級	2 等級
	299	117	35	7	5	0	36	93	6
本部	12	2	3	2	0	0	1	4	0
アシスト	4	2	0	0	0	0	1	1	0
地域包括支援センター	7	4	2	0	0	0	0	1	0
福祉相談室	2	0	1	0	0	0	1	0	0
南部地域支援センター	2	0	1	0	0	0	1	0	0
児童センター・学童	9	2	1	0	0	0	6	0	0
ルミエール	44	28	4	1	1	0	3	6	1
めいわ	40	25	2	1	1	0	4	7	0
根郷通所センター	17	2	3	0	0	0	2	9	1
リホープ	30	14	6	0	1	0	1	8	0
よもぎの園	12	3	0	0	1	0	1	7	0
ワークショップかぶらぎ	7	3	1	1	0	0	0	2	0
ジョーの家	3	0	0	0	0	0	0	3	0
栄養管理・健康管理	6	3	1	0	0	0	0	2	0
高齢者福祉事業部	75	22	7	1	1	0	11	33	0
視覚障害者支援事業部	29	7	3	1	0	0	4	10	4

★常勤嘱託、特別雇用、管理宿直、配食サービス、児童センター・学童保育所パート、地域福祉センターパート、登録ヘルパーは役割等級なし

（４）年齢構成（2016 年 4 月 1 日現在）

総　数	年　齢	18～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60 歳以上
	375	0	67	57	101	73	77
本部	16	0	1	0	6	5	4
アシスト	4	0	1	1	1	1	0
地域包括支援センター	7	0	0	4	1	1	1
福祉相談室	2	0	0	1	1	0	0
南部地域支援センター	11	0	0	0	1	3	7
児童センター・学童	47	0	1	3	5	13	25
ルミエール	45	0	16	9	11	6	3
めいわ	40	0	16	9	7	7	1
根郷通所センター	19	0	3	1	5	6	4
リホープ	30	0	11	3	12	4	0
よもぎの園	12	0	1	4	3	3	1
ワークショップかぶらぎ	7	0	0	4	2	1	0
ジョーの家	3	0	0	0	0	0	3
栄養管理・健康管理	6	0	0	1	4	1	0
高齢者福祉事業部	95	0	15	12	27	16	25
視覚障害者支援事業部	31	0	2	5	15	6	3

（５）免許･資格（2016 年 4 月 1 日現在　常勤職員）

総　数	資格所持延べ人数	社会福祉士	精神保健福祉士	介護支援専門員	介護福祉士	社会福祉主事	歩行訓練士	保育士	幼稚園教諭	小中高教員
	353	28	8	24	128	110	9	11	8	27
本部	12	1	0	1	3	7	0	0	0	0
アシスト	7	2	2	1	0	2	0	0	0	0
地域包括支援センター	19	5	3	5	3	2	0	0	0	1
福祉相談室	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0
南部地域支援センター	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0
児童センター・学童	41	0	0	0	2	1	0	7	6	25
ルミエール	55	4	0	5	27	17	0	1	1	0
めいわ	55	6	0	1	19	25	0	3	1	0
根郷通所センター	15	0	0	0	7	8	0	0	0	0
リホープ	28	2	0	1	11	14	0	0	0	0
よもぎの園	10	0	0	0	4	5	1	0	0	0
ワークショップかぶらぎ	7	2	2	0	1	2	0	0	0	0
ジョーの家	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
栄養管理・健康管理	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
高齢者福祉事業部	78	2	1	9	49	16	0	0	0	1
視覚障害者支援事業部	22	4	0	0	2	8	8	0	0	0

５　諸規程整備状況

改正日	施行日	規　　程	区分	整　備　内　容
2016.5.28	2016.5.28	パート職員給与規程	改正	アルバイトの時間給引き上げ
2016.7.23	2016.7.23	就業規則	改正	視覚障害者支援事業部の勤務時間変更
		苦情解決規程	改正	第三者委員の定数変更
2016.12.3	2017.4.1	定款	改正	制度改正に伴う改正
		役員報酬規程	創設	常勤役員、非常勤役員の報酬を規程（制度改正対応）
2017.1.21	2017.1.1	評議員選任解任委員会運営規則	創設	制度改正に伴う運営規則の創設
		育児・介護休業等に関する規程	改正	対象範囲の拡大、ハラスメント禁止の条項を追加
2017.3.25	2017.4.1	定款	改正	視覚障害者情報提供施設等に関する項目の削除 所轄庁の変更
		定款細則	改正	理事会・評議員会の議決内容等の変更
		経理規程	改正	様式名、随意契約の取扱い、拠点区分等の変更

６　リスクマネジメント（福祉サービスにかかる事故と苦情の状況）

（１）　事故の状況

	（総数）	本部	視覚障害センター	ルミエール	めいわ	リホープ	はちす苑	よもぎの園	そのかぶらぎ	ジョーの家	相談	学童
（総数）	38	0	0	7	8	4	12	0	0	0	1	6
死亡に至った事例	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
骨折等重症に至った事例	14	0	0	1	3	2	7	0	0	0	0	1
感染症発生事例	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
裂傷・打撲等通院治療事例	16	0	0	5	3	0	3	0	0	0	0	5
無断外出	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
車輌事故（物損）	5	0	0	0	1	1	2	0	0	0	1	0
誤投薬	2	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

（２）苦情

	（総数）	本部	視覚障害センター	ルミエール	めいわ	リホープ	はちす苑	よもぎの園	そのかぶらぎ	ジョーの家	相談	学童
（総数）	5	0	0	0	1	0	1	0	2	0	0	1
食事等サービス内容に関すること	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
職員の対応、行動に関すること	3	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1
介護、支援方針に関すること	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
設備、職員配置に関すること	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他の利用者に関すること	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

（3）第三者委員の活動状況

施　設	担当委員	日　付	活動内容
リホープ	天野委員	6月19日	利用者との懇談方式
		2月26日	利用者との個別面談
めいわ	引地委員	6月5日	利用者との懇談方式
		2月19日	家族との懇談方式
根郷通所センター	広田委員	1月25日	家族との懇談方式
ルミエール	天野委員	8月28日	家族との懇談方式
		2月19日	家族との懇談方式
よもぎの園	広田委員	12月2日	家族と懇談方式・利用者と個別面談
ワークショップかぶらぎ	天野委員	1月14日	利用者・家族との懇談方式
ジョーの家	引地委員	2月23日	利用者との個別面談
ワークショップ四街道	引地委員	9月11日	利用者との懇談方式
はちす苑	広田委員	12月18日	家族との懇談方式

7　事業経過（本部関係／2016.4.1～2017.3.31）

月	行事(会議　研修会　行事等)	経営企画会議	運営会議
4月	辞令交付式、管理者評価面接、障害者差別解消法研修 あいとひかりのコンサート「新垣勉」	13日･18日･25日	11日･18日･25日
5月	会計監査、事業監査、採用1年後面接 チューター研修	12日･25日	9日･23日
6月	チューター交流会、権利擁護・虐待防止研修 夜間想定防災訓練	8日･15日･29日	13日･27日
7月	辞令交付式、マネジメント研修、フェロー交流会 Aikoh フォーラム「心が楽になる生き方」	6日･13日･22日 27日	11日･25日
8月	後援会監事監査	10日･24日	8日･22日
9月	総合防災訓練、ボランティア交流会	2日･7日･23日･28日	12日･26日
10月	愛光秋まつり、日韓交流事業、防犯研修、評価者研修	28日	11日･24日
11月	マネジメント研修、バリアフリーDVD上映会	9日･16日･24日 30日	14日･28日
12月	県指導監査、中途採用職員研修	14日	12日･26日
1月	法人新年会、小学生書初め展、数字力研修 チューター情報交換会	6日･13日･20日	10日･23日
2月	Aikoh フォーラム「成年後見制度」、職員実践発表会 マネジメント研修、障害者グループホーム地鎮祭	2日･8日･15日･22日	14日･27日
3月	地震想定防災訓練、第三者委員会、退職辞令交付	2日･9日･16日 23日･29日	13日･27日

Ⅱ．視覚障害者支援事業部

Ⅱ－１　視覚障害者総合支援センターちば

2016（平成 28）年度　事業報告書

視覚障害者情報提供施設

視覚障害者総合支援センターちば

概況

当年度スローガンは、「拡げよう！誰にでも行き渡るサービスを」を掲げ取り組んできた。

2016 年 4 月に施行となった障害者差別解消法、前々年度の障害者権利条約の批准および発効を受け、当年度は読書バリアフリーの観点からマラケシュ条約の批准に向けた国内法整備（著作権法改正）の動きが活発になった。

千葉県視覚障害者福祉協会への事業移管については、職員会議での周知、2 回の意向調査を経て 25 名の職員から同意書の提出を受け、当事者団体である新法人への経営移管の準備に取り掛かった。短い期間であったが多くの協力のもと、3 月 13 日新法人設立、31 日の事業移管式を経て 2017 年 4 月より新法人としてスタートするに至った。

〇数値目標

・中期目標に掲げた「マルチメディアデイジー作成」と「ロービジョンケアの推進」3 年目。「マルチメディアデイジー作成」については、8 月実施の視覚障害サービス担当者研修会に従来の公共図書館職員に加え特別支援学校を中心に教員、そして音訳ボランティアにも参加いただき、日本障害者リハビリテーションセンターの野村美佐子氏からデイジーに関する最先端の話を聞くことができたことは意義深いことであった。ロービジョンケアについては松戸市で見えにくさの相談会・展示会の開催（同時に眼科医会との共催で手引き歩行研修実施）、鴨川市の亀田クリニックとの連携、眼科医フォーラムでの講演、眼科医会会員施設へのパンフレットの送付を行った。

〇サービス目標

・センターのパンフレット、ロービジョン支援のパンフレットを作成し各事業で活用した。

・ＩＴ支援事業では、無料スクリーンリーダーＮＶＤＡヘルプデスクの開設、ＩＴサロンの開催、パソコン斡旋事業の定着がみられた。

〇地域連携目標

・初めての試みとして「わくワークちばてんフェスタ」を文化祭的イベントとして２日間にわたり開催した。内容は文化講演会、支援事業終了利用者家族交流会、ロービジョン者のためのパソコン活用セミナー、バリアフリー上映会、その他各フロアーごとのイベント、模擬店等行い大いに盛り上がった。当事者を含め 200 名を超える参加を得た。

・点字教科書の作成、各地での点訳講習講師、千葉大ﾛｰﾋﾞｼﾞｮﾝｸﾘﾆｯｸ派遣等の貢献ができた。

〇業務遂行目標

・全員でセンターを支えるという機運が高まり、視覚障害サービス担当者研修会、わくワークちばてんフェスタ、関東地区点字図書館協議会秋期職員研修会を実行委員会形式で開催した。職務を超え積極的に動く姿が見られた。

〇人材育成目標

・センター内業務周知を目的に内部研修を４回実施した。外部団体委員としては、日本盲人社会福祉施設協議会音声選挙公報プロジェクト委員及び音訳指導員研修委員会委員、全国視覚障害者情報提供施設協会常任理事、10 年ビジョン策定委員、点訳委員会委員、障害者放送協議会災害時情報保障委員会委員など全国レベルでの貢献ができた。

（副所長　　川崎　弘）

Ⅱ－１　情報サービス課（視覚障害者情報提供施設）

１　蔵書の状況

１－１　図書保有数　（2017 年 3 月 31 日現在）

	総　数	教養書	学術書	娯楽書
点字図書	8,949 (26,569)	7,611 (22,719)	995 (2,965)	343 (885)
テープ図書	5,822 (32,754)	4,904 (29,230)	591 (2,262)	327 (1,262)
ＣＤ図書	5,293 (5,511)	4,390 (4,526)	458 (461)	445 (524)
拡大図書	201 (264)	177 (233)	19 (24)	5 (7)

※図書数はタイトル数、（　）は冊(巻)数

※テープ図書はマスターテープ　31,964 巻を別途保有

１－２　分類別図書保有数　（2017 年 3 月 31 日現在）

分　類	点字図書		テープ図書		ＣＤ図書	
	タイトル数・冊数		タイトル数・巻数		タイトル数	枚数
総　数	8,949	26,569	5,822	32,754	5,293	5,511
総　記	149	449	120	460	99	105
哲学宗教	353	1,061	284	1,589	249	274
歴　史	399	1,571	652	3,981	479	484
社会科学	1,162	3,149	686	3,467	501	570
自然科学	995	2,965	591	2,262	458	461
工　学	445	921	290	1,028	140	142
産　業	178	515	132	619	74	74
芸　術	343	885	327	1,262	445	524
語　学	247	941	86	312	45	67
文　学	2,099	8,684	2,417	16,983	2,592	2,599
児　童	2,579	5,428	237	791	211	211

１－３　年間増加図書数

	総　数	厚労省委託	購　入	寄　贈	複　製	自館製作
点字図書	192 (553)	55 (128)	3 (5)	14 (22)	8 (39)	112 (359)
テープ図書	3 (14)	2 (12)	0 0	0 (0)	1 (2)	0 (0)
ＣＤ図書	249(250)	82(82)	26(26)	9(10)	37(37)	95(95)
拡大図書	5	0	5	0	0	0

※図書数はタイトル数、(　)は冊(巻) 数

１－４　分類別年間増加図書数

分　類	点字図書		テープ図書		ＣＤ図書	
	タイトル数・冊数		タイトル数・巻数		タイトル数・枚数	
総　数	192	553	3	14	249	250
総　記	2	8	0	0	5	5
哲学宗教	7	19	0	0	6	7
歴　史	9	37	0	0	21	21
社会科学	44	108	3	14	23	23
自然科学	7	15	0	0	14	14
工　学	3	8	0	0	4	4
産　業	5	14	0	0	5	5
芸　術	16	50	0	0	29	29
語　学	6	22	0	0	3	3
文　学	66	221	0	0	106	106
児　童	27	51	0	0	33	33

２　情報サービス課事業の実績

２－１　利用者の状況　　（利用者数は 2017 年 3 月 31 日現在）

登録者総数	千葉県(千葉市)	県　外
1,647 人	1,600 人 (312 人)	47 人

新規・取消数(2016 年度中)	新規登録	登録取消
	59 人	110 人

点字触読可　519 人　不可　1,053 人（新規登録者で点字触読可 3 人　不可 56 人）

２－２　閲覧の状況

閲覧者・閲覧件数	99 件・(実人員　4 人)

２－３　貸出の状況

区　　分		総　　数	個　　人	団　　体
点　字	図　書	955 (3,197)	673 (2,240)	282 (957)
	雑　誌	256	256	0
テープ	図　書	428 (2,829)	162 (906)	266 (1,923)
	雑　誌	58	58	0
デイジー	図　書	12,698 (12,946)	10,960 (11,112)	1,734 (1,834)
	雑　誌	14,548	12,779	1,769

※図書数はタイトル数、(　)は冊(巻)

２－４　雑誌製作の状況

区　　分	雑誌の名称	発行回数	部(枚)数
録音雑誌等	週刊朝日（デイジー版）	50 回	10,409 枚
	図書館だより（デイジー版）	12 回	2,659 枚
	AIKOH（デイジー版）	3 回	79 枚

２－５　ＳＤ・ＣＦカードダウンロードサービスの状況

利用者数	タイトル数
191 人（16 人）	952（80）

※（　）はＣＦカード

２－６　ＣＤ書き込みサービスの状況

利用者数	配布数
28 人	110 枚

２－７　出版状況

区　　分	出　版　物　名	発行回数	部（巻）数
点字広報	県民だより	12 回	4,800 部
	千葉市政だより	24 回	1,390 部
	千葉市政だより区版	12 回	903 部
	千葉市障害者福祉の案内	1 回	120 部
	千葉市議会だより	4 回	191 部
	GO!GO!へらそうくん	1 回	60 部
	銚子市広報	12 回	228 部
	銚子市議会だより	4 回	75 部
	船橋市議会だより	4 回	78 部
	県水だより	3 回	434 部
テープ・CD（デイジー）広報	県民だより（テープ・デイジー）	12 回	2,400 巻
	千葉市議会だより（テープ版）	4 回	40 巻
	（同デイジー版）	4 回	62 枚
	成田市広報(議会だより含む)(テープ)	28 回	168 巻
	（同デイジー版）	28 回	298 枚
	八千代市広報（テープ）	24 回	24 巻
	（同デイジー版）	24 回	631 枚
	県水だより	3 回	229 巻
	GO!GO!へらそうくん（デイジー版）	1 回	70 枚
請負出版物（主なもの） 千葉市福祉手当支払通知書（年 6 回） 千葉県職員採用試験公表用例題点字版 千葉市職員採用試験受験案内点字版 参議院議員選挙　千葉県知事選挙　印西市長　袖ヶ浦市議 県庁点字案内　千葉市視覚障害者協会総会資料 千葉県身体障害者相談員研修資料 千葉県障害者条例相談事例報告書（点字） 千葉県・市鍼灸マッサージ師会研修資料・会報等（10 件） 千葉盲学校同窓会誌「つどい」 点字教科書・教材（八千代市教育委員会　愛媛県松山市） 郵便ポスト点字表記　パブリックコメント墨訳　　他		計 62 件	

２－８　プライベートサービス事業

点訳サービス	点訳したうえ点字プリントで提供　26 タイトル　5,141 ページ
	点訳したうえデータで提供　5 タイトル　1,157 ページ
コピーサービス	サピエ図書館よりダウンロードして提供　9 タイトル　6,530 ページ

２－９　情報サービス課その他の事業実績

□中途視覚障害者に対する点字指導‥‥‥‥‥支援事業と統合
□機器の操作法指導‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥52 名（拡大読書器等）
□プレクストーク操作説明‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥42 名（操作講習会 2 回実施）
□館内見学・講習‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥24 回 208 名
□職場体験‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥28 年度実績なし

３　ボランティア

３－１　ボランティアの養成

点訳ボランティア	養成講習会受講者‥‥24 名 課程修了者‥‥‥‥‥23 名
	受講者対象講習会‥‥24 回　48 時間　延 441 名受講
音訳ボランティア	養成講習会受講者‥‥38 名 課程修了者‥‥‥‥‥20 名
	受講者対象講習会‥‥20 回　40 時間　延 502 名受講

３－２　ボランティアの育成

点訳ボランティア

（１）地域講習（千葉県）

会場	参加		延日数	延時間	講師 延人員
	実人員	延人員			
松戸市点訳会	37	37	1	4	1
柏市社会福祉協議会	24	213	10	20	10
船橋市身体障害者福祉ｾﾝﾀｰ	10	47	5	10	5
鎌ヶ谷市点訳友の会	20	41	2	4	2
四街道社会福祉協議会	11	97	10	25	10
船橋市（グループうさぎ）	33	38	1	2	1
八千代市障害者福祉センター	7	29	5	10	5
木更津市ふれあいセンター	10	19	2	10	2
茂原市ふれあいセンター	9	18	2	10	2
合計	169	539	38	95	38

（２）地域講習（千葉市）

会　　場	参　加		延日数	延時間	講　師 延人員
	実人員	延人員			
千葉市療育センター	24	209	10	20	10

（３）奉仕員実務者研修

	回数	実人員	延人員
講習会	6	144	520

（４）専門点訳など

内容	回数	実人員	延人員
古文	7	4	26
数学	7	4	24
英語	6	13	69
楽譜	6	7	17
情報処理	8	6	40
合計	34	34	176

音訳ボランティア

（１）奉仕員研修会

※総学習

年間　１２　回	受講者　１２２名	延　５２６名

※週刊朝日勉強会

年間　３　回	参加者　　６８名	延　８４名

※相談会

年間　１１　回	参加者　　２９名	延　５０名

※校正勉強会

年間　６　回	参加者　２３名	延　１０８名

テキスト化ボランティア

※勉強会

年間　６　回	参加者　２２名	延　７３名

３－３　ボランティアの活動実績（自館蔵書製作分）

ボランティア団体名・会員数	活動実績
千葉点字図書館点訳会・161 人	点訳　114 タイトル　382 冊　51,624 頁
千葉点字図書館音訳会・186 人	音訳　96 タイトル　96 枚　705 時間 55 分
テキスト化（団体未結成）・19 人	テキストデイジー　3 タイトル　1,242 ページ マルチメディアデイジー　2 タイトル　74 ページ 計 5 タイトル　1,316 ページ

Ⅱ－２　生活支援課（視覚障害者自立支援事業）

2016(平成 28)年度年間総利用者数　200 名（内　再申請 10 名）

１　年間利用件数

実施機関名	利用件数	実利用者
千葉県	734	89(7)
千葉市	216	37(3)
船橋市	560	32
松戸市	342	38
柏市	97	4

２　訓練別実績

内　　容	千葉県	千葉市	船橋市	松戸市	柏市	合計
インテーク面接			12			12
歩行訓練	384	125	35	72	9	625
日常生活動作訓練	82	24	57	25		188
点字訓練	23	48	98	77		246
音声ワープロ訓練	206	11	32		88	337
ＩＴ			25	48		73
生活訓練・入所						
助言・相談			89	103		192
相談（家族支援）			1			1
スポーツレクリエーション支援						
関係機関との連絡・調整			36	17		53
カウンセンリング						
電話相談			130			130
自立支援実践教室			45			45
その他の訓練指導	11					11
福祉医療連携事業	28	8				36
合　　計	734	216	560	342	97	1949

Ⅱ－３　その他の公益事業

１　ホームヘルパー等養成研修事業

同行援護従業者養成研修（一般課程）	2 回	受講者　29 名	修了者　29 名
同行援護従業者養成研修（応用課程）	2 回	受講者　23 名	修了者　23 名

他に市川市委託事業一般課程　1 回　受講者　19 名　　修了者　18 名

２　福祉用具販売事業

補装具・日常生活用具取扱い件数	167 件（　県内　30 市町村）

３　障害者ＩＴ支援事業（愛光・あかね・トライアングル西千葉共同事業体　代表団体　社会福祉法人愛光として受託）ここでは、愛光の実績のみ掲載する

（１）ＩＴサポートセンター運営事業

ＩＴに関する利用相談	320 名・延 427 回
ＩＴに関する情報提供等	随時（相談に含む）
ＩＴ専門技術講習（体験講習）	22 名・延 23 回
ＩＴ専門技術講習（発展講習）	151 名・延 250 回
ＩＴサロン	48 名・６回開催

（２）パソコン教室

回　数	時　間	受講実人数	受講延べ人数
10	160	20	160

Ⅱ－４　運営管理

１　職員状況

職　名	2016.4.1 現員数	2016.4.1～2017.3.31				2017.3.31 現員数
		採用	異動入	異動出	退職	
総数	26(13)	1(1)		3(1)	24(13)	27(14)
所　長	1(1)				1(1)	1(1)
副所長	1				1	1
主　任	1				1	1
司　書	1				1	1
貸出閲覧員	1				1	1
点字指導員	1				1	1
校正員	2				2	2
音訳指導員	1				1	1
録音員	1				1	1
IT 支援員	2(1)				2(1)	2(1)
製版印刷員	4(4)				4(4)	4(4)
事務員	3(3)			1(1)	2(2)	3(3)
支援専門職	8(4)	1(1)		2	7(5)	9(5)

★育休・休職中職員は現員から除くも現員のままとする
★雇用形態変更・育休、休職の入出は、異動入・出にてカウントする
★年度末日退職者及び異動出職員は年度末日現員に含む
★年度当初採用者及び異動入職員は年度当初現員に含む
★数字は総数で表示し、うちパート職員の数は（　）内に表示
★網掛けについては、総数に表示していない
★主任１名　音訳指導員兼務

２．職員研修状況

施設内			施設外		
月・日	研修名	人数	月・日	研修名	人数
4/26	法人研修「障害者差別解消法」	3	5/13	点字版選挙公報研修会	1
			5/18	音声版選挙公報研修会	1
5/20	内部研修「用具、生活支援事業」	20	6/2・3	ロービジョンセミナー（日本点字図書館）	2
6/14	法人会計研修	1	6/3	関点協職員研修（日点）	3
6/30	法人研修「権利擁護・虐待防止」	3	6/9	全視情協　団体長研修(大阪)	2
			7/23	ロービジョンセミナー（東京）	1
7/5	法人会計研修	1	8/23～25	点字指導員資格認定講習会（岐阜）	1
7/20	法人マネジメント研修	1			
8/2	法人会計研修	1	9/29・30	サピエ研修（代々木）	4
8/19	内部研修「プレクストーク」	20	10/19～21	全視情協大会(熊本)	5
8/24	マルチメディアデイジー研修会	7	11/17･18	関点協秋期職員研修（千葉）	10
			11/19	教科書点訳連絡会セミナー（名古屋）	2
10/24	法人評価研修	1			
1/16	法人会計研修	1	12/12	同行援護指導者資質向上研修	1
2/10	支援研修会	8	2/23	会計決算研修（汐留）	1
2/17	内部研修「ワークショップ四街道について」	20			

３　行事実施状況

月	行　事　内　容
4 月	点訳・音訳者養成講座受講者選考
5 月	点訳・音訳者養成講座開講（～29 年 3 月）　内部研修　テキスト化ボランティア説明会　見えにくさの相談会・展示会（～29 年 2 月）（亀田クリニック）
	根郷中福祉学習～7 月　日本盲人会連合大会（青森）
6 月	松戸市同行援護従業者養成研修（～7 月）（一般）　日本盲人社会福祉施設大会（熊谷）
	障害者ＩＴ支援事業によるパソコン教室開講（～29 年 3 月）
7 月	関東地区点字図書館協議会職員研修
	情報支援指導者講座（～29 年 1 月）　松戸市同行援護従業者養成研修（応用）
8 月	市川市同行援護授業者養成研修（～8 月）（一般）
	内部研修　四街道市夏休み小学生ボランティア体験
9 月	マルチメディアデイジー研修会・視覚障害サービス担当者研修会
	地震想定頭上訓練　わくワークちばてんフェスタ 2016
10 月	法人秋まつり
11 月	船市同行援護従業者養成講習（～11 月）（一般）
12 月	関東地区点字図書館協議会職員研修（千葉）
	船橋市同行援護従業者養成講習（応用）
2 月	ロービジョン用具展示会・眼科関係者向け手引き講習会（松戸）
3 月	内部研修　自主防災訓練
月例	消防訓練
	職員会議　連絡調整会議　各部門会議

Ⅱ－２　アイサポート

2016（平成 28）年度　事業報告書

特定相談支援事業所

アイサポート

概況

開設初年度はスローガン「拡げよう！誰にでも行き渡るサービスを」を掲げ取り組んできた。船橋市西習志野という慣れない地域でのスタートであった。船橋市はセルフプランを勧めることが多く、市で相談支援事業所を斡旋することがないため、他市と比べ、特に新入りで名前の浸透していない事業所にとってやりにくさのあったことは否めない。

視覚障害に特化するということもあり、他事業所からの相談は多く、支援事業との関係での相談も多かった。ただ、計画相談に結び付くものは皆無といっていい状態であった。

このたびの視覚障害者情報提供事業の新法人（社会福祉法人千葉県視覚障害者福祉協会）への経営移管に伴い、年度末に船橋市における事業を廃止。事務所を視覚障害者総合支援センターちば内へ移し、平成 29 年 4 月 1 日付にて四街道市にて改めて開設の運びとなった。

〇以下、掲げた各目標についての報告事項

（１）数値目標　　「計画相談 40 件以上」

・無謀な数字であった。相談件数自体は少なくなかったと思う。

（２）サービス目標　　「船橋市の障害福祉サービスを知る」

・市内の相談支援連絡協議会（FAS－net）に加盟し、例会、委員会、研修会へ参加した。1 年という短い期間であったが船橋市の様子はわかった。

（３）地域連携目標　　「地域資源を知る」「船橋市相談支援連絡協議会への参加」

・相談支援連絡協議会（FAS－net）に加盟し、視覚障害に関する相談は受けるようにした。

（４）業務遂行目標　　「障害者虐待防止法、障害者差別解消法、職員倫理綱領を遵守した業務運営」、「法人内総合相談窓口アシストとの連携」

・法の遵守はできたが、地域がらアシストとの連携には至らなかった。

（５）人材育成目標　　「法人内総合相談窓口アシストにおける定期的な研修の実施」

・アシストにおける研修はできなかったが、船橋市相談支援連絡協議会（FAS－net）における研修には積極的に参加した。

四街道市へ開始届を提出した途端、20 数件の依頼があった。市としての取り組み方の相違が出た形である。船橋市とは支援事業との関わりが残ることとなる。

（管理者　川崎　弘）

２．2016 年度実績報告

●相談実績

相談件数	総件数	実人数	視覚障害	視覚以外の障害				障害実人数	その他	
				身体障害	知的障害	精神障害	その他		家族等	関係機関等
	174	87	169	4(4)			5(1)	174(4)	7	131
			（　）内は重複障害数で内数							

相談方法	訪問	来所	同行	電話	メール	その他	合計
	15	19	2	75	16	60	187

●内容別相談件数

相談内容	福祉サービス利用等に関する	障害に関する	生活及び生活技術に関する	就労・就学に関する	心理的サポート	家族等に対する	関係機関との調整	その他	合計
	112(36)	44(26)	52(34)	12(6)	4(2)	19(14)	124(75)	84(49)	451(242)
	（ ）内は訓練事業との連携数で内数								

●計画相談実績

サービス等利用計画書作成件数	新規	継続	合計
	3	1	4

モニタリング報告書作成件数	6

●住居地別

船橋市	船橋市以外	船橋市以外の市町村内訳(内数)
74	100	千葉市中央区 18・稲毛区 27・花見川区 6・緑区 2 若葉区 17・市川市 1・市原市 2・東金市 3・流山市 1・野田市 6・松戸市 4・南房総市 1・八千代市 3・四街道市 8・群馬県伊勢崎市 1

３　運営管理

３－１　職員状況

職　　名	2016.4.1 現員数	2016.4.1～2017.3.31				2017.3.31 現員数
		採用	異動 入	異動 出	退職	
総　　数	2（1）		1（1）		2（1）	2（1）
管理者	1兼				1兼	1兼
相談支援専門員	1（1）		1（1）		1（1）	1（1）

★数字は総数で表示し、うちパート職員の数は（　）内に表示。

３－２　職員研修の状況

施　　設（内）			施　　設（外）		
月/日	研　修　名	人数	月/日	研　修　名	人数
7/13	FAS―net 研修（事例）	2	1/31	相談支援専門員現任研修	1
8/19	FAS―net 研修（事例）	1	2／2	相談支援専門員現任研修	
10/27	FAS―net 研修（事例）	1	2／3	相談支援専門員現任研修	
2/23	FAS―net 研修（事例）	1			

３－３　行事等

月/日	行　事　内　容
4/26	FAS-net 例会
7/5	FAS-net 例会
9/30	FAS-net 例会
11/7	FAS-net 政策委員会
11/9	船橋市指導監査
12/20	FAS-net 例会
1/16	船橋市集団指導
1/26	FAS-net 政策委員会
3/24	FAS-net 例会

Ⅱ－３　ワークショップ四街道

2016（平成 28）年度　事業報告書

就労継続支援Ｂ型

ワークショップ四街道

概況

スローガン「働きながら、さらなる可能性をみつけよう」を継続して掲げ取り組んできた。利用者それぞれが区切った工程や作業分野ごとの職人誕生に加え、日々の作業や取り組みから仕事に対する意欲の向上が目に見えて高まってきた。

（１）数値目標　登録者数：目標 28 名→実績 24 名　稼働率：目標 70%→実績 72.4%

当年度登録者は 24 名でスタート。登録終了者のほとんどは他就労支援施設への移籍が理由だったが、1 名、原因不明の体調不良からの入院のまま亡くなられるという、利用者・職員ともにあまりにも衝撃的な出来事があった。そんな中ではあるが、登録者数は変化なくも、稼働率としては 3 月の最終日に 80%越えを果たし、年間としても目標を達成する事が出来た。

（２）サービス目標　利用者および家族との関係づくり、作業・余暇活動の提供

2015 年度平均工賃　7,001 円　　→　2016 年度平均工賃　6,900 円

作業提供に当たっては、下記の通り新たな企業からの受注も増えたが、全体の作業種目としては大きく変わらず。ただ、マッサージ施術者の利用日が不定期なこともあってか、マッサージによる収入は減少した。その分平均工賃も上記数値の通り下降となった。

送迎に来る家族とは会った際に直接、なかなか会う機会の少ない家族とは手紙等でのやりとりで行事等の連絡や本人の状況などを情報交換した。利用者の交替により、年齢層も変わり、それに伴い利用者間での会話も若干増えてきた様子が伺えた。

（３）地域連携目標　地域資源・近隣商店との交流

前年度に立ち上がった、「四街道市障がい者しごと受注協議会」による活動で、様々な企業からの受注を受け、新たな作業提供も受けることが出来た。

近隣商店との交流は、何度か出品などの話が立ち上がるも、機会に恵まれずに実現は叶わなかった。ただ、「まあるい広場」という他就労支援施設にて行っているコンテストに、利用者が描いた自主生産品を出展するなど、他事業所との連携を図ることは出来た。

（４）業務遂行目標　虐待防止・倫理綱領の遵守、業務手順書見直し、各所との連携強化

継続して事業所朝礼の前に職員間ミーティングを行い、利用者状況はじめ情報共有の時間として業務遂行の一助となっている。

また、就労会計関係の見直しが行われ、その関係で社会保険労務士を招いての助言の下、工賃規定の見直しを行った。

（５）人材育成目標　職員間の意志疎通を図る、外部研修への積極的な参加

2016 年 3 月末にて、事業立ち上げ時から一緒に働いていた職員 2 名が退職となった。4 月から異動も含め 2 名入職であったため職員数としての変化はないが、これまでの業務に慣れていた職員から、ほぼ一からのスタートとなった職員へと替わったことで、良くも悪くも多くのことが変化している。

（４）で触れた通り、業務前のミーティングを行い、利用者支援の情報や作業内容の確認等、職員間での情報共有を図り、入職者 2 名とは特に意志疎通に繋げている。

内部・外部含め研修への参加は昨年度と比べて劇的に減ってしまった。理由としては、上記の職員入れ替わりにより研修へ職員を出す機会が増やせなかったことがあげられる。次年度はぜひ、機会を増やしたい。　　（サービス管理責任者　山本敬三）

１　施設利用状況（2016.4.1～2017.3.31）

１－１　利用状況

【定員２０名】

	延べ年間通所利用者			1日平均		異動	
	定員	契約数	現員数	利用数	稼動率	入所	退所
年間	5,040	6,029	3,649	12.1	72.4	6	5

１－２　入・退所状況

	総数	就労	学校	在宅	施設等	入院	死去	その他
入所者と入所前状況	6	1	1	4	0	0	0	0
退所者と退所事由	5	0	0	1	3	0	1	0

１－３　出身地別利用状況

出身地	男	女	合計
四街道市	7	7	14
千葉市	2	2	4
八街市	1	2	3
佐倉市	0	1	1
大和市	1	0	1
松戸市	1	0	1

２　利用者の状況

２－１　年齢構成

（2016. 4. 1現在）

	総数	～19	20～	30～	40～	平均年齢	最高齢	最年少
総数	24	1	2	5	17	44.2	78	18
%	100	4	8	21	67			
男	13	0	1	3	9	42.3	78	25
女	11	0	1	2	4	42.5	68	18

２－２　療育手帳による障害程度

（2016. 4. 1現在）

	総数	最重度	重度	中度	軽度	不所持
総数	24	0	0	0	3	21
%	100	0	0	0	12.5	87.5
男	13	0	0	0	1	12
女	11	0	0	0	2	9

２－３　身体障害者手帳による障害程度

（2016. 4. 1現在）

	総数	1級	2級	3級	4級	5級	6級	不所持
総数	24	7	6	1	1	0	0	9
%	100	29	25	4	4	0	0	38
男	13	4	3	1	1	0	0	4
女	11	3	3	0	0	0	0	5

２－４　精神障害者保健福祉手帳による障害程度

（2016. 4. 1現在）

	総数	1級	2級	3級	不所持
総数	24	2	11	1	10
%	100	8	46	4	42
男	13	2	7	0	4
女	11	0	4	1	6

２－５　就学状況（最終学歴）

（2016. 4. 1現在）

	総数	普通学校義務	特別支援義務	普通高等学校	特別支援高等部	千葉盲	その他	不就学
総数	24	7	1	13	0	2	1	0
%	100	29	4	54	0	9	4	0
男	13	4	0	8	0	1	0	0
女	11	3	1	5	0	1	1	0

２－６　就労経験

（2016. 4. 1現在）

	総数	就労経験あり	就労経験なし
総数	24	13	11
%	100	59.0	40.9
男	13	8	5
女	11	5	6

３　利用者の障害の状況

３－１　視覚障害

（2016. 4. 1現在）

	総数	盲	弱視	小計	晴眼
総数	24	3	2	5	19
%	100	13	8	21	79
男	13	2	1	3	10
女	11	1	1	2	9

３－２　障害の状況（総括）

（2016. 4. 1現在）

	総数	視覚	肢体	聴覚	音声言語	内部	知的	精神	重複
総数	24	5	8	1	0	0	0	10	0
%	100	21	33	4	0	0	0	42	0
男	13	2	5	0	0	0	0	4	0
女	11	3	3	1	0	0	0	6	0

★重複障害は視覚・聴覚・音声言語・精神・知的の５障害のうち３以上に該当するもの。

4　援助サービスの実施状況

作業	＊マッサージ 視覚障害者でマッサージの資格を持った施術者（利用者）2 名が、センター来館者を中心にマッサージサービスを行う。 ＊センター内清掃 センター内の共有スペース（階段・エレベーターホール・流し台・各階トイレ・駐車場等）を週 2～3 回清掃している。基本的に、掃く・拭く・磨く作業を行う。 ＊箸入れ 割り箸の検品・包装作業を行う。 ＊自主製作品作業 リサイクル封筒・カレンダーの製作。　排紙用の点字用紙をリサイクルして、型取り・型消し・折込み・のり付け・ミシン・装飾する。 ＊点字物の封入 選挙関連や会報等の点字物封入・宛名シール貼り・印押し作業し発送。 ＊草刈り 施設外支援とし宅地、田畑等に出向き、刈払い機による草刈り作業、レーキや熊手による草集め作業。 ＊議事録作成 会議の音声録をパソコンで文書・記録化する。 ＊軽作業 ダイレクトメールの封入や、冊子の並べ替え・袋詰め、サンプル品の貼り付け・袋入れ、加工食品のふたへのシール貼り、革財布の検品等 ＊庁舎内販売・作業 四街道市役所の食堂で、自主生産品の販売（月に 1・2 回） 四街道市役所で開封、仕分け等（年に 3・4 回） ＊図書作業 貸出、返却、司書補助等 ＊ＣＤ用封筒作成 押し印、刻印シール貼り、切り込み ＊点字の刻印作業 名刺・封筒等へ点字プレス機を使用し、刻印する。

５　運営管理

５－１　職員状況

職　　名	2016.4.1 現員数	2016.4.1～2017.3.31				2017.3.31 現員数
		採用	異動 入	異動 出	退職	
総　　数	5（1）	1	1	0	4（1）	5（1）
管理者	1兼					1兼
サービス管理責任者	1					1
【就労Ｂ型】						
職業指導員	1					1
生活支援員	2（1）	1（1）	1		4（1）	2（1）

★数字は総数で表示し、うちパート職員の数は（　）内に表示。

５－２　職員研修の状況

施　　設（内）			施　　設（外）		
月/日	研　修　名	人数	月/日	研　修　名	人数
6/30	利用者権利擁護と虐待防止	1	3/8	就労研修	1
7/20	マネジメント研修	1			
8/16	就労支援会計研修	5			
11/24	マネジメント研修	1			

５－３　行事実施状況

月/日	行　事　内　容
4/16	奉仕作業
5/21	バーベキュー
6/20	販売会「大きなテーブル」出店
7/16	調理実習・ＤＶＤ上映会
9/16～17	わくワークちばてんフェスタ 2016
10/8	「愛光秋まつり」出店
11/25	ホテルバイキング
12/17	忘年会
1/21	新年会
3/18	お疲れ様会

Ⅲ. 障害者支援事業部

2016（平成 28）年度　事業報告書
障害者支援施設
ルミエール

概況

地域の福祉課題を受け止め、施設としての役割を果たせるよう「耳を澄まそう地域の声に」を年間のスローガンとし、支援に取り組んだ。ショートステイやボランティアの受け入れ、また、利用者の外出機会の拡大を目指しグループ外出を計画的に行った。自分で体調不良を訴えることが困難な利用者が多いため、日常の健康管理に留意し、精神的に落ち着いた日常生活を送っていただけるよう努めた。７月に起きた「津久井やまゆり園」の事件を受けて、ご家族からも、不安な気持ちが語られた。普段の生活、日中活動、行事などを行うなかで、生きていく喜びを一緒に創っていく支援を今後も行っていきたい。

〇数値目標

・施設入所（稼働率）：目標 98%　⇒　実績　96.3%　・生活介護（稼働率）：目標 99%　⇒　実績　96.8%・短期入所（稼働率）：目標 60%　⇒　実績　62.4%

施設入所に関しては、3 名の方が亡くなられた。又、男性 1 名は、病院に約３か月入院された後、特別養護老人ホームに入所された。10 月、3 月に新規に男性が入所利用された。

〇サービス目標

個別支援計画を共有するため、まずは、利用者の普段の生活・様子の情報の共有に努めた。介護技術の向上を図るため、摂食嚥下について施設内研修や法人内高齢者施設での職員研修を実施した。環境美化の取組みとして、廊下の壁塗り替え、カーテンの交換、月１回の職員による美化活動を行った。

施設の年間行事計画に基づき季節ごとの行事を実施した。運動会、クリスマス会等、いくつかの行事に、ご家族も参加いただいた。

〇地域連携目標

短期入所は、利用される方の情報共有に努めた。施設の行事に多くのボランティアの方に参加いただいた。ホームページを活用しての地域への情報発信ができなかったが、次年度あらためて取組みたい。

〇業務遂行目標

職員倫理綱領の厳守については、毎月のホーム会議、スタッフ会議で普段の支援について振り返り話し合いをおこなった。事故については、７件（骨折１件、打撲１件、転倒等による怪我４件、誤投薬１件）発生した。リスクマネジメント委員会を中心に、事故やヒヤリハットの報告を検証し、情報の共有と事故軽減の取組みを行った。

〇人材育成目標

新任職員、異動職員にはチューターがついて指導を行った。チューター制度がより機能するようチューター以外の職員のフォローが一層求められる。

〇防犯対策

防犯対策として、非常通報装置、扉の鍵の修繕、窓ガラスに防犯フィルムを貼る等、ハード面での対応を行った。

◎第 2 期中期経営計画(2014～2016 年度)最終年度報告

稼働率：３年平均目標　入所 98%　⇒　３年平均 96.2%、短期入所 50%　⇒　３年平均 59.1%

地域交流：9 月に行われた行事「コーヒーショップ」、また、「新年会」での太鼓の演奏他、地域から多くのボランティアの方に参加いただいた。年間、述べ約 260 名のボランティアの方に来所いただいた。

（施設長　池田　浩一）

1　施設利用状況（2016.4.1～2017.3.31）

1－1　利用状況

【定員 60 名】

	施設利用者			1日平均		空所				異動	
	定員	契約数	現員数	利用数	稼動率	総数	欠員	入院	外泊	入所	退所
年間	60	21,568	15,612	57.8	96.3	799	332	211	256	2	4

1－2　入・退所状況

	総数	就労	学校	在宅	施設等	入院	死去	その他
入所者数と入所前状況	2			1		1		
退所者数と退所事由	4				1		3	

1－3　短期入所（ショートステイ）利用状況

【定員３名】

	利　用　者				
	定　員	延定員数	総　数	1日平均	稼働率
年間	3	1,095	545	1.5	50

1－4　地域生活支援事業(日中一時支援事業)利用状況

	利　用　者	
	総　数	1日平均
年間	0	0

1－5　出身地別利用状況

【千葉県】	男	女
市川市	2	0
松戸市	1	2
船橋市	1	0
印西市	1	0
佐倉市	1	2
習志野市	1	0
市原市	0	1
君津市	3	0
成田市	1	3
館山市	1	0
富里市	1	0
大網白里町	1	1
九十九里町	1	0
南房総市	1	0
計	16	9
合計	25	

【千葉市】	男	女
中央区	0	2
美浜区	1	0
若葉区	0	1
稲毛区	1	0
花見川区	0	2
計	2	5
合計	7	

【埼玉県】		
春日部市	1	1
草加市	1	0
計	2	1
合計	3	

【神奈川県】		
横浜市	0	1
相模原市	1	0
計	1	1
合計	2	

【東京都】	男	女
千代田区	1	0
江東区	1	0
品川区	1	0
大田区蒲田	1	0
大田区北	1	0
港区	1	0
世田谷区北沢	2	0
板橋区赤塚	1	0
板橋区志村	2	0
練馬区石神井	1	0
目黒区	1	0
足立区西部	2	0
渋谷区	0	1
葛飾区	2	0
江戸川区	1	1
あきるの市	1	0
調布市	1	0
町田市	1	0
計	21	2
合計	23	

※佐倉市住所所持者　　30 名

２　利用者の状況（27 年度中在所した全利用者）

２－１　年齢構成（年齢は 2016. 4. 1 現在）

	総数	～19	20～	30～	40～	50～	60～	70～	平均年齢	最高齢	最年少
総数		1	5	8	23	16	3	4	46	87	19
%	100	1.7	8.3	13.3	38.3	26.7	5	6.7			
男	42	0	3	6	16	13	2	2	46	72	20
女	18	1	2	2	7	3	1	2	46	87	19

２－２　障害区分

	総数	1	2	3	4	5	6	重度障害者支援加算
総数	60					6	54	34
%	100					10	90	56.6
男	42					2	40	26
女	18					4	14	8

２－３　身体障害者手帳による障害程度

	総数	1級	2 級	3級	4級	5級	6級	不所持
総数	60	56	0	0	0	1	0	3
%	100	93.3				1.7		5
男	42	41	0	0	0	1	0	0
女	18	15	0	0	0	0	0	3

２－４　療育手帳による障害程度

	総数	最重度	重度	中度	軽度	不所持
総数	60	7	28	5	3	19
%						
男	42	4	13	1	1	9
女	18	3	15	4	2	4

３　利用者の障害の状況

３－１　視覚障害

	総数	盲	弱視	小計	晴眼
総数	60	48	7	55	5
%	100	80	11.7		8.3
男	42	33	7	40	2
女	18	15		15	3

３－２　知的障害

	総数	最重度	重度	中度	軽度	小計	非該当
総数	60	20	37	0	0	57	3
%	100	33.3	61.7			95	5
男	42	10	31	0	0	41	1
女	18	10	6	0	0	16	2

３－３　障害の状況（総括）

	総数	視覚	肢体	聴覚	音声言語	内部	知的	精神	重複
総数	60	55	25	5	37	1	57	1	38
%	100	91.7	41.7	8.3	61.7	1.7	95	1.7	63.3
男	42	40	19	3	27	1	41	0	28
女	18	15	6	2	10	0	16	1	10

★重複障害は視覚・聴覚・音声言語・精神・知的の５障害のうち３以上に該当するもの。

３－４　日常生活動作（ＡＤＬ）介護の状況

総数	排泄	食事	入浴	着脱衣	ベッドメイキング	移動（内）	移動（外）
常時全面で介助	24	13	56	15	59	28	58
%	40	21.6	93.3	25	98.3	46.6	96.6
常時多面で介助	23	21	3	28	0	18	0
%	38.3	35	5	46.6	0	30	0
時々部分的に介助	12	21	1	12	1	12	0
%	20	35	1.7	20	1.7	20	0
点検･配慮程度	1	4	0	4	0	1	2
%	1.7	6.7	0	6.7	0	1.7	3.4
自立	0	1	0	1	0	1	0
%	0	1.7	0	1.7	0	1.7	0.0

３－５　コミュニケーションの状況

	言語(会話)	意思表示	一般文字	点字	盲人用ワープロ
不可	30	6	59	60	60
%	50	10	98.3	100	100
一部で可能	23	45	0		0
%	38.3	75	0		0
だいたい可能	4	6	1	0	0
%	6.7	10	1.7	0	0
支障なし	3	3	0	0	0
%	5	5	0	0	0

4 援助サービス

4－1 援助サービスの実施状況

項　目	援 助 サ ー ビ ス の 実 施 状 況
日常生活ケア	援助サービスの実施にあたっては、居住ブロック単位で、日常生活の基本となるケアを中心にしたサービスを行っている。 【住居】 1 人部屋・2 人部屋を提供することにより、情緒の安定・プライバシーに配慮している。また、衛生保持・感染症予防のためプラズマクラスター機能付き空気清浄機を各共用スペースに設置。日常の管理として次亜塩素酸消毒液（オキシブィルファイブ）を使用し居室や食堂、トイレの殺菌・消毒を行っている。また年間を通し食前に手指消毒を行っている。 共用空間の環境改善を目的に、利用者居室前の廊下と食堂の壁の塗装を塗り直した。また、装飾活動後のテープ残り等が目立って美化を損ねるため、ピクチャーレールを設置し、綺麗にした壁を長く維持できるように工夫した。更に長年使い続けたカーテンを全て新しい物に変更した。 今年度より月に 1 度、環境美化デーを設定し、日頃手の回らない箇所の清掃や環境改善のための修繕等を行い、環境美化向上に努めた。 一昨年より毎年導入している超低床ベッドを今年度も 1 台導入した。今回導入したベッドは、やむを得ず身体拘束で夜間に四点柵をし転落防止していた利用者に対して、超低床ベッドを使用することで転落のリスクが軽減し四点柵をしなくても済むようになり身体拘束が減少することができた。 【食事】 ブロック単位での食事の提供を行っている。各ブロックでは、食事時に人が集中することによる騒がしさの緩和、車椅子使用者の増加、嚥下機能低下に伴う誤嚥予防等に配慮し、全員そろっての食事ではなく時間差をつけ食事支援を行っている。また、体調不良等身体状況の変化、栄養管理や摂食状況に配慮した食事形態や提供の工夫を行った。本年度も全利用者に対し、栄養ケア計画を実施し定期的にモニタリングすることにより利用者の個別の栄養管理を実施した。全職員を対象に摂食嚥下について、内部研修を実施した。研修で学んだことを生かし歯磨き後のうがいについて、うがいした後の水を吐き出すことが難しい利用者が多いため、使い捨ての口腔ケア用清拭を使用し、利用者の食後の歯磨き後の口腔ケアに取り組んだ。 【入浴】 サマータイム（6～9 月）は週 3 回、それ以外は週 2 回の入浴を基本として実施。その他、活動状況、皮膚疾患等個々の方の状況に応じて適宜シャワー浴を行っている。利用者の高齢化・重介護化に伴い、特殊浴槽(座位型入浴装置、ミスト浴)と普通浴槽(大・小浴)を活用し、高齢者はもとより、さまざまな身体状況の方へ安全に配慮し入浴サービスを提供している。 【排泄】 全介助の方が多く、支援においては排泄傾向の把握と本人に対応した定時排泄に努めている。特に排便に関しては、便秘傾向の方も多く、主治医への相談と内服、便秘改善目的で補助食品を提供している。身体状況、介護度の変化等あるかた数名については、排泄と摂取水分量(イン・アウト)を把握し、健康管理面での指標につなげている。 本年度より使い捨てのオシボリ機、プルースを全ホームに導入し、より清潔で安心な排泄ケアを実施している。 ホーム活動は従来どおりの居住ブロック単位で、午前の余暇活動は居住ブロックに関係なく当日の担当者が横断的にまわり、そのつど内容を検討し実施。 全体的な傾向として、高齢化・重度化に伴い集団での活動よりも、個々の嗜好・ペースにあわせた個別活動に重点をおいた活動が主体となっている。 日中活動としても年 3 回実施し、水遊び等季節に合わせた活動を行った。 【ホーム活動】 各ホーム活動においては、月 1 回程度おやつ作りや誕生会等ミニイベントを実施するほか、朝の会、造形等以下の内容を行った。 《朝の会》　1 日の予定、勤務スタッフの紹介、食事メニューの紹介、連絡、

ホーム活動 ・余暇活動		ラジオ体操等。利用者への情報提供を行う。 《音楽》　カラオケ、音楽鑑賞等を通じ、音楽に親しむとともに、情緒の安定を図った。 《造形》　紙ちぎり、貼り絵など、行事で掲示・使用する作品等を中心に、活動した。書初め等季節にそった工夫も見られた。 《食事会》　デリバリー等注文し、個々の嗜好に合わせたメニューを提供。給食とは異なる雰囲気、味わいを堪能した。 《個別外出》利用者と職員が一対一対応で、車を使って外出や散歩に出かけた。外食や買い物は、利用者の大きな楽しみとなっており、ささやかではあるが地域との貴重な交流の場面でもある。何より利用者個々の好みに応じたサービスを心がけている。 【余暇活動】 《歩行・散歩》ホーム活動も準じる歩行能力と体力維持をはかり、楽しく歩くことを目的に、敷地内遊歩道の歩行、近隣公園への散歩を行った。十分な時間とはいえないが、高齢化による利用者の体力・筋力低下が見られる中、天候のよい時など日光浴も行った。 《朗読》数名でテーブルを囲み、昔話・童話等の読み聞かせを行った。流ちょうな職員の声に、穏やかな表情で耳を傾ける様子がみられた。 《フットマッサージ》専用の容器を使用し、個別に行った。アロマを入れて香りを楽しむ等の工夫も行った。 《喫茶タイム》　ＢＧＭの音、挽きたてのコーヒーとクッキー等用意し、ホームを一歩離れ（なのはな広場や職員室）、いつもと異なる場所と職員の声掛け等味覚・嗅覚・聴覚等五感で感じるゆったりした雰囲気を楽しんでもらうことを心がけた。
日中活動	その他活動	【音楽会】 3ホーム合同で開催した。流れる音楽から季節や年代を感じ、アクティブに、かつ心穏やかになるひと時を演出している。 【ボランティア交流】 地域のボランティアの協力によりイベントを企画していただいた。 また、9月に行うティータイムでは、ご家族・利用者を招待する形で企画。ジャズを聴きながらコーヒーとカップケーキを味わいつつ、大変優雅な時間を過ごさせていただいた。
	ニーズ別旅行	前年度と同じように、グループ編成したニーズ別日帰り旅行を実施した。各グループの企画では、アクティブな活動、ホテルでのゆったりした食事を楽しむグループ等、半日程度の外出であるが、ご家族、利用者、職員がゆったり交流を図る良い企画となった。本年度は大型バスの車イス対応であったため、今まで皆と同じバスに乗って出掛けることのできなかった利用者を大型バスの車椅子コーナーを三つ使用することによって、初めて皆と同じバスに乗って出掛けることができとても喜んでいた。

５　運営管理

５－１　職員状況

	2016.4.1 現員数	2016.4.1～2017.3.31				2017.3.31 現員数
		採用	異動入	異動出	退職	
総数	45(8)	2	7(1)	6	2	43(8)
施設長	1		1	1		1
支援課長	1					1
主任	3		1			3
生活支援員	37(5)	2	5(1)	5	2	35(5)
クリーンスタッフ	3(3)					3(3)
機能訓練指導員	1(兼)					1(兼)
看護士	1(兼)					1(兼)
栄養士	1(兼)					1(兼)

★産休・育休・介護休・休職中職員も現員のままとする。
★数字は総数で表示し、うちパート職員の数は（　）内に表示。
★網掛けについては、総数に表示していない。

５－２　職員研修の状況

施設内			施設外		
月･日	研修名	人数	月･日	研修名	人数
4.6・10	新任研修会（ル）	3	7.6	県身協施設職員研修	2
5.13	口腔ケアセミナー（ル）		7.28	盲重研施設職員研修	2
5.18	排泄研修会（ル）		8.2	強度行動障害支援者研修	2
5.19	チューター研修	3	8.2～3	てんかんセミナー	2
6.30	コンプライアンス研修	5	9.23	強度行動障害支援者研修	6
7.20	マネジメント研修	3	9.27	強度行動障害支援者研修	6
10.6	デンタルサポート研修	19	9.29～30	関身協ブロック会議	2
10.11	介護セミナー	4	9.30	虐待予防マネージャー研修	
10.17	デンタルサポート研修	15			i
10.21	防犯研修	4	11.1～ 2	盲重研全国大会	4
10.24	評価者研修	4	11.25	強度行動障害支援者研修	4
11.11	高齢期研修	9	11.27	歯科医師会研修	1
11.13	虐待防止研修	9	11.30	県身協施設職員研修	1
11.24	マネジメント研修	2	12. 4	障がいについて学ぶ市民講座	1
12.9	感染症予防研修（ル）		12.9	強度行動障害支援者研修	4
12.14	感染症予防研修（ル）		12.13	虐待防止研修	2
1.23	法人研修	4	12.21	虐待防止研修	1
2.23	マネジメント研修		12. 24～25	介護職員研修	1
3.22	チューター研修	5	1.8	介護職員研修	1
			2.2～3	相談従事者現任研修	1
			2.5	介護職のための研修	1
			3.8～9	強度行動障害支援者研修	1

５－３　実習受け入れ状況

期間	養成機関名	実施対象資格等	人数
8.1～20	淑徳大学	社会福祉士	1
8.24～9.15	浦和大学短期大学部	介護	1
10.3～17　10.31～11.12	城西国際大学	社会福祉士	2
11.7～12.6	中央介護専門学校	介護	2
1.30～2.21	成田国際福祉専門学校	介護	2
2.6～2.24	江戸川大学総合福祉専門学校	介護	1
2.9～3.10	大原医療秘書福祉専門学校	社会福祉士	2

６　行事実施状況

月	行事内容
4 月	愛とひかりのコンサート（17） 歓迎会（27）
5 月	ニーズ別旅行（イオン幕張　11） グループ外出（ヒルトン成田　20）
6 月	ラララ LIVE（4） ニーズ別旅行（バイキング　10）　光和会のど自慢大会（12） ニーズ別旅行（ホテル食事　24） とつぜん音楽会（26）
7 月	グループ外出（8・15・20） ギターボランティア（16） とつぜん音楽会（18）
8 月	グループ外出（17・24） とつぜん音楽会（21）
9 月	グループ外出（7） コーヒーショップ（18） グループ外出（21） コーラスこだま（24）
10 月	敬老会（2） リコーダー演奏会（4） 秋まつり（8） グループ外出（14・27） つくしんぼシンガーズ（29）
11 月	グループ外出（4・16） 運動会（20）
12 月	グループ外出（7・16） クリスマス会（25）
1 月	とつぜん音楽会（26） グループ外出（18・25）
2 月	グループ外出（10） 新年会（26）
3 月	グループ外出（1・8） 送別会（31）

2016（平成28）年度　事業報告書
障害者支援施設
め い わ

概況　【入所部】

当年度のスローガンは「安心できる暮らしをつくり、この街の信頼にこたえる」とし、ショートステイの積極的受け入れ、地域行事や地域清掃への参加に取り組んだ。また当年度は、利用者の権利侵害と思われる職員の不祥事が10月に発覚し、実施機関である成田市に業務改善計画書を提出するとともに職員の人権意識の醸成と倫理観の向上に努めた。法人内の障害者差別解消法の研修に職員8名参加、虐待防止研修には10名参加、外部研修では千葉県で行われた虐待防止研修会に9名参加した。研修報告については、職員会議にてグループディスカッションを行い、継続的に毎月の権利擁護に関するセルフチェックを実施、利用者支援に対する職員自身の振返りとサービス内容について検証と再確認を行った。

〇数値目標

施設入所（稼働率）：目標97%→実績　96.3%　生活介護（稼働率）：目標99%→実績　103.4%

短期入所（稼働率）：目標80%→実績　104%

施設入所に関しては、2名の方が入院先の病院で亡くなられた。また、日中の活動については、2名の方が、法人内の他事業所（よもぎの園）を利用した。

〇サービス目標

・個別支援計画については、利用者参加型の個別支援会議を行い、利用者が自分の目標について考え、計画する機会となった。また月1回のあおばの会を定期的に開催し、利用者への情報提供に努めた。

・利用者高齢化対策については、高齢者用のバイタルチェック表を活用し、個別支援計画についても高齢障害者についての支援について生活全般を再確認し、支援の内容を詳細に打ち出した。

・施設内環境整備については、浴室の脱衣場の壁の塗装、食堂1、2階の床の張り替え、洗面所の壁の張り替え、階段の踊り場のフロアタイルの張り替えを行い、快適な生活空間を提供することができた。

〇地域連携目標

・地域行事へ積極的に参加するとともに、太鼓斑による地域イベントへの出演を行った。当年度は年間8回の出演があり、内2回は初めての場所での演奏であった。また、地域の山王地区清掃に参加し、地域の方々との関係を深めることができた。

・ボランティアの受け入れについては、佐倉の地に移転してきた当初より活動をしていただいた2つのボランティアグループが、加齢のために活動ができないということで当年度末での終了となった。今後もボランティアの受け入れと活用の充実を図っていきたい。

〇業務遂行目標

・虐待防止への取り組みとしては、施設内のコンプライアンス委員会を毎月開催し、各職員に虐待防止マニュアルの周知を図り、セルフチエックリストの検証等を行い、虐待防止に対する意識の醸成と定着化に努めた。今後も職員に高い倫理観と専門職としての責任や自覚を促し、誠実に職務を遂行するよう指導を行っていきたい。

・リスクマネジメント関係では、当年度利用者の事故、怪我等が6件あった。大きな事故に繋がらないよう日々ヒヤリハット（インシデント）報告を上げ、職員間で共有と確認を行ってきたが、今後も危険予測の検証とインシデントを受けての対策を徹底していきたい。

〇人材育成目標

・新任職員3名、異動職員1名を迎え当年度がスタートした。チューター制度については、振り返りや確認する時間を設け、1年間機能することができた。職員会議にて社会福祉法人制度改革についての説明や経営面での報酬単価についての確認を行い、職員の経営参画の意識向上に努めた。

〇2014～2016年度　第2期中期経営計画「最終年度報告」

・施設入所（稼働率）：目標97%→実績96.5%（3年平均）、短期入所70%→実績86.9%（3年平均）

・地域交流：地域イベント及び地域清掃活動に積極的に参加した。

（施設長　横川　民夫）

【通所部】

当年度のスローガンは「１人１人が主人公となり、輝ける場所となろう」であった。利用者の人数が増え、障害特性もさまざまである。必要な時に必要な支援をということで、課題が生じた時には、その方に比重をおき支援に取り組んだ。問題行動にばかりに目を向けるのではなく、問題に発展する前の小さな変化を見逃さないように支援を行ったが、まだまだ十分とは言えない。今後も障害ゆえの生きづらさが少しでも軽減されるよう支援を行っていきたい。また、スローガンを意識するようにと思い、12月にはスローガンを振り返るということも行った。

送迎関係では、送迎網の拡充と言うことでマイクロバスを導入した。この導入によって法人車（普通車）での送迎ルートを１つ減らすことができ、残留の職員を１名増やすことができた。その結果日中活動の受け入れに職員がスムーズに取り組める体制となった。利用者もご家族もポイント乗車になることで、不安を感じている方もいたが、段階を踏み練習を重ねたことで、乗車できるようになった。

〇数値目標

・目標数値は稼働率 115%のところ平均稼働率は 123.9%となった。今後通所部での受け入れは限界があると考える。契約数は 47 名となっているが、現状として全く登所されない方もいる。知的障害がなく、高次脳機能障害や精神障害の方の継続的な利用はなかなか難しいようである。

〇サービス目標

・コンプライアンス委員の取り組みとして、毎月行っているセルフチェックシートを見直し、偶数月、奇数月と分け、従来のシートとテーマを絞ったセルフチェックシートへと変更した。職員のコンプライアンスに対する意識は高くなっていると思われる。

〇地域連携目標

・日中一時支援を利用していた方達が卒業し、生活介護での利用となっているため、利用が 1/3 程度に減っている。特別支援学校等の実習の受け入れや、学生の実習、中学校、小学校など職場体験の受け入れは積極的に行った。

〇業務遂行目標

・マニュアルの見直しを行った。また、新たにマイクロバスの車椅子の固定方法については初めから作成を行った。マニュアルの見直しについては、職員一人一人がマニュアルの必要性を理解できるように、「この手順で果たして初めての人は理解できるのか」と言うことを頭に入れながら、マニュアルと職員の動きを見比べるという役割を持たせながら行った。マニュアルを見ながら業務を行うことは難しいが、職員自身の支援の振り返る時に確認として使用できるようにしていきたい。

〇人材育成目標

・法人研修、外部の研修に職員を参加させている。外部の研修についても積極的に参加し、現場での支援に役立っていると思う。また、他事業所の実践報告を聞く機会もあり、まとめ方や発表の仕方なども学ぶことができた。

〇2014～2016 年度第 2 期中期経営計画「最終年度報告」

・利用登録 30 名、稼働率 95%と目標設定していたが、2017 年度では利用登録 47 名、稼働率 123.9%であった。2014 年 104.6%・2015 年 117.4%・2016 年 123.9%と順調に伸びており、受け入れの限界まで達成している。3 年平均は 115.3%であった。

（課長　小出　博美）

1　施設利用状況（2016.4.1～2017.3.31）

１－１　利用状況

①めいわ　【定員５６名】

	施設利用者			1日平均		空所				異動	
	定員	契約数	現員数	利用数	稼動率	総数	欠員	入院	外泊	入所	退所
年間	20,440	20,099	19703	53.9	96.3	736	430	46	260	2	2

②根郷通所センター　【定員２４名】

	通所利用者			1日平均		異動	
	定員	契約数	現員数	利用数	稼動率	入所	退所
年間	6264	12,267	7,759	29.7	123.9	3	0

１－２　入・退所状況

①めいわ

	総数	就労	学校	在宅	施設等	入院	死去	その他
入所者数と入所前状況	2			1	1			
退所者数と退所事由	2						2	

②根郷通所センター

	総数	就労	学校	在宅	施設等	入院	死去	その他
入所者数と入所前状況	3	0	2	0	0	0	0	1
退所者数と退所事由								

１－３　短期入所（ショートステイ）利用状況

【定員４名】

	利　用　者			
	定　員	総　数	1日平均	稼働率
年間	1,460	1,521	4.1	104

１－４　地域生活支援事業(日中一時支援事業)利用状況

①　めいわ

	利　用　者	
	総　数	1日平均
年間	371	1.0

②根郷通所センター

	利　用　者	
	総　数	1日平均
年間	104	0.4

１－５　出身地別利用状況

①めいわ

【千葉県】	男	女
銚子市	1	1
市川市	1	0
木更津市	1	0
松戸市	1	0
香取市	1	0
茂原市	1	0
成田市	1	0
佐倉市	5	3
匝瑳市	1	0
酒々井町	1	0
柏市	3	1
君津市	0	1
我孫子市	1	0
船橋市	1	1
大多喜町	1	0
長生村	0	1
八街市	1	0
四街道市	0	2
計	21	10
合計	31	

【千葉市】	男	女
緑区	1	0
若葉区	1	1
計	2	1
合計	3	

【埼玉県】		
越谷市	0	1
計	0	1
合計	1	

【新潟県】		
魚沼市	0	1
計	0	1
合計	1	

【東京都】	男	女
練馬区大泉	0	1
練馬区石神井	0	2
台東区	0	1
江東区	1	0
渋谷区	0	1
杉並区	0	1
世田谷区北烏山	0	1
世田谷区玉川	0	1
足立区（西部）	1	0
足立区（東部）	1	1
目黒区	0	1
町田市	0	1
八王子市	1	0
小金井市	1	0
青梅市	1	0
狛江市	0	1
西東京市	0	2
計	6	14
合計	20	

②根郷通所センター

出身地	男	女	計
佐倉市	10	6	16
四街道市	9	12	21
習志野市	1		1
千葉市	6	2	8
成田市	0	1	1

男	女	合計
26	21	47

２　利用者の状況（28 年度中在所した全利用者）

２－１　年齢構成（年齢は 2016. 4. 1 現在）

① めいわ

	総数	～19	20～	30～	40～	50～	60～	70～	平均年齢	最高齢	最年少
総数	56	1	2	3	22	17	7	4	51	81	18
%	100	1.8	3.6	5.5	39.2	30.9	12.7	7.3			
男	28	0	2	2	13	7	2	2	49	77	21
女	28	1	0	1	9	10	5	2	53	81	18

②根郷通所センター

	総数	～19	20～	30～	40～	50～	平均年齢	最高齢	最年少
総数	47	9	14	12	6	6			
%	100	19.2	29.7	25.5	12.8	12.8	38.7	68	18
男	26	4	9	8	1	4	44.9	68	18
女	21	5	5	4	5	2	32.5	55	18

２－２　障害区分

①　めいわ

	総数	1	2	3	4	5	6	重度障害者支援加算
総数	56	0	0	0	4	9	43	14
%	100	0	0	0	7.1	16.4	78.1	
男	28	0	0	0	1	2	25	7
女	28	0	0	0	3	7	18	7

②　根郷通所センター

	総数	1	2	3	4	5	6
総数	47	0	1	8	20	9	9
%	100	0	2.1	17	42.5	19.2	19.2
男	26	0	0	5	12	5	4
女	21	0	1	3	8	4	5

２－３　身体障害者手帳による障害程度

①　めいわ

	総数	1級	2 級	3級	4級	5級	6級	不所持
総数	56	34	3	3	3			13
%	100	62	5.4	5.4	5.4			23.2
男	28	22	1	2	0			3
女	28	12	2	1	3			10

②　根郷通所センター

	総数	1級	2 級	3級	4級	5級	6級	不所持
総数	47	13	1	1	1	0	1	30
%	100	27.7	2.1	2.1	2.1	0	2.1	63.9
男	26	6	1	1	0	0	1	17
女	21	7	0	0	1	0	0	13

２－４　療育手帳による障害程度

①　めいわ

	総数	最重度	重度	中度	軽度	不所持
総数	56	7	28	5	4	12
%	100	12.8	50	9.1	7.3	21.9
男	28	4	13	1	1	9
女	28	3	15	4	3	3

②　根郷通所センター

	総数	最重度	重度	中度	軽度	不所持
総数	47	14	19	7	4	3
%	100	29.7	40.5	14.9	8.5	6.4
男	26	7	12	4	1	2
女	21	7	7	3	3	1

２－５　就学状況（最終学歴）

①　めいわ

	総数	普通学校義務	特別支援義務	普通高等学校	特別支援高等部	千葉盲（再掲）	不就学
	56	3	4	0	44	23	5
%	100	5.4	7.1	0	78.5	41.0	8.9
男	28	2	1	0	22	15	3
女	28	1	3	0	22	8	2

②　根郷通所センター

	総数	普通学校義務	特別支援義務	普通高等学校	特別支援高等部	千葉盲（再掲）	不就学
	47	4	3	3	37	10	0
%	100	8.5	6.4	6.4	78.7	21.3	0
男	26	2	1	2	21	5	0
女	21	2	2	1	16	5	0

２－６　就労経験

①めいわ

	総数	就労経験あり	就労経験なし
総数	56	1	55
%	100	1.8	98.2
男	28	1	27
女	28	0	28

②根郷通所センター

	総数	就労経験あり	就労経験なし
総数	47	6	41
%	100	12.8	87.2
男	26	4	22
女	21	2	19

３　利用者の障害の状況

３－１　視覚障害

①　めいわ

	総数	盲	弱視	小計	晴眼
総数	56	26	15		15
%	100	47.3	27.3		26.7
男	28	18	7		3
女	28	8	8		12

②　根郷通所センター

	総数	盲	弱視	小計	晴眼
総数	47	9	4	13	34
%	100	19.2	8.5	27.7	72.3
男	26	5	2	7	19
女	21	4	2	6	15

３－２　知的障害

①　めいわ

	総数	最重度	重度	中度	軽度	小計	非該当
総数	56	9	37	6	4	56	
%	100	16.0	66.0	10.7	7.1	100	
男	28	6	20	1	1	28	
女	28	3	17	5	3	28	

②　根郷通所センター

	総数	最重度	重度	中度	軽度	小計	非該当
総数	47	14	19	7	4	44	3
%	100	29.7	40.5	14.9	8.5	93.6	6.4
男	26	7	12	4	1	24	2
女	21	7	7	3	3	20	1

３－３　障害の状況（総括）

①　めいわ

	総数	視覚	肢体	聴覚	音声言語	内部	知的	精神	重複
総数	56	41	12	3	1	1	56		4
%	100	73.2	21.4	5.3	1.7	1.7	100		7.1
男	28	25	6	0	1	0	28		1
女	28	16	6	3	0	1	28		3

★重複障害は視覚・聴覚・音声言語・精神・知的の５障害のうち３以上に該当するもの。

② 根郷通所センター

	総数	視覚	肢体	聴覚	音声言語	内部	知的	精神	重複
総数	47	13	4	0	0	1	44	15	6
%	100	27.7	8.5	0	0	2.1	93.7	31.5	12.8
男	26	7	2	0	0	1	24	9	2
女	21	6	2	0	0	0	20	6	4

★重複障害は視覚・聴覚・音声言語・精神・知的の５障害のうち３以上に該当するもの。

３－４　日常生活動作（ＡＤＬ）介護の状況

① めいわ

総数	排泄	食事	入浴	着脱衣	ベッドメイキング	移動（内）	移動（外）
常時全面で介助	3	3	4	2	22	6	7
%	5.4	5.4	7.1	3.6	39.3	10.7	12.5
常時多面で介助	13	1	31	12	12	9	37
%	23.2	1.8	55.4	21.4	21.4	16.1	66.1
時々部分的に介助	21	27	18	31	18	31	7
%	37.5	48.2	32.1	55.4	32.1	55.4	12.5
点検･配慮程度	14	18	3	6	4	6	3
%	25.0	32.1	5.4	10.7	7.1	10.7	5.4
自立	5	7	0	5	0	4	2
%	8.9	12.5	0.0	8.9	0.0	7.1	3.6

② 根郷通所センター

総数	排泄	食事	入浴	着脱衣	移動（内）	移動(外)
常時全面で介助	0	1	8	0	0	11
%	0.0	2.1	17	0.0	0.0	23.3
常時多面で介助	5	6	10	5	5	2
%	10.6	12.8	21.3	10.6	10.6	4.3
時々部分的に介助	7	5	11	9	6	11
%	14.9	10.6	23.3	19.2	12.8	23.3
点検･配慮程度	16	26	9	26	20	16
%	34.0	55.3	19.2	55.3	42.6	34.0
自立	19	9	9	7	16	7
%	40.5	19.2	19.2	14.9	34.0	14.9

３－５　コミュニケーションの状況

① めいわ

	言語(会話)	意思表示	一般文字	点字	盲人用ワープロ
不可	11	4	50	54	56
%	19.6	7.1	89.3	96.4	100
一部で可能	16	24	3	2	0
%	28.6	42.9	5.4	3.6	0
だいたい可能	29	28	3	0	0
%	51.8	50	5.4	0	0
支障なし	0	0	0	0	0
%	0	0	0	0	0

② 根郷通所センター

	言語(会話)	意思表示	文字読･書	点字	盲人用ワープロ
不可	11	2	22	44	46
%	23.4	4.3	46.8	93.7	97.9
一部で可能	12	19	17	1	0
%	25.6	40.4	36.2	2.1	0.0
だいたい可能	19	21	7	1	0
%	40.4	44.7	14.9	2.1	0.0
支障なし	5	5	5	1	1
%	10.6	10.6	10.6	2.1	2.1

４　援助サービスの実施状況

① めいわ

項　　目	援助サービスの実施状況
日中活動 （月～金）	午前・午後共に各作業班に分かれて活動を行ない、午後には曜日ごとで小グループ活動も行なった。利用者本人の希望を聞き取り、所属の活動を決定している。
農耕班	利用者めいわ 6 名 生ゴミをベースとした堆肥作り、野菜作りを行なった。
園芸班	利用者めいわ 4 名 培養土作り・花の生産を行なった。
手工芸班	利用者めいわ 7 名 さおり織り、さき織り、エコクラフト、ビーズ、組紐
創作班	利用者 15 名 牛乳パックのリサイクル、はがき作り、紙漉き
陶芸班	利用者 9 名 陶器製品の作成
受注作業班	利用者 5 名 箸入れ、ボールペンのノックづけ
リハビリ班	利用者 8 名 高齢者を対象とし、運動機能訓練、レクリエーション、散歩
余暇活動	
音楽	利用者　20 名ほど、月 1 回の午後の活動、自由参加 合奏・合唱の他、音楽療法に由来する体操やストレッチも行なった。
太鼓	利用者めいわ 4 名 月 1 回のペースで太鼓の練習、地域の行事や施設に参加

その他	水仙の会（茶道：利用者5名、月1回日曜日に活動） 輪・わ・WA(窓ふきボランティア：月1回) 傾聴ボランティア（月2回） 音楽ボランティア(不定期)
あおばの会	利用者自治会活動 総会（役員選出、掃除・朝の放送等の各係り決め)、新年会

②根郷通所センター

項　　目	援助サービスの実施状況
日中活動 （月～金）	各活動班に所属し、日中活動を行う。活動班にて、作業の提供だけではなくレク的要素を組み込み、外出や行事なども行った。また、特別支援学校等の実習生の受け入れを積極的に行った。小、中学生の職場体験も日中の活動班で受け入れをしている。
農耕班	利用者５名 生ゴミリサイクルの堆肥作りを主の活動としながら、野菜作りを行った。地域の方と一緒にじゃがいも堀りを行った。
園芸班	利用者５名 培養土作り、花苗の栽培を行う。地区内の花壇整備を行っている。
手工芸班	利用者５名 さをり織りを中心としながら、裂き織りや組紐、刺し子などを行っている。展示会にも参加している。
創作班	利用者２名 牛乳パックをリサイクルし紙漉きを行っている。ポチ袋や封筒、カレンダーを作っている。
陶芸班	利用者３名 箸置きや豆皿などの小物から、食器類を陶作。てびねりや鋳込み、機械ろくろを等を使用し作品つくりを行っている。干支の置物を制作し、日中活動の年賀状に使用した。
受注作業班	利用者２７名 箸入れや箸組み、おしぼりの袋詰め、宅配寿司、釜飯のセット組、マグネットキャッチ、ボールペンの組立、洗濯たたみ、アルミ缶つぶしを行った。個別のスペースを提供するなど、作業環境を整えた。
リハビリ班	利用者０名 高齢者を対象とし、運動機能訓練、レクリエーション、散歩などを行った。 愛光健康堂の活動とし、はちす苑へ出張マッサージに週１回程度施術に行っている。
※グループ活動	
音楽	それぞれのﾘｸｴｽﾄ曲を大音量で聞いている。CD レンタルを利用者と一緒に行ったりし、職員から新曲を提供することもあった。 （回数：12 回　平均：17.5 名）
スポーツ	風船バレー、卓球、サッカーなど楽しみながら、身体を動かしている。 （回数：12 回　平均：14.4 名）
パソコン	日中活動終了後に 1 対 1 もしくは 2 対 1 で時間を設け、操作方法を覚える取り組みをした。(火・木)
エクササイズ	ラジオ体操から始まり、マットの上でストレッチやいも虫ゴロゴロなどを行っている。相撲エクササイズも取り入れた。 （回数：12 回　平均：13.8 名）
陶芸	日中活動の活動を行っている日に実施し、希望者は週１度程度活動している。 （回数：日中活動のある日　平均：2 名）
散歩	日中活動終了後に実施。
茶道	茶道体験。月 1 回（月）に実施。ボランティア 2～3 名参加。 （回数：12 回　平均：16.8 名）

フラワーアレンジメント	季節の花々のフラワーアレンジメント体験。ハサミを用意し可能な方には、自身で行えるようにした。ボランティア 2～3 名参加。 （回数：6 回　平均：13.8 名）
プール	日中活動の１つとして実施した。根郷中学校のプール一般開放の期間中。 （１人 平均：３回）

５　運営管理

５－１　職員状況

	2016.4.1 現員数	2016.4.1～2017.3.31				2017.3.31 現員数
		採用	異動入	異動出	退職	
総数	59(18)	6(1)	3	8	3(2)	55(17)
施設長	1		1	1		1
支援課長	1					1
主任	2					2
生活支援員	35(6)	4	1	6	2(1)	32(6)
クリーンスタッフ	1(1)					1(1)
機能訓練指導員	1(兼)					1(兼)
看護士	1(兼)					1(兼)
栄養士	1(兼)					1(兼)
【通所部】						
日中活動課長	1					1
主任	1					1
生活支援員	15(9)	2(1)	1	1	1(1)	16(8)
クリーンスタッフ	2(2)					2(2)
機能訓練指導員	1(兼)					1(兼)
看護士	1(兼)					1(兼)

★産休・育休・介護休・休職中職員も現員のままとする。
★数字は総数で表示し、うちパート職員の数は（　）内に表示。
★網掛けについては、総数に表示していない。

５－２　職員研修の状況

① めいわ

施設内			施設外		
月･日	研修名	人数	月･日	研修名	人数
H28.4.26	障害者差別解消法	8	H28.5.18	施設見学（しもふさ学園）	2
H28.5.19	チューター研修	4	H28.7/10～11	社会福祉士実施指導者研修	1
H28.6.30	虐待防止	10	H28.7.28～29	盲重複施設職員研修	3
H28.7.7	フエロー交流会	5	H28.7.4～5	千葉県知的障害者福祉協会 新人研修	1
H28.7.20	マネジメント研修	2	H28.6.25	自閉症基礎研修・事例検討会	1
H28.8.4	チューター情報交換会	5	H28.7.25	支援部会研修（アンガ-マネジメント）	2
H28.10.11	介護セミナー	4	H28.8/2 ～3	てんかん基礎研修	1
H28.11.24	マネジメント研修	2	H28.9.30	千葉県虐待防止マネジャー研修	3
H28.12.22～23	他施設研修（はちす苑）	1	H28.10.6	佐倉市福祉協議会研修	2
H29.1.23	法人研修（数字力）	7	H28.10.13	千葉県虐待防止マネジャー研修	3

H29.1.2～24	他施設研修（かぶらぎ）	1	H28.10.25	千葉県虐待防止マネジャー研修	3
H29.2.5	法人事例発表	10	H28.11/1～2	全国盲重複障害者福祉施設研究大会	3
H29.2.23	マネジメント研修	2	H28.11.5	東社協発達障害者部会研修（高齢化）	1
H29.3.15	法人研修（労務）	4	H28.11.7	強度行動支援者養成研修フォローアップ研修	2
H29.3.22	法人研修（チューター）	3	H28.11.28	千葉県知的協会印旛・山武ブロック新任研修	1
			H28.12.4	「誰でも暮らしやすい佐倉」フオーラム	1
			H28.12.13	千葉県虐待防止マネジャー研修	2
			H28.12.21	千葉県障害者虐待防止・権利擁護研修	2
			H29.2.3	こうさい療育セミナー	1
			H29.2.28	東社協発達障害者部会研修	1
			H29.3.4	強度行動障害のある方の支援者実践研修	2
			H29.3.4	東社協発達障害者部会研修	1

② 郷通所センター

施設内			施設外		
月・日	研修名	人数	月・日	研修名	人数
4.26	法人研修 「障害者差別解消法研修」	9	6.13	日中活動支援部会	3
6.30	法人研修 「権利擁護・虐待防止研修」	11	6.25	自閉症基礎研修・ 事例検討グループワーク	1
7.20	法人研修 「マネジメント研修」	1	7.4・5	千葉県知的障害者福祉協会 新任職員研修	1
10.21	法人研修 「防犯対応研修」	8	8.2・3	てんかん基礎研修	1
10.24	法人研修 「評価者研修」	2	9.23・26	千葉県強度行動障害支援者 養成研修	1
11.24	法人研修 「マネジメント研修」	1	9.30	障害者虐待防止・権利擁護研修	1
1.23	法人研修 「数字力アップ研修」	2	10.13	障害者虐待防止・権利擁護研修	1
2.5	法人研修 「職員実践発表会」	11	10.25	障害者虐待防止・権利擁護研修	1
2.23	法人研修 「マネジメント研修」	1	11.1・2	盲重複障害者福祉施設研究 大会	1
3.15	法人研修 「労務管理研修」	2	11.25 12.8	千葉県強度行動障害支援者 養成研修	1
			12.12・13	千葉県サービス管理責任者	1
			12.16	障害者虐待防止・権利擁護研修	1
			1.31・ 2.2・3	千葉県サービス管理責任者 現任研修	1
			3.4	強度行動障害のある方の支 援者に対する研修 実践報告会	5

５－３　実習受け入れ状況

①　めいわ

期間	養成機関名	実施対象資格等	人数
6/13～6/16	中央介護福祉専門学校	介護福祉士	1
6/20～6/23	中央介護福祉専門学校	介護福祉士	1
6/27～6/30	中央介護福祉専門学校	介護福祉士	1
9/8～9/15	聖徳大学	保育士	2
9/12～9/29	東京福祉保育専門学校	介護福祉士	1
10/3～10/17	城西国際大学	社会福祉士	2
10/31～11/12	城西国際大学	社会福祉士	2
11/9～11/11	中央介護福祉専門学校	介護福祉士	1
11/16～11/18	中央介護福祉専門学校	介護福祉士	1
1/23～2/4	千葉明徳短期大学	保育士	2
2/6～3/9	大原医療秘書福祉保育専門学校	社会福祉士	1
2/13～2/28	目白大学	保育士	2
3/13～3/23	十文字学園女子大学	社会福祉士	1

②郷通所センター

期間	養成機関名	実施対象資格等	人数
8/ 3～ 8/24	千葉敬愛短期大学	保育士	2
8/ 3～ 8/19	千葉女子専門学校	保育士	2
9/ 1～ 9/ 7	聖徳大学	保育士	2
9/12～ 9/27	植草短期大学	保育士	2
10/ 6～10/ 8	二葉看護学院	看護師・保健師	5
2/20～ 3/ 3	植草大学	保育士	2

６　行事実施状況

①　めいわ

月	行事内容
4 月	辞令交付式、職員会議(1,26)、家族会(17)
5 月	家族会(15)、職員会議(24)、1 泊旅行(26,27 房総方面)
6 月	光和会のど自慢(12)、家族会(19)、職員会議(24)
7 月	1 泊旅行(13～14 長野方面)、家族会(17)、職員会議(22)、歓迎会(27)
8 月	職員会議(23)、納涼祭(26)、海外旅行(31～2　韓国)、
9 月	家族会(18)、敬老会(19)、職員会議(23)
10 月	愛光秋まつり(8)、職員会議(21)
11 月	手をつなぐスポーツ(2)、おひさま祭・家族会(20)、職員会議(25)
12 月	さわやか芸能発表会(6)、1 泊旅行(7～8、銚子方面)、家族会(18)、職員会議(20) クリスマス会(23)
1 月	新年会・あおばの会(9)、法人新年会(13)、家族会新年会(15)、職員会議(27)
2 月	法人事例研究発表会(5)、職員会議(21)
3 月	職員会議(17)、やよい会(17)

② 郷通所センター

月	行　事　内　容
4 月	辞令交付式(1)・開所式(1)・花見会(1)
	風船バレー&フリスビードッチボール(4)
	椅子カーリング&しっぽとりゲーム&〇×ゲーム(5)
	雑巾がけリレー&フライングディスク(6)
	フォトロゲイト&クイズ大会(26)
5 月	千葉市ゆうあいピック(18・5 名)
	“リアル野球版ご褒美はセブンイレブン♪”
6 月	グループ旅行①：東京ディズニーシー&羽田空港(16～17・9 名)
	グループ旅行②：千葉市動物公園(23・9 名)
	宝探しゲーム&玉入れ(24)
7 月	外周を歩いてバーベキューの材料を集めよう！&テーブルホッケー(22)
8 月	お水ゆらゆらリレー(12) ・夏季休暇(13～15)
	オセロ大会&夏まつり準備(23)・夏の終わりの夏まつり♪(26)
9 月	グループ旅行③“国技館&浅草散策”(12～13・8 名)・“運動会”(23)
10 月	愛光秋まつり(8)・グループ旅行④：横浜中華街(18・6 名)
	秋の味覚狩り競争&箱積み競争(21)
11 月	手をつなぐスポーツのつどい(2・9 名)・山王公園散歩&椅子取りゲーム(20)
12 月	さわやか芸能発表会(6・7 名)・グループ旅行⑤：湯楽の里(8・3 名)
	おひさま大掃除(20)・忘年会：紅白歌合戦&ホットケーキ作り(29)
	冬季休暇(30～3)
1 月	成人のお祝い会(27)
2 月	通所駅伝&風船バレー(21)
3 月	やよい会(17)・大人の借りもの競争&1 年を振り返ろうスライドショー(17)
	家族会懇談会(24)

2016（平成 28）年度　事業報告書
障害者支援施設
リ　ホ　ー　プ

概況

当年度のスローガンは、「積極的な地域貢献」であった。ショートステイ稼働は前年度一日平均 5.5 人から 7.2 人へアップした。学童保育所での利用者との交流は、対象学童数が増えた。

7 月に相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」で障害者殺傷事件が起き、19 名の尊い命が失われ、当事者、関係者に怒りと悲しみが巻き起こった。やまゆり園元職員の犯人は「障害者は不幸を作ることしかできません」「障害者なんていなくなればいい」という考えのもと事件を起こしたと伝えられている。障がいのある方もそうでない方も生きていくには、人を頼ったり頼られたり「お互い様」の発想が大切ではないだろうか。たとえ障がいあろうとも自分の人生（命）を他人が勝手に終わらせる権利はないと強く訴えたい。そのような考えの元職員会議でも意見交換を行ってきた。防犯対策として、助成金を活用して、非常通報装置、防犯フイルム等を整備した。

11 月に利用者が車椅子から転落して骨折する事故、2 月に誤投薬事故が発生した。転落事故は、見守り職員が一瞬注意を怠ったためであり、当該利用者には大変な痛みを伴う生活を送ることになり大変申し訳ない思いである。誤投薬は、投薬マニュアルがあるにもかかわらず、それとは違った手順で投薬した結果である。共に、ご本人ご家族に施設より十分に謝罪した。また、同じような事故を起こさないための十分な確認を行った。

○数値目標

・入所、短期入所合算（稼働率）：目標　90%　⇒ 実績 94.0%
・生活介護(稼働率)　　：目標　90%　⇒ 実績 89.4%

○サービス目標

・個別対応の充実では、希望する旅行に出かけることができた利用者がいたが、日常のコミュニケーションにおいて、十分な会話ができていないケースがあり、年度後半に居室担当利用者とのコミュニケーション時間を計画表に入れ込む仕組みを考えたが不十分であった。

○業務遂行目標

・職員セルフチェックの検証では、自由記入欄において、呼称について職員自身は適当であるとの回答したものの、他者から見ると不適当であるとの意見があり、交錯した結果となった。
・倫理綱領の推進では、職員会議の冒頭に全員で唱和した。その後に指定した項目について、職員より実際に取り組んだ内容を報告し、それをより良い支援のために共有した。
・リスクマネジメントの意識の徹底は、情報共有からリスク軽減へとの考えのもと、「リホープ引継ぎ表」を作成して、投薬や特記事項、ヒヤリハットを張り付ける等により「見える化」した。
・内部統制機能を高めるためのマニュアルの整備では、ノロウイルス等の感染症対応表を整備して、対応セットに入れ確認しながら対応できるようにした。1 月のノロウイルス感染症疑いの発症において実行することができた。

○人材育成目標

・利用者をより深く知るためのアセスメント研修を 4 回実施した。ある利用者 1 名を対象にして、その方をより深く知るための取り組み（アセスメント）をどのような視点で行えばよいかを職員会議等で意見を出し合い共有した。結果、当該利用者の対応方法の理解が進んだ。また、利用者を知ることの大切さを学び職員のモチベーション、自主性の向上を図った。
・内部研修では、高齢期の支援の口腔ケア研修を行った。具体的な支援方法を行うことにより、適切な高齢期支援を行う意識を持ち、更に技術を学んで支援体制を整えていきたい。

○2014～2016 中期経営計画（最終年度報告）

実施項目　①稼働率：目標入所・短期入所合算 90%(3 年平均)⇒ 90.7%（3 年平均）
　　②地域交流・福祉学習充実協力　⇒新たに山王自治会の年 4 回の清掃活動に参加した。

（施設長　安部一義）

１　施設利用状況（2016.4.1～2017.3.31）

１－１　利用状況　【定員５０名】

	延べ年間施設利用者			１日平均		延べ年間空所				異動	
	定員	契約数	現員数	利用数	稼動数	総数	欠員	入院	外泊	入所	退所
年間	18,250	15,566	15,218	41.7	83.4	3,032	2,653	180	199	1	0

１－２　入・退所状況

	総数	就労	学校	在宅	施設等	入院	死去	その他
入所者数と入所前状況	1			1				
退所者数と退所事由								

１－３　短期入所（ショートステイ）利用状況　【定員２名（＋空床型５名）】

	利　用　者			
	延べ定員	延べ総数	１日平均	稼働率
年間	730	2,617	7.2	358.5%

１－４　地域生活支援事業（日中一時支援事業）利用状況

	利　用　者	
	延べ総数	１日平均
年間	0	0

１－５　出身地別利用状況

【千葉県】	男	女	【千葉市】	男	女	【東京都】	男	女
市川市	3		稲毛区		2	板橋区志村		1
市原市	2	1	中央区	1		足立区	1	
柏市		1	若葉区	2		練馬区大泉	1	
香取市	1		美浜区		1	練馬区石神井	1	
鴨川市	1		計	3	3	大田区	1	
袖ヶ浦市		2	合計	6		江戸川区	2	
館山市	1					計	6	1
東金市		1	【埼玉県】			合計	7	
流山市	1		春日部市		1			
野田市	1		白岡町	1				
旭市	1							
船橋市	2					【茨城県】		
茂原市	1		計	1	1	鹿嶋市	1	
八街市	1	1	合計	2				
八千代市	1							
佐倉市		3	【神奈川県】			計	1	
長南町		1	大和市	1		合計	1	
計	16	10	計	1				
合計	26		合計	1				

２　利用者の状況（2016 年度中在所した全利用者）

２－１　年齢構成（年齢は 2016.4.1 現在）

	総数	20～	30～	40～	50～	60～	70～	80～	平均年齢	最高齢	最年少
総数	43	1	1	6	7	13	14	1	60.9	83	20
%	100	2.3	2.3	14.0	16.3	30.2	32.6	2.3			
男	28	1	0	4	3	9	10	1	62.4		
女	15	0	1	2	4	4	4	0	58.1		

２－２　障害程度区分

	総数	1	2	3	4	5	6
総数	43	0	0	2	12	19	10
%	100	0	0	4.7	27.9	44.2	23.2
男	28	0	0	0	9	12	7
女	15	0	0	2	3	7	3

２－３　身体障害者手帳による障害程度

	総数	１級	２級	３級	４級	５級	６級	不所持
総数	43	36	5	0	0	0	0	2
%	100	83.7	11.6	0	0	0	0	4.7
男	28	25	3	0	0	0	0	0
女	15	11	2	0	0	0	0	2

２－４　療育手帳による障害程度

	総数	最重度	重度	中度	軽度	不所持
総数	43	0	4	3	4	32
%	100	0	9.3	7.0	9.3	74.4
男	28	0	1	2	3	22
女	15	0	3	1	1	10

２－５　就学状況（最終学歴）

	総数	普通学校義務	特別支援義務	普通高等学校	特別支援高等部	千葉盲（再掲）	その他	不就学
総数	43	15	5	6	14	12	1	2
%	100	34.9	11.6	14.0	32.6	27.9	2.3	4.6
男	28	8	3	4	11	6	0	2
女	15	7	2	1	4	6	1	0

２－６　就労経験

	総数	就労経験あり	就労経験なし
総数	43	19	24
%	100	44.2	55.8
男	28	13	15
女	15	6	9

３　利用者の障害の状況

３－１　視覚障害

	総数	盲	弱視	小計	晴眼
総数	43	29	11	40	3
%	100	67.4	25.6	93.0	7.0
男	28	19	9	28	0
女	15	10	2	12	3

３－２　知的障害

	総数	最重度	重度	中度	軽度	小計	非該当
総数	43	0	8	7	16	31	12
%	100	0	18.6	16.3	37.2	72.1	27.9
男	28	0	2	3	14	19	9
女	15	0	6	4	2	12	3

３―３　障害の状況（総括）

	総数	視覚	肢体	聴覚	音声言語	内部	知的	精神	重複
総数	43	40	7	5	0	1	31	11	10
%	100	93.0	16.3	11.6	0	2.3	72.1	25.6	23.3
男	28	28	4	4	0	1	19	8	8
女	15	12	3	1	0	0	12	3	2

★重複障害は視覚・聴覚・音声言語・精神・知的の５障害のうち３以上に該当するもの。

３－４　日常生活動作（ＡＤＬ）介護の状況

	排泄	食事	入浴	着脱衣	ﾍﾞｯﾄﾞﾒｰｷﾝｸﾞ	移動（内）	移動（外）
常時全面で介助	0	0	0	0	9	4	30
%	0	0	0	0	20.9	9.3	69.8
常時多面で多介助	2	0	3	0	11	1	8
%	4.7	0	7.0	0	25.6	2.3	18.6
時々部分的に介助	10	2	19	2	10	6	3
%	23.2	4.6	44.2	4.6	23.2	14.0	7.0
点検・配慮程度	8	39	9	19	6	24	0
%	18.6	90.7	20.9	44.2	14.0	55.8	0
自立	23	2	12	22	7	8	2
%	53.5	4.7	27.9	51.2	16.3	18.6	4.6

３－５　コミュケーションの状況

	言語（会話）	意思表示	一般文字	点字	盲人用ワープロ
不　可	0	0	37	25	37
%	0	0	86.0	58.1	86.0
一部で可能	3	3	3	4	3
%	7.0	7.0	7.0	9.3	7.0
だいたい可能	0	0	1	2	3
%	0	0	2.3	4.7	7.0
支障なし	40	40	2	12	0
%	93.0	93.0	4.7	27.9	0

４　援助サービスの実施状況

区　　分	援助サービスの実施状況
住居・食事 日用品等の提供	食堂のテーブルと椅子を丈夫で、掃除しやすいものに入れ替えた。 業者による床のワックスがけ、窓掃除を行った。 防犯対策で、非常用通報装置の設置、各居室のクレッセントキーの交換、正面玄関や北側出入り口等の防犯フイルム貼付けを行った。 怪我の防止のために、壁の角にクッション材を貼りつけた。 手すりのランドマークを結束バンドに替えて体裁を整えた。
各種専門的訓練 及　び 日中活動	【受注作業】　箸入れや箸組み、おしぼりの袋詰め、宅配寿司や釜飯のセット組、紙トング組立、ローラーキャッチ、マグネットキャッチ、ボールペン組立、洗濯たたみ、アルミ缶つぶしを行った。 （利用者　16 名参加） 【農　　耕】　生ゴミリサイクルの堆肥作りを主の活動としながら、野菜作りを行った。ユニバーサル農業の仕事も定期的に行っている。 （利用者　 2 名参加） 【園　　芸】　花苗の栽培を行い、地域の販売会に参加した。また、物井駅ヤックス前の花壇整備も行っている。 （利用者　 8 名参加） 【リハビリ】　高齢者や視覚障害者を対象とし、運動機能訓練、歩行訓練、レクリエーション、散歩、個別外出などを行った。 愛光健康堂の活動として、はちす苑へ週１回の出張マッサージを行った。 （利用者　 5 名参加） 【創　　作】　牛乳パックのリサイクルによる紙漉きを行っている。 （利用者　 2 名参加） 【手 工 芸】　さをり織り、さき織り、エコクラフト、組紐、刺し子、羊毛フェルト作りなどを行っている。　（利用者　7 名参加） 【陶　　芸】　箸置きや一輪挿しなどの小物から、食器類、植木鉢などの陶作。手びねりや鋳込み、機械ろくろ等を使用し作品作りを行っている。 （利用者　　4 名参加）

ケアマネジメント	利用者の高齢化に伴い、口腔ケア研修を行い職員の意識の向上、利用者への歯磨きの働きかけを行った。視覚障害者への手引き歩行は、習得しているはずであるが、改めて研修を行い確認した。
保健・医療	肺結核や感染性胃腸炎の疑いの利用者が出たために、その対応を研修により確認して実行した。肺結核の疑いは晴れたが、感染性胃腸炎は、疑いの診断のまま適切な対応を行い、他者への感染はなかった。
余暇活動	日帰りの余暇行事では、市原ぞうの国、ホテルの中華バイキング、横浜ラーメン博物館、などを実施して多くの参加があった。個別外出では、草津、生まれ故郷、小樽市などに出かけている。
自治会活動	活動内容の充実のため､自治会費を年間 2,000 円から 3,000 円に値上げした。 自治会主催で、みんなで楽しもう会、もみの木会、弥生会などを行った。 年度末に次年度役員改選を行った。
愛光健康堂	午前中は施設内のリハビリ中心、午後は外来の診療を中心に行っている。固定客にプラスし、新規の利用客も少しずつ増えてきているが、今後も集客に向けた取り組みをしていきたい。

５　運営管理

５－１　職員状況

職　　名	2016.4.1 現員数	2016.4.1～2017.3.31				2017.3.31 現員数
		採用	異動入	異動出	退職	
総　　数	32(8)	4	6(1)	5(1)	1	31(8)
施設長	1		1			1
課長	1					1
主任	2					2
生活支援員	25(8)	4	5(1)	5(1)	1	24(8)
機能訓練士	1(兼)					1(兼)
看護師	1					1
栄養士	1(兼)					1(兼)

★育休・休暇中職員は現員から除く

★雇用形態変更・育休、休職の入出は、異動入・出にてカウントする

★年度末日退職者及び移動出職員は年度末日現員に含む

★年度当初採用者及び異動入職員は年度当初現員に含む

★数字は総数で表示し、うちパート職員の数は（　）内に表示

５－２　職員研修の状況

施　設　内			施　設　外		
月・日	研修名	人数	月・日	研修名	人数
4.26	障害者差別解消法研修	7	5.13	障害支援区分認定調査員研修	2
5.19	チューター研修	4	6. 8	全国盲重複研運営委員会、	1
6.24	アセスメント研修	15	6. 9	全国盲重複研運営施設長セミナー	1
6.30	権利擁護・虐待防止研修	3	6.11	さをり織指導者養成講座	1
7. 7	フェロー交流会	5	6.25	千葉認知症研究会	1
7.20	マネジメント研修	15	7.27～29	視覚障害者リハ基礎講習会	2
7.22	精神障害について	17	7.27	強度行動障害支援者養成研修	1
8.23	高齢期について	13	8.24	社会福祉法人制度改革対応セミナー	1
9.23	アセスメント研修	13	8.26～27	リカバリー全国フォーラム	2
10.21	防犯対応研修	3	9.11/18	強度行動障害支援者養成研修	1
10.24	評価者研修	2	10. 6	タクティールケアを学ぼう	1
11.11	高齢期についての研修(ルミエール)	15	10.11	力に頼らない楽ワザ介護研修	2
11.25	口腔ケア研修	13	10.5/12	盲ろう者福祉ワーカー研修	1
11.25	感染症研修	14	11.1～2	全国盲重複障害者福祉施設研究大会	3
12.20	アセスメント研修	1	11.10	佐倉ゆうゆうの里実践研究発表会	1
1.21～25	はちす苑研修	1	12. 4	誰もが住みやすい佐倉意見交換会	1
1.23	数字力講座	6	12.26	介護職のための研修	1
2.21	アセスメント研修	11	1.24～25	災害時視・聴覚障がい者支援リーダー養成講座	2
2.23	マネジメント研修	3			
3.22	チューター研修	3	3.8～9	強度行動障害支援者養成研修	1
			3.24	障害者サービス事業者集団指導	1

５－３　実習受け入れ状況

期　　間	養　成　機　関　名	実習対象資格等	人　数
5.16～ 5.25	アルファ医療福祉専門学校	社会福祉士	1
6. 1～ 6.14	ＮＨＫ学園	社会福祉士	1
6.13～ 6.16	中央介護福祉専門学校	介護福祉士	1
6.27～ 6.30	中央介護福祉専門学校	介護福祉士	1
8. 1～ 8.20	淑徳大学	社会福祉士	1
8. 1～ 8.31	和洋女子大学	社会福祉士	2
8.22～ 9. 2	江戸川大学総合福祉専門学校	社会福祉士	2
9. 5～ 9.21	ＮＨＫ学園	社会福祉士	1
9. 5～10. 7	東京福祉専門学校	社会福祉士	1
10. 3～10.17	城西国際大学（前半）	社会福祉士	2
10.31～11.12	城西国際大学（後半）	社会福祉士	2
12. 1～12.14	ＮＨＫ学園	社会福祉士	1
1. 31～ 3. 8	東京福祉専門学校	社会福祉士	2
2. 6～ 2.24	江戸川大学総合福祉専門学校	社会福祉士	1
3. 1～ 3.16	ＮＨＫ学園	社会福祉士	2
3.13～ 3.19	新国際福祉カレッジ	介護福祉士	1

６　行事実施状況

月	行　　事　　内　　容
4月	あいとひかりのコンサート（17）
5月	個別旅行(銚子)(7)、相撲観戦(15)、余暇行事(ぞうの国)(22)
6月	防災訓練（8)、のど自慢大会(12)、野球観戦(12)、散策クラブ（お台場）(19)、 海ほたる(24)、外食(一幸)(25)、鉄道クラブ（横浜）(26)
7月	成田祇園祭(10)、ギター弾き語り演奏会(16)、草笛クラブ(昼下がりのほっとカフェ)(20)
8月	個別旅行(草津)(6～7)、中華バイキング(12・21)、ふるさとぶらり旅(15)、 千葉ニュータウン(15)、みんなで楽しもう会(26)、根郷福祉祭り(27)
9月	北海道旅行(17～19)、ディズニーリゾート(21～22)、法人墓参り(24)、葛西臨海公園(25)、
10月	愛光秋まつり(8)、北海道旅行（14～16)、ディズニーリゾート(22～23)、ｽｶｲﾂﾘｰ(30)
11月	外食(一幸)（5)、山王自治会清掃(6)、散策クラブ(アンデルセン公園)(13)、 四街道ガス灯ロードレース(20)、鉄道クラブ(アーバンライン)(27)
12月	ラーメン博物館(4・18)、ロードレース八千代(11)、エレクトーンクラブ(学童)(16) エレクトーンクラブ(森興業)(17)、ディズニーシー(17)、 エレクトーンクラブ(学童)(21)、もみの木会（23)、エレクトーンクラブ(学童)(26)、 ふるさとぶらり旅(29)
1月	福袋(2)、初詣(3)、横浜中華街(14)、ディズニーリゾート(21～22)、個別外出(大宮)(29)
2月	山王自治会清掃日(5)、福祉大相撲(11)、イチゴ狩り(12)、ふるさとぶらり旅(19)
3月	消防車博物館(12)、弥生会（20)、イオンモール(12)、 エレクトーンクラブ(学童)(13)、 野球観戦(19)、弥生会(20)、佐倉朝日健康マラソン（26）
毎月	草笛クラブ、カラオケクラブ、茶道クラブ、エレクトーンクラブ

Ⅲ－４　佐倉市よもぎの園

2016（平成 28）年度　事業報告書

就労継続支援Ｂ型

佐倉市よもぎの園

概況

当年度のスローガンは「地域の中で働きがいのある職場を目ざして」であった。しかし、4 月から受注作業の量が減り、前年度と比較すると平均工賃が下がってしまった。そのような中、10 月に年間 400 万円の業務を請け負っている業者より、当年度で業務終了の話があった。理由は経費削減のためにオートメーション化し、自社で製造するということであった。受注収入の 36%を占めている作業であったため、他の受注作業を受けるため営業活動を開始した。しかし、単発的な作業が多く次年度の動向を心配したが、既存の事業所より単価が高く継続できる作業の話があり、3 月から少量を受注し 5 月より本格稼働に入る予定である。また、雨が降ると敷地内がぬかるみ、車両の出し入れに苦慮していた園庭を独自でコンクリート舗装による補修工事を行った。

〇数値目標

稼働率　：　目標 95%　⇒　実績 89.9%

登録者数 42 名。稼働率については、利用者の高齢化による施設入所等 8 名が利用終了となったことが大きく影響している。しかし、その中の 1 名はＡ型作業所への移行であり、一般就労を目指している利用者なので、ステップアップを心より期待したい。

〇サービス目標

支払工賃アップと収益の向上を目指したが、受注作業の減少により達成できなかった。

虐待防止委員会の機能充実については、虐待防止委員会を月に 1 回定期的に開催し、利用者個人の状況や作業の把握をすると共に、職員の支援の状況を細かく把握し機能の充実を図った。

〇地域連携目標

地域との交流については、9 月の防災訓練、12 月の清掃・祭、3 月の福祉祭りと積極的に参加した。また、特別支援学校からの実習生の受入れを、前年度の 2 名から 5 名へと増やした。その結果、特別支援学校の生徒 1 名が次年度の 4 月から利用することが決まった。

〇業務遂行目標

積極的な情報の発信等を心がけ情報の共有化を図ることはできたが、職員間の連携については人事異動の関係もあり、まだまだ道半ばである。また、利用者・家族への情報提供では文書での案内・報告を密にして充実することができた。

〇人材育成

報告・連絡・相談については常勤職員を中心に実行できている。また組織人としての立ち居振る舞いができる人材育成についてはまだまだ道半ばであり、継続して取り組む必要性を感じている。基礎知識と専門性を高める内部・外部研修の参加については、当年度より、日本知的障害者福祉協会に加入し、外部研修への参加を積極的に実施した。次年度は精神障害者への理解を深めるため、精神科の医師を講師に招き内部研修を実施する予定である。

〇2014～2016 年度第 2 期中期経営計画「最終年度報告」

実施項目　①利用者登録者数　50 人　⇒　42 人（2017 年 3 月 31 日現在）

②稼働率 95%　⇒　89.1%（3 年平均）

（所長　中川光男）

１　施設利用状況

１－１　利用状況

（2016.4.1～2017.3.31）

【定員 40 名】

	延べ年間通所利用者			1日平均		異動	
	定員	契約数	現員数	利用数	稼動率	入所	退所
年間	10,600	12,262	9,531	35.9	89.8	4	8

１－２　入・退所状況

	総数	就労	学校	在宅	施設等	入院	死去	その他
入所者と入所前状況	3	1	1	0	1	0	0	0
退所者と退所事由	8	1	0	0	7	0	0	0

１－３　出身地別利用状況

出身地	男	女	合計
佐倉市	29	17	46
成田市	0	1	1
東京都	1	0	1

２　利用者の状況

２－１　年齢構成（2016. 4. 1現在）

	総数	19～	20～	30～	40～	平均年齢	最高齢	最年少
総数	48	1	7	12	28	42.2	67	19
%	100	2.0	14.6	25.0	58.4			
男	30	0	5	8	17	42.1	66	24
女	18	1	2	4	11	42.2	67	19

２－２　療育手帳による障害程度

（2016. 4. 1現在）

	総数	最重度	重度	中度	軽度	不所持
総数	48	10	3	20	10	5
%	100	20.8	6.2	41.7	20.8	10.5
男	30	8	2	9	7	4
女	18	2	1	11	3	1

２－３　身体障害者手帳による障害程度

（2016. 4. 1現在）

	総数	1級	2級	3級	4級	5級	6級	不所持
総数	48	4	0	0	0	1	0	43
%	100	8.0	0	0	0	2.0	0	90.0
男	30	2	0	0	0	1	0	27
女	18	2	0	0	0	0	0	16

２－４　精神障害者保健福祉手帳による障害程度

（2016. 4. 1現在）

	総数	1級	2級	3級	不所持
総数	48	4	1	0	43
%	100	8.0	2.0	0	90.0
男	30	2	1	0	27
女	18	2	0	0	16

２－５　就学状況（最終学歴）

（2016. 4. 1現在）

	総数	普通学校義務	特別支援義務	普通高等学校	特別支援高等部	千葉盲（再掲）	その他	不就学
総数	48	13	1	8	25	0	1	0
%	100	27.1	2.0	16.8	52.1	0	2.0	0
男	30	6	1	7	16	0	0	0
女	18	7	0	1	9	0	1	0

２－６　就労経験

（2016. 4. 1現在）

	総数	就労経験あり	就労経験なし
総数	48	24	24
%	100	50.0	50.0
男	30	17	13
女	18	7	11

３　利用者の障害の状況

３－１　視覚障害

（2016. 4. 1現在）

	総数	盲	弱視	小計	晴眼
総数	48	0	1	0	47
%	100	0	2.0	0	98.0
男	30	0	1	0	29
女	18	0	0	0	18

３－２　障害の状況（総括）

（2016. 4. 1現在）

	総数	視覚	肢体	聴覚	音声言語	内部	知的	精神	重複
総数	48	1	6	1	1	2	43	5	1
%	100	2.0	12.5	2.0	2.0	4.2	90.0	10.4	2.0
男	30	1	3	0	0	1	27	2	0
女	18	0	3	1	1	1	16	3	1

★重複障害は視覚・聴覚・音声言語・精神・知的の５障害のうち３以上に該当するもの。

４　援助サービスの実施状況

作業	*ヘッドホン結束　（ヘッドホンリサイクル） 国際線航空機のヘッドホン清掃、結束作業。３種類ほどのヘッドホンを取り扱っている。今年度より、マットカバーにマットを入れる作業も取り扱っている。 よもぎの園の主軸となっている作業。 *食品トレー組み立て作業　（うどんを運ぶためのトレー作り） 大手うどんチェーン店で使用されている。段ボール素材の食品トレーを組み立て出荷している。よもぎの園の主軸となっている。 *腰壁材梱包　（家の壁紙の分かれ目を隠すもの） 木目調の部材を短冊段ボールで梱包し型番のシールを貼り出荷。約２０の色種類がある。在庫管理の部屋を設け職員による徹底管理が必要。 *試験管の蓋のパッキン詰め 試験管のキャップ作り。キャップにゴムパッキンを入れ完成させる作業。 特別支援学校に教育教材として作業を提供。 *枠のフィルム剥がし　（ＣＤ，ＤＶＤラベルを印刷した原版） シルク印刷の原版清掃作業。アルミ枠に貼っている使用済み原版のフィルムを剥がし、清掃後に出荷する。 *スライダート　（建築物の基礎に埋め込む資材） ３種類の部材を組み合わせる作業。プラスチックのベースに釘と蓋をかぶせハンマーで圧着させる作業。 *足場インサート　（建築物の基礎に埋め込む資材） ５種類の部品を組み合わせる作業。金属ネジにプラスチックの素材を入れ込みナットを機械で締めこむ作業。 *検査キット封入　（健康診断で使用する検尿容器） 健康診断で使用する尿器のシール貼り及び封入作業。病院より直接作業の依頼を受けている。 *電子端子のはめ込み作業 石油ファンフィターの電子端子を５本入れる作業を受けている。 *クロスの封入れ作業 パソコンを拭くクロスを検品して袋に入れる作業

自治会活動	「利用者による利用者のための自治会」をキャッチフレーズに発足。 会長…1 名　副会長…1 名　書記…1 名 ＊個別外出について 外出先などの話し合い ＊給与規定について 給与規定の内容確認および承認 ＊期末ボーナスについて ボーナスの支給方法および承認 ＊環境整備について 掃除分担の作成 ＊行事計画について 行事計画の内容確認および承認 ＊その他 利用者間の決まり事の確認および周知の場
別外出	基本的に平日を外出日とし、４～５名の小グループにて実施し昼食を食べて帰宅。外出先は、自治会で検討し決定する。今年度の外出先は、映画鑑賞・買い物・観光・グルメツアーであった。
送迎	＊４経路運行 ①よもぎの園～ユーカリヶ丘～染井野方面～よもぎの園 ②よもぎの園～王子台～ＪＲ佐倉方面～よもぎの園 ③よもぎの園～大篠塚～大蛇方面～よもぎの園 ④よもぎの園～京成佐倉～よもぎの園 ＊利用者からの直接利用料の徴収はなし。
宅配弁当の仲介	昼食サービスの要望を受け、宅配弁当の仲介を実施（希望者のみ） ＊出勤時に現金を徴収して、職員が宅配弁当業者に注文

５　運営管理

５－１　職員状況

職　　名	2016.4.1 現員数	2016.4.1～2017.3.31				2017.3.31 現員数
		採用	異動入	異動出	退職	
総　　数	12(7)					
管理者	1					1
主任 (ｻｰﾋﾞｽ管理責任者)	1					1
生活支援員	4.3（7）					4.3（7）
作業指導員	2					2
目標達成指導員	1					1

★数字は総数で表示し、うちパート職員の数は（　）内に表示。

５－２　職員研修の状況

施　設　（内）			施　設　（外）		
月・日	研　修　名	人数	月・日	研　修　名	人数
7.20	マネジメント研修	1	8.2	てんかん基礎講座	1
10.24	評価者研修	1	～3		
11.23	マネジメント研修	1	9.3	障害者福祉サービス経営セミナー	1
1.23	数学力アップ研修	1	10.13	福祉法人財務改革の方向	1
2.5	職員実践発表会	1	10.31	佐倉市社会福祉法人の未来を創る協議会名刺交換会	1
2.23	マネジメント研修	1			
3.15	労務管理講習会	1	11.18	全国生産活動・就労支援部会研修会	2
			～19		
			12.13	施設長研修会	1
			～14		
			12.15	サービス管理責任者研修	1
			～16		
			12.21	日本防火・防災協会研修会	1
			～22		
			2.24	全国権利擁護支援フォーラム	1
			～25		
			3.1	障害者の就労スキルをホンキで考える座談会	1
			3.3	福祉作業所会計塾（工賃を知る）	1
			3.8	就労支援セミナー	1
			3.14	精神障害者地域活動支援事業所等研修会	1

５－３　行事実施状況

月　日	行　事　内　容
4.22	春陽会
5.27	日帰り旅行
10.28	秋楽会
12.9	忘年会
1.12	新年会
3.24	会食会（送別会）
備　考	個別外出:月に一回程度、小グループに分かれて実施（行き先:映画鑑賞・買い物等）

Ⅲ－５　ワークショップかぶらぎ

2016（平成 28）年度　事業報告書

ワークショップかぶらぎ

フレックスワークコース／ライフステップコース

（就労継続支援Ｂ型）　　（自立訓練（生活訓練））

概況

当年度のスローガンは「地域の拠点となる施設づくり」であった。当事業所のサービス内容や存在を知ってもらうため、地域の精神保健福祉・医療に関わる 35 ヶ所をリストアップし営業を実施したが、“地域における当事業所の認知度の低さを痛感”すると共に“地域の拠点になるまでの道のりが遠い”ことを改めて実感した。

〇数値目標

・フレックスワークコース［就労継続支援（Ｂ）型］：目標値 70%⇒実績値 60.7%（昨年度比：2.3%増）

・ライフステップコース［自立訓練（生活訓練）］：目標値 95%⇒実績値 61.7%（昨年度比：7.7%減）

＊利用終了：7 名、新規利用開始：16 名、登録者 60 名（前年度比 120%増）
利用修了者に対して新規受入者が大幅に上回ったが、稼動に反映するには至らなかった。

〇サービス目標

・作業収入：5,088,211 円（昨年度比：175%増）

セットアップ部［内職作業］　1,427,243 円（前年度比：230%増）

＊従来取引のあった単価の安い業者を一掃。新規に 6 業者との取引を開始し、現在 5 業者との取引を継続している。

プ リ ン ト 部［印刷作業］　3,660,968 円（前年度比 160%増）

＊千葉県精神保健福祉センター、海上自衛隊航空補給処、印旛地域振興事務所など販路の拡大に努め、10 箇所との新規契約を結ぶに至った。

・平均工賃：時給 316 円（昨年度比：461%増）　月額 7,847 円（昨年度比：112%増）

＊昨年公表された千葉県工賃実績の一覧（約 250 ヶ所）において、時給で比較した場合、上位 20 番以内にランクインする見込みである。

〇地域連携目標

・全国 68 ヶ所に設けられている、「ひきこもり地域支援センター」に相談があったケースで訪問支援が実施できたのは全体の 9%との調査結果が公表された。当事業所の訪問型を利用しての“ひきこもり支援”についても同様で苦戦を強いられたが、“長期に渡りひきこもり状態にあった方が、10 年以上ぶりに洋服を買いに行くことができたケース”や“家庭内で一進一退を繰り返す状況を何とか打破しようとする家族”の相談に乗るなど、細々とではあるが形を残すことができた。

〇業務遂行目標

・特定非営利法人ＶＡＩＣコミュニティケア研究所による第三者評価を受診。利用者の主体性を重んじたサービス展開について高い評価を受けた。指摘事項として『地域交流スペースの活用が不十分』『更なる工賃向上の取組みが必要』との指摘を受けた。

〇人材育成目標

・先端の精神保健福祉医療の動向をおさえるべく全国規模で行われた研修会に参加した。福祉的な視点での関わりの重要性を説く内容が多く、我々が行ってきた実践の有効性を再確認することができた。主だった研修としては、“リカバリーフォーラム 2016”“第 5 回全国ピアスタッフの集い”“第 8 回 ACT 全国研修会関東大会”である。

〇2014～2016 年度 第 2 期中期経営計画　［最終年度報告］

・目標に掲げた利用登録者数 30 名について目標を大幅に上回る 60 名を達成することができた。しかし、稼動率については、目標には届かず 61.2%に止まった。要因としては、利用者のリカバリーが促進され事業所の通所日数が減る傾向にあったこと。また、2015 年の事業移行が行われ“サービス内容の構築段階”であったことと“地域や関係機関による当事業所の認知度の低さ”があげられる。

（所長　菊地 暁生）

１　施設利用状況（2016.4.1～2017.3.31）

１－１　利用状況

①就労継続支援Ｂ型　　【定員２４名】

	延べ年間通所（訪問）利用者			1日平均		異動	
	定員	契約数	現員数	利用数	稼動率	入所	退所
年間	6,480	12,485	3,863	14.3	59.6%	16	7

②自立訓練(生活訓練)　　【定員６名】

	延べ年間通所(訪問)利用者			1日平均		異動	
	定員	契約数	現員数	利用数	稼動率	入所	退所
年間	1,620	2,360	878	3.2	54.2%	6	9

１－２　入・退所状況

①就労継続支援Ｂ型

	総数	就労	学校	在宅	施設等	入院	死去	その他
入所者と入所前状況	16	0	0	16	0	0	0	0
退所者と退所事由	7	2	0	4	1	0	0	0

②自立訓練(生活訓練)

	総数	就労	学校	在宅	施設等	入院	死去	その他
入所者と入所前状況	6	0	0	4	0	2	0	0
退所者と退所事由	9	0	0	0	9	0	0	0

１－３　出身地別利用状況

①就労継続支援Ｂ型

出身地	男	女	計
佐倉市	16	21	37
四街道市	1	0	1
八千代市	0	0	0
酒々井町	0	2	2
成田市	0	0	0
八街市	1	0	1

男	女	合計
18	22	40

②自立訓練(生活訓練)

出身地	男	女	合計
佐倉市	4	6	10
四街道市	0	1	1
八千代市	1	0	1

２　利用者の状況

２－１　年齢構成（2016. 4. 1現在）

①就労継続支援Ｂ型

	総数	～19	20～	30～	40～	50～	60～	平均年齢	最高齢	最年少
総数	40	1	3	13	15	8	0	40.8	58	19
%	100	2.5	7.5	32.5	37.5	20.0	0			
男	18	0	1	8	5	4	0	41.9	58	29
女	22	1	2	5	10	4	0	39.9	53	19

②自立訓練(生活訓練)

	総数	19～	20～	30～	40～	平均年齢	最高齢	最年少
総数	12	0	2	5	5	37.3	50	26
%	100	0	16.6	41.6	41.6			
男	5	0	0	2	3	41.0	50	35
女	7	0	2	3	2	34.7	43	26

２－２　精神障害者保健福祉手帳による障害程度

①就労継続支援Ｂ型

	総数	1級	2級	3級	不所持
総数	40	1	24	2	13
%	100	2.5	60.0	5.0	32.5
男	18	0	12	2	4
女	22	1	12	0	9

②自立訓練(生活訓練)

	総数	1級	2級	3級	不所持
総数	12	3	4	0	5
%	100	25.0	33.3	0	41.6
男	5	2	1	0	2
女	7	1	3	0	3

２－３　就労経験

①就労継続支援Ｂ型

	総数	就労経験あり	就労経験なし
総数	40	30	10
%	100	75.0	25.0
男	18	14	4
女	22	16	6

②自立訓練(生活訓練)

	総数	就労経験あり	就労経験なし
総数	12	9	3
%	100	75.0	25.0
男	5	3	2
女	7	6	1

3　利用者の障害の状況

3－1　視覚障害

①就労継続支援Ｂ型

	総数	全盲	弱視	小計	晴眼
総数	40	0	0	0	40
%	100	0	0	0	100
男	18	0	0	0	18
女	22	0	0	0	22

②自立訓練(生活訓練)

	総数	盲	弱視	小計	晴眼
総数	12	0	0	0	12
%	100	0	0	0	100
男	5	0	0	0	5
女	7	0	0	0	7

3－2　知的障害

①就労継続支援Ｂ型

	総数	最重度	重度	中度	軽度	小計	非該当
総数	40	0	0	0	1	1	39
%	100	0	0	0	2.5	2.5	97.5
男	18	0	0	0	0	0	18
女	22	0	0	0	1	0	21

②自立訓練(生活訓練)

	総数	最重度	重度	中度	軽度	小計	非該当
総数	12	0	0	0	0	0	12
%	100	0	0	0	0	0	100
男	5	0	0	0	0	0	5
女	7	0	0	0	0	0	12

４　援助サービスの実施状況

作業	【工賃支給体制の変換－利用者主体の現場へ－】 作業体制を“個人で行う出来高制”から“協働作業で行う分業制”への変更に伴い、給与規定を“完全歩合制”から“時給制”へと変更した。年度当初は他者との協働作業に不安を覚える利用者も少なくなかったが、現在では利用者同士が声をかけ合うなど、お互いフォローしながら取り組むまでになっている。その姿からは、単に「与えられた作業」をこなしているのではなく、「より良い仕事をしていく」意識がひしひしと感じられる。 これまでは、職員が主体となって「利用者が作業しやすい環境」を提供し、利用者も職員もそれを当たり前のこととして享受していたように思う。しかし、“仕事”の中心・主役となるのは誰かと問われれば、それは間違いなく利用者・職員含む「全員」である。 体制の変更でまず行ったことは、「自分たちの仕事の進め方や工賃を上げていくための方策を自分たちで考える」という職員と利用者間における“支援する側・される側の関係性からの脱却”という取り組みであった。 毎月行われる作業ミーティングを通して、スタッフと利用者が対等の立場から意見を出し合い、共に効率の良い作業環境を考える。最初こそ、指名されても意見が出ることは少なかったが、回を重ねる毎に作業場のレイアウトから治具の開発、作業の進め方や問題点に至るまで、積極的な提案と工夫が出されるようになった。年度後半には利用者単独による車両運転での納品や、業者への電話連絡や請求書等の書類作成なども実施し、利用者が主体となって仕事へ取り組む体制が着々と構築され始めている。 自分達で決定し実行をするという当たり前のことが、責任と自信を得ることに繋がる。「同じ職場の仲間として、対等な立場で、やれることをやり、貢献する」この基本スタンスを胸に、今後もより良い現場を利用者と共に構築していきたい。 【プリント部（印刷作業）の拡充と販路拡大への取り組み】 従来の印刷受注を確保しつつ、印刷受注案件の拡充と、新規受注先の発掘を行った。法人内受注では、大きなものとして法人年報や合理的配慮ガイドブックの印刷・製本作業に取り組んでいる。法人外での印刷受注では、海上自衛隊の封筒印刷の入札案件を２回連続で契約締結という大きな成果の他、印旛地域振興センターや千葉県精神保健センターの封筒印刷など、新規受注先の獲得が出来ている。また、年度末にかけて名刺関係の営業活動を精力的に行い、販路拡大への取り組みも実施している。 【セットアップ部（内職作業）】 年度開始と同時に、医療用ビニールシート折り・梱包の作業を開始。作業当初は作業工程や作業量に利用者も不安を感じることもあったが、現在は余裕をもって一定の作業量を納品できる体制を整えた。年度の途中には、原付バイクのナンバープレート用のボルトセットの組立作業・マーカーの組立作業の正式受注を獲得。こちらも毎月定量を請負う作業体制で臨んでいる。また、状況に応じスポットでの作業受注が受けられる２社との契約を締結している。地域活動支援センター時代から長年受注していた業者及び新たに契約に至ったＢ社との取引については終了となっている。 （職業支援員　椎名　豊）

プログラム	【疾病管理とリカバリー（ＩＭＲ）】 当年度よりライフステップコースの利用者を対象として、新プログラムとして開始した。内容は「疾患をマネジメントする方法を学び、それに捉われるのではなく、自らのリカバリーを進めていこう。」というものである。テキストを使用し、毎回違ったテーマに基づき、グループワークを交えながら進行する。参加者からは「新たな考え方や視点が得られた。」「これまでは病気を治すことばかり考えていた。もう少し楽しんでいこうと思う。」などの感想が聞かれた。 【元気回復行動プラン（ＷＲＡＰ）】 ＩＭＲと同じく当年度よりライフステップコースの利用者を対象に新たに導入したプログラムである。そもそもＷＲＡＰとは精神疾患当事者により開発されたプログラムであり、ピアの力が活かされる構成となっている。内容は「自分が元気でいるための行動プラン」を作ることを通して、体調を崩すきっかけや、元気になるきっかけ、助けとなるサポーターなどを発見していく、というものである。当事者でＷＲＡＰファシリテーターとして活動していた方と知り合うことができ、12 月よりワークショップかぶらぎのＷＲＡＰに毎回参加してもらえることになった。スタッフが進行するのではない、本来の実施方法に近いプログラムとなった。 【かぶらぎ知恵袋】 ライフステップコース、フレックスワークコースどちらの利用者も参加できるプログラムである。内容はコミュニケーションや日常生活の困りごとをテーマとして持ち寄り、グループワークでアイデアを出し合うというものである。回数を重ねるたびに、積極的に他の利用者に自らの経験からアイデアを提案する利用者が増えていった。また、年度途中に本プログラムにインターネット上の掲示板を模して「ソーシャルスキルトレーニング」から「かぶらぎ知恵袋」へ名称を変更し、“スタッフ主導で結論を出すのではではなく、質問者自らがアイデアを選びとっていく”というプログラムの主旨を反映させた。 【茶話会】 茶話会は、何か結論を出していく話し合いではなく、気構えの不要なフリートークの場として実施した。利用者の中にはこの日を楽しみにしている方もおり、趣味のことなど利用者同士の何気ない会話から新たな人間関係を築いていく様子が見られた。 【ピアネットワークプログラム（ＰＮＰ）】 当年度より、「利用者自主運営による同好会」のようなプログラムとしてＰＮＰを新設した。3 人以上の利用者が集まれば、グループ成立とし、年間 1 人あたり 3,000 円を活動資金としてワークショップかぶらぎが助成することを決めた。利用者から様々な同好会のプランがあがり、当年度は「スイーツ&クッキングクラブ」「旅行クラブ」「カラオケクラブ」「手芸クラブ」が活動をおこなった。打ち合わせの設定、実施計画書作成や費用の計算など全て利用者同士で協力して行ってもらった。打合せや実施当日の各々の体調にどのように配慮したらよいかなど、「自分たちに必要な配慮を自分たちで生み出す」という奥深い内容まで発展したグループもあった。 【パソコン】 土曜日を中心に希望する利用者にパソコンのプログラムを実施した。前年度から引き続いて参加している利用者が多いこともあり、パソコンに対する興味が増して自宅

	にパソコンを導入する人もいた。またワード、エクセルに対する自信を深めた利用者から「就労に活かしたい」との発言も聞かれた。（生活支援員　古澤　充健）
カフェ活動	クラブハウスをモデルとしたカフェ活動は2年目を迎えた。当年度の新たな取組みとして、通常メニューとは別に夏季の特別メニューを検討し、「かき氷」をメニューに加えた。店に立つ利用者は注文を受けて提供するまでの機器の操作や器の選定など事前練習して、提供に備えた。また6月に東京ビッグサイトで行われた「カフェ喫茶ショー」に参加した。カフェ経営者、従業員向けの見本市で、利用者も名刺を作り、業者と名刺交換し新商品や機材の情報を得ることが出来た。「初めて名刺を作った。業者との話は緊張したが、自分が関わっていることなので興味を持って聞けた。大きな経験になった。」と多くの利用者がコメントしていた。店番のほか、在庫管理や発注など、徐々にではあるが当初スタッフが担った部分も利用者に加わってもらった。かぶらぎのカフェが目指している「共同運営」の方向性で進めることができた。 （生活支援員　古澤　充健）

５　運営管理

５－１　職員状況

職　　名	2016.4.1 現員数	2016.4.1～2017.3.31				2017.3.31 現員数
		採用	異動入	異動出	退職	
総　　数	7（2）				1	7(2)
管理者	1兼					1兼
主任	1兼					1兼
生活支援員	4（2）				1	4(2)
職業指導員	1					1

★数字は総数で表示し、うちパート職員の数は（　）内に表示。

５－２　職員研修の状況

施　設　（内）			施　設　（外）		
月・日	研　修　名	人数	月・日	研　修　名	人数
7月20日 11月24日 2月23日	マネジメント研修	1	5月13日	千葉県障害支援区分認定調査員研修	1
			6月8日	就労事業振興センター印刷事業所研修会	3
			6月12日	クラブハウス実践報告会	2
			7月17日 ～18日	ＩＭＲ（疾病管理とリカバリー）全国研修	2
			8月26日 ～27日	リカバリー全国フォーラム	3
			10月10日	発達障害研修	1
			11月12日	全国ピアスタッフの集い	2

			～13日		
			12月15日	印旛保健所研修「障害のある兄弟姉妹をもつ立場から」	3
			1月28日	ＡＣＴ全国研修	4
			～29日		
			2月25日	ＳＳＴ研修	5
			3月7日	千葉県災害対策研修	1
			3月14日	千葉県精神保健福祉センター主催研修	1

５－３　実習受け入れ状況

期　　間	養成機関名	実習対象資格等	人数
7月11日～27日	城西国際大学	精神保健福祉士	1
10月12日～14日	城西国際大学	精神保健福祉士	1
1月15日～17日	東京福祉専門学校	精神保健福祉士	1
1月20日～22日	東京福祉専門学校	精神保健福祉士	1

５－４　行事実施状況（2016. 4. 1～2017. 3. 31）

月日	行　事　内　容
6月15日	カフェ喫茶ショー
7月30日	家族会との懇談会
9月24日	家族会との勉強会
12月7日	福祉サービス第三者評価調査
12月24日	かぶらぎカフェ主催クリスマス会

Ⅲ－６　ジョーの家

2016（平成 28）年度　事業報告書

共同生活援助（障害者グループホーム）

ジョーの家

概況

当年度のスローガンは「暮らしに潤い～居住環境にちょっとした変化を～」であった。共有スペースのリフォーム、と劣化した家具類の買い替えを実施、廊下には観葉植物や飾り棚などを設置した。利用者から「明るい雰囲気になった。」と好評を得た。

利用者の動静については、退所や入院等なく、年間を通じて健康で安定した生活を送ることができた。世話人は「ジョーの家」が重んじている“地域の家庭生活に近い雰囲気”を大切に、利用者の日常をさりげなく支える視点で利用者に接することができている。

〇数値目標

稼働率　目標 95%⇒実績 100%

〇地域連携目標

当年度の目標の一つに「202 号室の有効活用」をあげており、アパートであったハード面の特徴を生かし、“一人暮らし体験ルーム”として整備した。「親元を離れて一人暮らしをしたいが、自信がない。」、「一人暮らしを希望しているが親が無理だと言って理解してくれない。」といった状況にある方が一歩踏み出せる場所となれば、と考えた。また、一時的に親元を離れるレスパイトとしてのニーズへも対応する。この件は障害福祉サービスではなく、本人との自由契約の形をとり、費用負担は実費のみであることも利点である。地域の相談事業所やグループホーム関係者にこの件について説明すると「地域にはこのような取組みを望む声は多い。」との反応があった。“地域で住みたい場所で望む暮らしをする”ことを実現するために、必要なのはグループーホームだけではない。福祉制度などのサポートを活用しながらアパート等で一人暮らしをするという方向への架け橋になればと考えている。

〇業務遂行目標

前年度に受審した福祉サービス第三者評価事業の結果を受け、スタッフへの法人理念の浸透、法人職員としての一体感を目標にあげた。世話人会議での法人の事業への取り組みや、事業短信の回覧などを実施した。

〇人材育成目標

印旛圏域障害者グループホームの研修会「世話人の集い」に参加した。参加した世話人から「障害の有無ではない、人が人として生きる普通にある自分らしい暮らしを求める姿勢」の大切さを学んだとの報告を受けた。また、印旛圏域障害者グループホーム等連絡協議会より打診を受け、ジョーの家を会場としてサービス管理責任者向け研修を実施した。ジョーの家を含む６名のサービス管理責任者が集まり、情報交換ができた。

〇2014～2016 第 2 期中期経営計画[最終年度報告]

2015～2016 の平均稼働率は 100%であった。現時点で利用者からジョーの家での生活に対する満足度は高く、退去の意向はない。4 名の利用者それぞれが、自信の確立したジョーの家での生活スタイルを維持できていることの表れであろう。　（管理者　菊地　暁生）

１　利用状況（2016. 4.1～2017. 3.31）

１－１　利用状況　【定員４名】

	延べ年間利用者			1日平均		異動	
	定員	契約数	現員数	利用数	稼動率	入所	退所
年間	1,464	1,464	1,464	4	100	0	0

１－２　入・退所状況

	総数	就労	学校	在宅	施設等	入院	死去	その他
入所者と入所前状況	0	0	0	0	0	0	0	0
退所者と退所事由	0	0	0	0	0	0	0	0

１－３　出身地別利用状況

出身地	男	女	合計
佐倉市	2	1	3
四街道市	1	0	1

２　利用者の状況

２－１　年齢構成（2017. 4. 1現在）

	総数	30～	40～	50～	60～	平均年齢	最高齢	最年少
総数	4	0	1	1	2	57	65	45
%	100	0	25	50	25			
男	3	0	0	2	1	61	65	56
女	1	0	1	0	0	47	47	47

２－２　精神障害者保健福祉手帳による障害程度

	総数	1級	2級	3級	不所持
総数	4	0	1	2	1
%	100	0	25	50	25
男	3	0	1	1	1
女	1	0	0	1	0

２－３　療育手帳による障害程度

	総数	最重度	重度	中度	軽度	不所持
総数	4	0	0	0	0	4
%	100	0	0	0	0	100
男	3	0	0	0	0	3
女	1	0	0	0	0	1

２－４　身体障害者手帳による障害程度

	総数	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級	不所持
総数	4	0	0	0	0	0	0	4
%	100	0	0	0	0	0	0	100
男	3	0	0	0	0	0	0	3
女	1	0	0	0	0	0	0	1

２－５　就学状況（最終学歴）

	総数	普通学校義務	特別支援義務	普通高等学校	特別支援高等部	千葉盲（再掲）	その他	不就学
総数	4	2	0	2	0	0	0	0
%	100	50	0	50	0	0	0	0
男	3	2	0	1	0	0	0	0
女	1	0	0	1	0	0	0	0

２－６　就労経験

	総数	就労経験あり	就労経験なし
総数	4	4	0
%	100	100	0
男	3	3	0
女	1	1	0

３　利用者の障害の状況

３－１　視覚障害

	総数	全盲	弱視	小計	晴眼
総数	4	0	0	0	4
%	100	0	0	0	100
男	3	0	0	0	3
女	1	0	0	0	1

３－２　知的障害

	総数	最重度	重度	中度	軽度	小計	非該当
総数	4	0	0	0	1	1	3
%	100	0	0	0	25	25	75
男	3	0	0	0	1	1	2
女	1	0	0	0	0	0	1

３－３　障害の状況（総括）

	総数	視覚	肢体	聴覚	音声言語	内部	知的	精神	重複	その他
総数	4	0	0	0	0	0	1	3	0	0
%	100	0	0	0	0	0	25	75	0	0
男	3	0	0	0	0	0	1	2	0	0
女	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0

★重複障害は視覚・聴覚・音声言語・精神・知的の５障害のうち３以上に該当するもの。

４　援助サービスの実施状況

食事提供	朝・夕の食事を提供している。業務用献立配達システムにより、栄養管理された献立に基づいて世話人が調理し、食事を提供している。また、誕生日などの日にはその利用者の希望するメニューに変更し提供している。
体調管理	健康状態の把握。通院や静養の促し。

５　運営管理

５－１　職員状況

職　　名	2016.4.1 現員数	2016.4.1～2017.3.31				2017.3.31 現員数
		採用	異動入	異動出	退職	
総　　数	5(3)					5(3)
管理者	1 兼					1 兼
サービス管理責任者	1 兼					1 兼
世話人	3(3)	1(1)				3(3)

★数字は総数で表示し、うちパート職員の数は（　）内に表示。

５－２　職員研修の状況

施　設　（内）			施　設　（外）		
月・日	研　修　名	人数	月・日	研　修　名	人数
			5.17	印旛圏域グループホーム等連絡協議会設置者会	1
			7.29	世話人の集い	3
			2.6	世話人の集い	4
			3.29	サービス管理責任者研修	1

５－３　行事実施状況（2015. 4. 1～2016. 3. 31）

月	行　事　内　容
9.18	避難訓練
12.24	クリスマス会（食事会）
1.23	第三者委員相談会
3.8	避難訓練
誕生会	入居者誕生月毎に実施

Ⅲ－７　障害者支援事業部統合運営部門

１　健康管理（健康管理センター）

１－１　概況

看護師（非常勤含）4 名での医療処置等の業務内容について、効率的かつ質の安定化を目指し、健診業務では他事業部看護師への協力要請や検査の一部業者委託、高齢期支援の内部研修や委員会への関与及び、感染症対策実践での施設内外への指導等を行った。又、重篤疾患では利用者自身による選択が困難な事例が増える中で、医療職の立場から各施設、家族等との相談の場に同席した。障害の重度化、高齢化とともに、終末期の支援も含めて予測可能な問題については医療機関や家族との連携、情報共有や環境整備をする上で早期段階での関わりが今後の課題と見込まれる。

１－２　保健関係行事の実施状況　　（2016 年度記録）

月	保健関係行事
４月	ルミエール血圧体重測定、法人健康診断（胸部ﾚﾝﾄｹﾞﾝ撮影）、法人健康診断（血液検査）、めいわ利用者家族面談出席
５月	衛生委員会・感染症対策委員会、ルミエール血圧体重測定、法人健康診断（血液検査、尿検査）、障害者支援事業部高齢期支援委員会
６月	衛生委員会・感染症対策委員会、ルミエール血圧体重測定、法人健康診断（尿検査、内科健診）、ルミエール栄養ケアマネジメント会議出席、
７月	衛生委員会・感染症対策委員会、ルミエール血圧体重測定、法人健康診断（内科健診）、
８月	ルミエール血圧体重測定、高齢期支援研修講師
９月	衛生委員会・感染症対策委員会、高齢期支援委員会、ルミエール血圧体重測定、総合防災訓練（救護所設置）、B 型肝炎ﾜｸﾁﾝ接種、
１０月	衛生委員会・感染症対策委員会、ルミエール血圧体重測定、法人健康診断（尿検査）、B 型肝炎ﾜｸﾁﾝ接種、愛光秋祭り（救護所設置）、夜勤従事者健診
１１月	衛生委員会・感染症対策委員会、夜勤従事者健診、B 型肝炎ﾜｸﾁﾝ接種、ルミエール血圧体重測定、ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ ﾜｸﾁﾝ接種、高齢期支援委員会、感染症防護具研修・高齢期支援研修講師
１２月	夜勤従事者健診、B 型肝炎ﾜｸﾁﾝ接種、衛生委員会・感染症対策委員会、ルミエール血圧体重測定、ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ ﾜｸﾁﾝ接種、高齢期支援委員会、高齢期支援研修・感染症防護具研修講師
１月	臨時感染症対策委員会、衛生委員会・感染症対策委員会、ルミエール血圧体重測定、B 型肝炎ﾜｸﾁﾝ接種
２月	衛生委員会・感染症対策委員会、高齢期支援委員会、ルミエール血圧体重測定、ルミエール個別支援会議出席、
３月	衛生委員会・感染症対策委員会、ルミエール血圧体重測定、防災訓練（救護所設置）、リホープ個別支援会議出席、

１－３　施設内診療

診　療　科		総数	ルミエール	めいわ	リホープ
【内　科】 診察日数 95	延人数	1,319	487	401	431
【歯　科】 診察日数 44	延人数	345	122	130	93
【皮膚科】 診察日数 12	延人数	253	113	53	87
【医務室】 診察日数 365	延人数	10,166	5,935	887	3,344
【精神科】 診察日数 24	延人数	670	357	213	100
【泌尿器科】 診察日数 13	延人数	248	86	53	109
【他科】 診察日数 0	延人数	0	0	0	0

１－４　施設外医療機関での受診状況

診　療　科		総数	ルミエール	めいわ	リホープ
【内　科】	延人数	165	54	49	62
【歯　科】	延人数	21	11	10	0
【眼科】	延人数	72	18	36	18
【外科】	延人数	5	4	1	0
【精神科】	延人数	184	118	35	31
【その他】	延人数	216	80	69	67

１－５　入院の状況

入院		総数	ルミエール	めいわ	リホープ
件数		32	8	5	19
総日数		496	222	55	219
実人数		15	5	4	6
内訳	男	10	4	2	4
	女	5	1	2	2
医療機関別人数（延人数）	佐倉中央病院	184	112	0	72
	成田赤十字病院	91	89	2	0
	東邦大学医療Ｃ佐倉病院	82	0	35	47
	浅井病院	45	0	0	45
	慈恵医大柏病院	10	0	0	10
	下志津病院	17	17	0	0
	山王病院	6	0	6	0
	四街道さくら病院	18	18	0	0

疾患別入院理由（延人数：重複発症含む）				
肺炎	5	てんかん重積発作	1
心不全	2	尿路感染	2
腎盂ステント交換	14	増殖性硝子体網膜症	2
貧血	2		
悪性腫瘍（疑含む）	5		
糖尿病増悪	1		
統合失調症	1		
骨折	1		

１－６　救急搬送の状況

搬送件数	総数	ルミエール	めいわ	リホープ
	4	2	2	0
（内訳）	男3：女：1	男：2　女：0	男：1　女：1	男：0女：0

２　食事サービス（栄養管理室）

２－１　概況

〇食事提供については厨房の人員不足が続き、苦しい年であった。施設では、下膳時間の徹底および一部の施設においては、職員が下膳時に食器ごとにまとめて返却するようになり、配膳車の衛生維持及び厨房の作業の効率化につながった。

　また、施設職員が一方的に委託業者からのサービスの受け身の姿勢になるのではなく、下膳時間を守る、食器を重ねる、食事の申込は忘れない、厨房への電話応対、検食簿の書き方等も含め、施設側の改善すべき点を洗い出し、発信をおこなってきた。

〇施設の食事提供時の衛生管理として、三角巾、エプロンの着用、衣服のローラーがけについては 2 年目にしてようやく全施設において、職員がおこなうようになった。習慣化するようこれからも意識を高めていく必要がある。

〇栄養改善委員会の場から、食生活が関係してくる疾患（乳がん）について職員向けに情報発信をおこなった。

〇大地震等大規模災害を考慮して、非常食の確保及び職員への周知をおこない、施設職員への危機管理対応への意識付をおこなった。

〇利用者の高齢化が進むにつれ、嚥下の問題など課題も出てくるが今後も給食委託業者、各施設の給食委員と密な連携を取りながら、利用者の満足度が高い食事サービスの提供に努めていきたい。

２－２　通常献立

	朝食　8:00～	昼食　12:00～	夕食　18:00～
献立名	ご飯	十八穀ごはん	ご飯
	厚焼き卵	さばの味噌煮	松風焼き
	ほうれん草のお浸し	竹輪とじゃが芋の煮物	大根サラダ
	あみ佃煮	小松菜のわさびあえ	菜の花和え
	みそ汁（もやし、麸）	すまし汁（卵豆腐、わかめ）	のっぺい汁

２－３　食種構成表

	常　食	特　別　食		
		刻み	粥	ﾐｷｻｰ・ﾍﾟｰｽﾄ食
総　数	１４１	２６		２
ルミエール	３７	１２		１
めいわ	３３	１２		１
通所	４１			
リホープ	３０	２		

	療　養　食			
	減塩食	脂質ｺﾝﾄﾛｰﾙ食	糖尿病食	貧血食
総　数		8	１４	1
ルミエール		5	1	1
めいわ		2	5	
通所				
リホープ		1	8	

２－４　基準摂取栄養量

エネルギー　1900～2000kcal	たんぱく質　75g	脂質　50.0g
糖質　　300g	カルシウム　450mg	鉄分　10.0mg
ビタミンA　750μg	ビタミンB1　1.15mg	ビタミンB2　1.27mg
ビタミンC　100mg	食塩相当量　9.0g	

２－５　栄養改善委員会開催状況（毎月開催）

委員の構成・・・・利用者代表　１名、各施設職員　３名、施設栄養士　２名

委託業者　　１名（栄養士）

月　　日	内　　容　（例）
６月１５日	＊栄養士から連絡（①乳がんと食生活の関係について、②エプロンと三角巾の着用について）、 ＊委託給食会社からのお願い ＊検食簿からの意見

２－６　行事食献立

月・日	区分	行　事　名	献　　立
４月　２２日	昼	春の献立	たけのこご飯、蒸し魚（たら）の香味おろしだれ、浅漬けしそキャベツ、切り干し大根の煮物、豚汁
５月　５日	昼	端午の節句	ねぎとろ丼、高野豆腐の煮物、沢煮椀、柏餅
７月７日	昼	七夕	五目七夕そうめん、夏野菜とがんもの煮物、ゆずゼリー、いなり寿司
７月３０日	昼	土用の丑の日	ちらし寿司、里芋の田楽、蒸しなすとささみの和え物、かきたま汁、あんみつ
８月２２日	昼	リクエスト献立	スパゲッティミートソース、温野菜サラダ、和風ポトフ、手作りカルピスゼリー
９月１９日	昼	敬老の日	赤飯、ぶりの塩焼き、炊き合わせ、すまし汁（えのき）、手作り抹茶水ようかん

９月２３日	昼	秋分の日	ご飯、天ぷらの盛り合わせ、冬瓜のかにあんかけ、すまし汁（三つ葉、干ししいたけ）、おはぎ
１０月１７日	昼	秋の献立	ご飯、魚の塩焼き（さんま）、塩もみ野菜、金平ごぼう、のっぺい汁
１１月８日	昼	秋の献立	栗ごはん、あじの塩こうじ焼き、炒り鶏、白和え、けんちん汁
１２月２２日	昼	冬至	五目御飯、鮭の塩こうじ焼き、豆乳がんもの煮付け、具沢山汁、南瓜白玉しるこ
１２月２５日	昼	クリスマス	ロールパン、フライドチキントマトソース、グリーンサラダ、スープ（チンゲン菜、きのこ） クリスマスケーキ
１２月３１日	夜	大みそか	年越しそば、いなり寿司、いかと里芋の煮物、フルーツ（みかん）
１月１日	昼	お正月	お雑煮、赤飯、紅白なます、おせち４点盛り（紅白かまぼこ、スモークサーモン、黒豆、数の子、フルーツ（みかん）
１月　７日	昼	七草	七草粥、鶏肉の塩こうじ焼き、白菜の甘酢和え、のっぺい汁、フルーツ（みかん）
２月　３日	昼	節分	のり巻といなり、厚揚げと野菜の煮物、みそ汁（かぶ、かぶ葉）、水ようかん
２月１４日	昼	バレンタインデー	ご飯、若鶏のｸﾘｰﾑ煮、コールスローサラダ、スープ（白菜、コーン）、チョコプリン
３月　３日	昼	ひな祭り	桜ちらし寿司、炊き合わせ、菜の花辛子酢味噌かけ、すまし汁（花麸、えのき）、桜餅
３月１８日	昼	創立記念日	赤飯、お刺身、京合わせの煮物、かきたま汁、手作り抹茶水ようかん
３月２０日	昼	春分の日	ご飯、天ぷら盛り合わせ、ごまどうふ、すまし汁（花麸、三つ葉）、おはぎ

３　ボランティアの育成と受け入れ

３－１　ボランティア受け入れ状況　（全事業所）　（2447 件/ 3849 人）

活　動　内　容	件数	延べ人数	活　動　内　容	件数	延べ人数
理髪	36	36	作業補助	682	682
歩行介助	34	34	行事協力	125	527
外出介助	19	20	ダンス･舞踊	0	0
伴走	95	95	傾聴･朗読等	166	267
清掃	13	98	音楽	39	209
施設･備品整備	199	241	茶道･花道	85	204
裁縫	48	93	公演	20	130
洗濯･たたみ	278	452	手工芸	22	101
生活介助	230	278	その他	356	382

３－２　ボランティア登録状況（障害支援事業部）　（11 団体 58 名・個人 98 名）

団　体　名	会員数	所在地域	団　体　名	会員数	所在地域
あしたの会	6	佐倉市	水仙の会	3	佐倉市
ほたる	2	佐倉市	光和会	5	市川市
草笛ｸﾗﾌﾞ	4	佐倉市	あじさいの会	14	佐倉市
あやめ	5	佐倉市	ラ・ポール	3	佐倉市
口腔リハビリ	2	千葉市	輪わＷＡ	12	佐倉市
松籟会	2	佐倉市	個人	98	佐倉市、船橋市 八街市、千葉市

３－３　ボランティア育成事業

月　日	内　　容
９月１４日	ボランティア交流会（南部地域福祉センター・きのこ園）
１１月２０日	認知症サポーター養成講座（小学生対象）
２月１２日	地域デビュー講座①（南部地域福祉センター）
２月１８日	地域デビュー講座②（南部地域福祉センター）
３月　５日	地域デビュー講座③（南部地域福祉センター）
３月１９日	地域デビュー講座④（南部地域福祉センター）

４　福祉教育

月　日	機関名	対象者	学習内容
４月２７日	根郷中学校	職員	年間計画打ち合わせ
５月　９日	根郷中学校	２年３組	点字講座
５月１２日	根郷中学校	１年	福祉講話
５月１６日	根郷中学校	２年３組	点字講座
５月３０日	山王小学校	職員	山王小学校４年生交流打ち合わせ
７月　７日	根郷中学校	３年１組	愛光利用者交流体験
７月１２日	山王小学校	４年生	愛光利用者交流会
７月１４日	根郷中学校	２年１組	点字講座
７月１４日	根郷中学校	２年２組	点字講座
９月１５日	根郷中学校	２年１組	点字講座
９月１５日	根郷中学校	３年２組	愛光利用者交流体験
９月２１日	根郷中学校	３年３組	愛光利用者交流体験
１０月　６日	根郷中学校	１年３組・４組	アイマスク体験
１０月２０日	根郷中学校	１年１組・２組	アイマスク体験
１１月１０日	根郷中学校	１年２組	施設訪問
１１月１７日	根郷中学校	１年３組	施設訪問
１１月２１日	根郷中学校	１年４組	施設訪問
１１月２８日	根郷中学校	１年１組	施設訪問

Ⅳ. 高齢者福祉事業部

Ⅳ　高齢者福祉事業部

2016（平成28）年度　事業報告書

高齢者ケアセンター

はちす苑

概況

厚生労働省は、2020年度に８万人の介護職員が不足する試算を出している。2013年度の調査では全国の特別養護老人ホーム等の待機者が52万人となっていたが、13.5%の施設が「職員不足」や「医療的ケアに対応できない」を理由に空きベッドがあると回答している(厚生労働省は深刻な人材不足のなかで、介護ロボットやICT化を推進している)。

また、経営面においては、2015年度の介護報酬改定の影響を受け、全体の31.4%の施設で経常増減差額が赤字との結果となっている(2015年度：福祉医療機構全国調査)。

2025年度の通過点となる2018年度の介護保険制度改正では、「地域包括ケアシステムの深化・推進」「介護保険制度の維持可能性の確保」が柱となるようである。同時に介護報酬も改定となる。

人材確保と安定した事業継続が、介護業界においての課題となるなか、更なるサービスの質を求められる時代になってきている。この状況を踏まえ、当年度は、スローガンである『「サービス・人材・経営」を強化し、この街の信頼に応えよう』を基に『業務改善』『労働環境の改善』『経営改善』の３つの方針を柱に運営を行った。業務の効率化・合理化を図り、ゆとりのある時間を確保し時間外労働の縮減、疲弊しない職場環境作りを目指した。また、各事業での独立採算の意識付けを行い、目標数字を明確化した。

〇数値目標

ショートステイの長期利用者が増え、特養の入院ベッドの活用が円滑に行えたため、特養・ショートステイの合算稼働率は目標値を上回った。しかし、居宅系事業のデイサービス、ホームヘルプが目標値に届かない結果となり、内部連携と営業力の弱さを露呈した。

	目　標　値		実　績　値	
特養 ｼｮｰﾄｽﾃｲ	稼働率	合算　96%	98.0% 95.5%	合算97.3%
配食サービス	月平均収入 食数換算	27万円 273食	 食数換算	23.3万円 236食
デイサービス	稼働率 1日平均利用者数	77% 26人		69.5% 24.3人
ホームヘルプ	月平均契約者数 月平均介護保険収入	60件 200万円		44件 187万円
ケアプラン	月平均契約件数 (予防プラン含む)	70件		69.6件

〇サービス目標

リスクマネジメントにおいては、特養で4月から7月の期間で、転倒による骨折が相次ぎ、新たに「ヒヤリはっとBefore」の取り組みを開始した。「もしかしたら、〇〇が起きるかもしれない」、小さな変化や気づきの記録が記載されるようになり、職員の視点に変化が見られるようになった。定期的な原因分析の実施と未然防止方法の共通認識を図りたい。

〇業務遂行目標

・時間外勤務については、業務改善の取り組みにより前年度より大幅に減少した。

・佐倉市委託事業であるオレンジカフェを毎月第4日曜日に「音楽コンサート」「健康や薬に関する勉強会」「健康体操」などの内容で実施。利用者数は１回平均13名、ボランティアの参加は延べ19名であった。

・職場定着支援助成金を活用した機械浴槽更新工事を実施(座位式１台、臥床式１台)し完了(助成金300万円)。

〇人材育成目標
・資格取得については、サポート職員１名が介護福祉士を取得した。
・千葉市老人施設協議会主催の「介護力向上講習会」に特養主任を派遣し、１年間にわたり「自立支援介護」による介護技術・知識の習得を行った。
１．特別養護老人ホーム
〇サービス目標
・業務改善を行い、外出支援など余暇の時間を多くとることができた。主任が「介護力向上講習会に参加し、講師の理論に基づいてケアを実践した。対象者全員ではないが、BPSD(認知症に伴う行動・心理症状)の軽減など多くの変化がみられた。「諦めずに利用者とかかわることの大切さ」を実感できたことは大きい。少しずつではあるが、利用者主体の考え方、その人らしい生活の追及が行えるようになってきた。
・感染症対策訓練は、年２回実施した。訓練内容や理解力など課題があがったが、職員の意識強化に繋がっている。当年度は感染症が広がることはなかった。看取りケアは、退所者９名中７名で実施した。
２．ショートステイ
〇サービス目標
・長期利用者の増加で稼働が安定している。空き部屋が少ないなか、緊急や追加依頼にも積極的に受けることで他事業所の介護支援専門員からの信頼を得られるようになってきた。
・４事例目となるショートステイでの看取りケアを実施した。
３．佐倉市高齢者等ふれあい配食サービス事業（委託事業）
〇サービス目標
施設への入所や冬期の長期中止、入院などにより前年と比較して実績が下がっている。２月に関連事業所に向けて無料試食会を実施し食数増加に努めた。
４．デイサービス
〇数値目標
70%を超える月が４回のみで、平均利用人数も 23 名から 26 名と振幅があった。新規は 29 名であったが、入所や他界で 23 件が契約終了となったため登録数が増えない１年であった。地域包括支援センターや居宅介護支援事業所を中心とした営業では限界があり、外部向けのイベントを増やすことで地域の認知度を上げていく必要がある。
〇サービス目標
基準該当生活介護サービスを申請し、障害者総合支援法での受入が可能となった(実績５件)。また、「早帰りサービス」が近隣に定着しており、利用者ニーズに合ったサービス内容を柔軟に取り入れた。
５．ホームヘルプサービス
〇サービス目標
登録ヘルパーの減員とサービス提供責任者が１名減になることで、常勤職員を年度途中から増員した(サポート職員)。そのため、内勤業務の指導と役割分担を推進した。前年度に問題となった慢性的な残業と公休の未消化は改善できた。また、看取りプランなど重度の方への対応が可能となった。
６．ケアプラン
〇業務遂行目標
前年度末に主任介護支援専門員が退職となったため２名体制となった。プラン作成、事例検討、法改正に関する研修に参加することで個々のスキルアップを図った。しかし、地区社協や関係機関との連携や情報収集など外部との連携ができていないことと、内部連携の意識の低さは問題であり大きな課題と言える。
７．2014～2016 年度第 2 期中期経営計画【最終年度報告】

	目　標（3 年平均）	実　績（3 年平均）
特養	稼働率　96%	平均　98.3%
ｼｮｰﾄｽﾃｲ	稼働率　95%	平均　92.3%
デイサービス	稼働率　77%	平均　70.7%
ホームヘルプ	利用登録者数　75 人	平均　54.9 件
ケアプラン	利用契約者数　121 件/月	平均　90 件

（施設長　西原弘明）

1　事業の実績（2016.4.1～2017.3.31）

１－１　特別養護老人ホームはちす苑（介護老人福祉施設）

【定員５０名】

	延べ年間施設利用者			1日平均		延べ年間空所			入　退　所	
	定員	契約数	現員数	利用数	稼動率	欠員	入院	外泊	入所	退所
（当年）	18,250	18,615	17,900	49.0	98.0	0	707	20	8	9
（前年）	18,300	18,615	18,065	49.6	98.7	0	554	33	11	11

※　定員とは入所定員に各月暦日数をかけたもの。

１－２　ショートステイはちす苑（短期入所生活介護事業）

【定員２０名】

	延べ年間施設利用者		1日平均	
	定員	利用総数	利用数	稼働率
（当年）	7,300	6,976	19.1	95.5
（前年）	7,320	6,375	17.4	87.1

１－２－１ 特養　ショートステイ合算

	延べ年間施設利用者		1日平均	
	定員	利用総数	利用数	稼働率
（当年）	25,550	24,876	68.1	97.3
（前年）	25,620	24,440	67.0	95.4

１－３ 佐倉市高齢者等ふれあい配食サービス事業（委託事業）

月	食数	実利用者数	新規	終了
4月	226	21	0	3
5月	221	19	1	0
6月	218	19	0	1
7月	230	23	4	1
8月	257	22	1	1
9月	234	21	0	0
10月	224	22	1	0
11月	227	21	0	2
12月	221	24	2	2
1月	253	21	2	1
2月	253	21	1	1
3月	269	19	0	2
月平均	236.1	21.1		

１－４　デイサービスはちす苑（通所介護事業）

【定員３５名】

	延べ年間通所利用者			1日平均		利　用 契約者
	営業日	定　員	総　数	利用数	稼働率	
（当年）	309	10,815	7,490	24.2	69.2	909
（前年）	310	10,850	7,785	25.1	71.8	1,073

１－５　ホームヘルプサービスはちす苑（訪問介護事業）

	延べ年間利用総件数	身体介護		生活援助		予防		自由		利　用契約者	合計援助時間数
		延べ件数	延べ時間数	延べ件数	延べ時間数	延べ件数	延べ時間数	延べ件数	延べ時間数		
（当年）	8,661	4,401	2,537	2,904	1,939.5	1,337	1,328.5	19	10.2	536	5,815.3
（前年）	10,214	4,642	2,089	3,750	2,792	1,762	1,753	60	532	月平均44.7	
										870	
										月平均72.3	6,666

１－６　ケアプランはちす苑（居宅介護支援事業）

	ケアプラン					
月	月末契約数	継続	新規	再開	中断	終了
４月	68	65	2		1	
５月	70	66	3		1	
６月	69	64	1		4	
７月	69	68	1			
８月	68	66	2			
９月	68	66	2			
１０月	71	67	3		1	
１１月	69	62	2		5	
１２月	72	60			10	
１月	73	65			4	4
２月	71	58	3		6	4
３月	67	59	3		4	1
月平均	69.5					

２　入居者・利用者の状況（2016 年度全契約者）

２－１　利用者総数

	全利用者			特養ホーム入居者			居宅サービス利用者※		
	人数	男	女	人数	男	女	人数	男	女
人数	315	97	218	59	13	46	256	84	172
%	100%	30.8%	69.2%	100%	22.0%	78.0%	100%	33.0%	67.0%

※ はちす苑が提供する居宅サービス[ケアプラン（居宅介護支援）・ショートステイ（短期入所）・デイサービス（通所介護）・ホームヘルプ（訪問介護）]を指す。

２－２　年齢構成　　（年齢は 2016.4.1 現在）

		総　数	65 未満	65～69	70～79	80～89	90 以上	最高齢
全利用者	総数	315	13	23	76	131	72	
	%	100%	4.1%	7.3%	24.1%	41.6%	22.9%	
	男	97	8	12	27	37	13	102 歳
	女	218						109 歳
特養ホーム入居者	人数	59	1	2	14	23	19	
	%	100%	1.7%	3.4%	23.7%	39.0%	32.2%	
	男	13	1		4	4	4	95 歳
	女	46		2	10	19	15	109 歳
居宅サービス利用者	人数	256	13	21	61	108	53	
	%	100%	5.1%	8.2%	23.8%	42.2%	20.7%	
	男	84	7	12	23	33	9	102 歳
	女	172	6	9	38	75	44	107 歳

２－３　居住地域

		総　数	佐倉市	四街道市	成田市	富里市	その他
全利用者	総数	315	280	23	1		11
	%	100%	89.0%	7.3%	0.3%		3.4%
	男	97	86	7			4
	女	218	194	16	1		7
特養ホーム入居者	人数	59	50	6			3
	%	100%	84.8%	10.1%			5.1%
	男	13	11	2			
	女	46	39	4			3
居宅サービス利用者	人数	256	230	17	1		8
	%	100%	90.0%	6.6%	0.3%		3.1%
	男	84	75	5			4
	女	172	155	12	1		4

２－４　要介護認定の状況

		総　数	自立	要支援	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	障害
全利用者	総数	315		58	54	39	63	54	44	3
	%	100%		18.4%	17.1%	12.4%	20.0%	17.1%	14.0%	1.0%
	男	97		17	19	11	18	17	13	2
	女	218		41	35	28	45	37	31	1
特養ホーム入居者	人数	59				1	15	18	25	
	%	100%				1.7%	25.5%	30.5%	42.3%	
	男	13					3	4	6	
	女	46				1	12	14	19	
居宅サービス利用者	人数	256		58	54	38	48	36	19	3
	%	100%		22.7%	21.2%	14.8%	18.7%	14.0%	7.4%	1.2%
	男	84		17	19	11	15	13	7	2
	女	172		41	35	27	33	23	12	1

２－５　面会・外泊状況（特養入居者）

	回数	50回以上	49～40回	39～30回	29～20回	19～10回	9～1回	なし
面会回数（年）	人数	7	2	4	7	14	13	8
	%	12.7	3.7	7.3	12.7	25.5	23.6	14.5
	男	0	0	1	1	3	5	3
	女	7	2	3	6	11	8	5

	回数	20日以上	19～15日	14～10日	9～5日	4～1日	なし
外泊日数（年）	人数	0	1	0	1	2	56
	%	0	1.7	0	0	3.4	94.9
	男	0	0	0	0	1	12
	女	0	1	0	1	0	44

２－６　特養新規入居者(2017年度中)

	総数	入居時年齢				入居時要介護度				
		65～	70～	80～	90～	1	2	3	4	5
人数	8	0	3	4	1	0	0	4	4	0
男	2	0	1	1	0	0	0	1	1	0
女	6	0	2	3	1	0	0	3	3	0

	総数	入居前状況			
		在宅	老健	病院	その他
人数	8	2	1	3	2
男	2	0	0	0	2
女	6	2	1	3	0

２－７　特養退所者(2017年度中)

	総数	退所時年齢					退所時要介護度				
		～64	65～	70～	80～	90～	1	2	3	4	5
人数	9	0	0	2	1	6	0	0	2	0	7
男	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0
女	8	0	0	2	1	5	0	0	1	0	7

	総数	退所時理由			
		在宅	施設	入院	死去
人数	9	0	0	2	7
男	1	0	0	0	1
女	8	0	0	2	6

3　特養入居希望者(2017. 3. 31 現在)

	総数	年齢区分					介護認定による要介護度						
		～64	65～	70～	80～	90～	要支	1	2	3	4	5	不明
人数	101	3	10	22	44	22	0	9	13	42	25	11	1
%							0	8.8	12.9	41.8	24.8	10.8	0.9
男	42	2	5	9	18	8	0	3	3	16	14	6	0
女	59	1	5	13	26	14	0	6	10	26	11	5	1

	総数	現状			
		在宅	老健	病院	他
人数	101	56	16	14	15
%		55.4	15.8	13.9	14.9
男	42	23	10	4	5
女	59	33	6	10	10

4　保健・医療サービス

概況

〇数値目標

今年度も入院が多かったが、入院ベッドをショートで利用できたことで、稼働率は合算で目標に到達した。ショートの相談員との連携が密に出来たものと思われる。

〇サービス目標

地域のショート利用者のご家族より自宅での見取りが「怖い」との声を聞かせていただいたことで、ショートの見取りを受け入れた、地域の方への信頼に応えることが出来た。

感染予防対策として、今年度より感染症対策訓練を 2 回実施した。訓練時、今まで実施していたことを忘れており活かされていないことがわかった。定期的な訓練の必要性と、看護サイドの指導内容も見直す必要性を感じた。

介護職員による痰の吸引等医療的ケアは今年度 3 人の職員を対象に指導演習を実施した。二人は資格取得したが、一人は途中段階である。看護師不在の時は積極的に吸引等を実施できている。今後も引き続き資格取得に協力していきたい。

〇地域連携目標

地域包括支援センターと連携し、ショートや困難ケースの受入を積極的に実施できている。以前在籍していた看護師の地域包括支援センターへの異動により、連携も取りやすくお互いの情報共有もしやすい。

歌のボランティアさんの来苑を楽しみにしている利用者さんがおり、手足を動かしながら一緒に歌ってリハビリにもなっていてとてもいきいきしている姿が伺える。

〇業務遂行

職員の健康管理を衛生委員が中心になりメンタルチェックの実施が出来た。精神的に不安を抱えている職員に関しては出来るだけ話を聞き、病院の紹介や産業医への相談をする機会を作った。産業医と話したことで今まで誰にも言えなかったことが話せ楽になったようである。今後も引き続き経過を見ていきたい。

チームの連携では病欠が出たことで、少ない人数でお互い協力して業務に当たり大きな事故もなく乗り越えられた。少ない人数で対応できるようになった反面、不足していた部分も明確になったことが、今後の課題でもある。

当年度ターミナルは 7 名であった、佐倉市で最高長寿（109）の方を一日でも長く生きてほしいと思いながらの支援であったが、誕生日を迎える直前の死去で残念であった。今年は家族支援が難しい方のケースが多く対応にも苦慮した、でも最期には御家族の思いに寄り添い一緒に見送ることが出来たことで、ご家族より感謝の言葉をいただき、「最後まで診れて悔いはないよ」と言われた言葉が私達の支援が良かったと改めて思った。

災害時の対応で、現利用者の薬を 3 日間常備出来る様にしてきた。毎月新しい薬と入れ替え、薬の説明書もファイルにして持ち出せるような対策をとっている。

衛生物品の確保と災害時看護師の基礎知識を全看護師が取得し、出来るようにしていきたいと考えている。

（健康管理室　看護主任　松永末美）

４－１　健康診断・施設内診療の実施状況

月	健康診断の実施状況		施設内診療日数				
	入居者	職員	内	泌	眼	皮	歯
４月	血圧測定・体重測定 健康診断・胸部レントゲン	健康診断・胸部レントゲン 腰部レントゲン	4	2	0	1	4
５月	血圧測定・体重測定・採血・検尿	内科健診・採血・検尿	5	2	0	1	4
６月	血圧測定・体重測定・内科健診	内科健診	4	2	1	1	4
７月	血圧測定・体重測定	内科健診	5	2	0	1	5
８月	血圧測定・体重測定		5	2	0	1	4
９月	血圧測定・体重測定		4	1	1	1	5
１０月	血圧測定・体重測定・採血・検尿 内科健診	夜勤者採血・検尿 ・内科健診	4	3	0	1	4
１１月	血圧測定・体重測定・ インフルエンザ予防接種	インフルエンザ予防接種・ 内科健診	5	2	0	1	4
１２月	血圧測定・体重測定		4	2	1	1	4
１月	血圧測定・体重測定		4	1	0	1	4
２月	血圧測定・体重測定		4	2	0	1	4
３月	血圧測定・体重測定		4	1	0	1	5

４－２　施設（**内**）診療月別内　※「実人数」は受診した個人単位の人数

診療科		総数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科	延人数	845	54	76	91	77	95	70	50	85	55	68	68	56
	実人数	433	26	35	44	44	43	37	31	33	31	39	39	31
眼科	延人数	40	0	0	14	0	0	17	0	0	9	0	0	0
	実人数	40	0	0	14	0	0	17	0	0	9	0	0	0
皮膚科	延人数	376	36	40	39	32	32	31	31	29	28	24	26	28
	実人数	376	36	40	39	32	32	31	31	29	28	24	26	28
歯科	延人数	634	43	41	49	48	41	62	51	49	60	64	57	69
	実人数	187	14	13	19	12	11	17	15	14	19	19	16	18
泌尿器科	延人数	262	24	23	21	21	24	13	39	23	24	13	22	15
	実人数	153	12	12	12	12	12	13	13	13	13	13	13	15

４－３　施設（外）医療機関受診状況

診　療　科		総数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内　科	延人数	75	5	9	4	10	5	4	5	9	4	4	8	8
	実人数	72	5	9	4	7	5	4	5	9	4	4	8	8
外　科	延人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
整形外科	延人数	30	0	03	5	2	3	2	4	3	3	3	1	1
	実人数	28	0	3	4	2	3	2	4	2	3	3	1	1
泌尿器科	延人数	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1
	実人数	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1
眼　科	延人数	3	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0
	実人数	3	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0
脳外科	延人数	2	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0
	実人数	2	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0
ﾒﾝﾀﾙﾍﾙｽ	延人数	21	1	2	2	1	2	1	1	3	1	1	3	3
	実人数	20	1	2	2	1	2	1	1	2	1	1	3	3
嚥下外来	延人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歯　科	延人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻科	延人数	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	実人数	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
内分泌	延人数	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3
	実人数	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3
救急外来	延人数	29	2	1	3	7	1	1	1	3	1	1	4	4
	実人数	27	2	1	3	5	1	1	1	3	1	1	4	4
皮膚科	延人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
循環器科	延人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消化器外科	延人数	24	2	1	3	2	2	1	2	1	3	3	2	2
	実人数	23	2	1	2	2	2	1	2	1	3	3	2	2
総合外来	延人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
神経内科	延人数	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実人数	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

４－４　入院の状況（特養在所契約期間中）

件数	入院総日数	平均入院日数	実人数	性別		年齢別内訳			
				男	女	60～	70～	80～	90～
32	763	24	18	4	14	0	6	5	7

４－５　入院理由

尿路感染	17	脛骨　腓骨骨折	2
肺炎	14	虚血性大腸炎	2
うっ血性心不全	6	急性化膿性胆管炎	2
大腿骨頸部骨折	5	気管支肺炎	2
蜂窩織炎	4	貧血	2
脳内出血	4	脳梗塞	1
褥瘡悪化	3	頭部打撲	1
慢性腎不全	2	低 Na 血症	1
慢性腎症	2	胆管炎疑い	1
敗血症疑い	2	胆管炎	1
糖尿病腎症	2	誤嚥性肺炎	1
腎不全	2	嘔吐症	1
誤嚥性急性胆のう炎	2	イレウス	1

４－６　機能回復訓練（指圧）の実施状況

	特別養護老人ホーム			ショートステイ			デイサービス		
	日数	延人数	実人数	日数	延人数	実人数	日数	延人数	実人数
合計	153	1198	25	153	102	7	153	1379	70

５　食事サービスの状況（栄養係）

５－１

標準献立（平均所要量エネルギー1,504kcal//蛋白 61.9g//脂質 28.3g//糖質 229.1g）

	朝食（8:00～）	昼食（12:00～）	夕食（18:00～）
献立名	ごはん 大根と竹輪の煮物 キャベツのごま和え 漬物 さつま芋と玉ねぎのみそ汁 牛乳	ごはん 鶏肉のトマト煮 もやしのおかか和え 漬物 野菜とベーコンスープ みかん缶	ごはん 蒸し魚のきのこソースかけ 南瓜のいとこ煮 漬け物 ほうれん草と油揚げのみそ汁

５－２　食種構成表

総数	主　食				副　食				胃ろう
	白米	軟飯	粥	粥ミキサー	常菜	一口	きざみ	ソフト	
51	19	16	9	4	8	15	16	9	3

５－３　行事食献立

行事食献立

月	行事名	献　立　名
4月	お花見	甘酒、桜の形をしたお饅頭を提供
5月	端午の節句	ちらし寿司、南瓜のそぼろ煮、かつおのたたき、はんぺんと水菜のすまし汁、 マンゴープリン
6月	千葉県民の日	ごはん、いわしのつみれ鍋風、小松菜のピーナツ和え、ごま昆布佃煮、冬瓜のみそ汁、 びわ缶
7月	七夕 納涼祭	五目そうめん、いなり寿司、野菜と海老の天ぷら、切り干し大根のサラダ、ジョア にゅうめん、いなり寿司、みぞれ和え、豆腐の梅あん等
8月	山の日 お盆	山菜ごはん、さばの照り焼き、ゴーヤチャンプルー、漬物、 かにかまとみつばのすまし汁、すいか ごはん、肉野菜炒め、ブロッコリーのおかか和え、漬物、すいとん、パイン缶
9月	重陽の節句 十五夜 敬老の日 秋分の日	栗ごはん、ほっけの塩焼き、小松菜の菊花和え、漬物、茄子とえのきのみそ汁、梨 さつま芋ごはん、さんまの塩焼き、里芋田楽、漬物、なめこのみそ汁、豆腐白玉 扇形赤飯　栗のせ、漬物、刺身盛り合わせ、炊き合わせ、茶碗蒸し、 手まり麸のすまし汁、梨&ぶどう→松花堂弁当での提供 ごはん、天ぷらの盛り合わせ、小松菜の錦糸和え、漬物、はんぺんのすまし汁、おはぎ
10月	さんまパーティー ハロウィン	各街にて目の前で炭火を使い、さんまを焼いて旬の味覚を味わった。 ごはん、ハンバーグきのこあんかけ、チンゲン菜のソテー、漬物、にらのスープ、 南瓜ババロア
11月	寿司パーティー	寿司職人が来苑し、各街にて目の前で寿司を握っていただき、握りたてを味わった。
12月	忘年会 冬至 クリスマス 大みそか	オムライス、オードブル盛り合わせ、おでん、いなり寿司、フルーツ盛り合わせ ごはん、さばの竜田焼き、南瓜の煮物、かぶの柚香和え、ごぼうのみそ汁、フルーチェ チキンライス、ローストチキン、ミモザサラダ、野菜のコンソメ煮、かぶのスープ、 ケーキ 年越しそば、天ぷら盛り合わせ、いなり寿司、ヤクルト
1月	お正月 七草 鏡開き	元旦：朝　赤飯、おせち盛り合わせ、なます、里芋の煮物、はんぺんのすまし汁、牛乳 昼　お雑煮、菜めし、お刺身、炊き合わせ、だて巻き、小松菜の錦糸和え お正月ようかん 夕　ごはん、松風焼き、ひじきの煮物、漬物、キャベツのみそ汁 2日：朝　ごはん、おせち盛り合わせ、切り干し大根の煮物、菜の花の辛子和え なめこのみそ汁、牛乳 昼　みそ味のお雑煮、ちらし寿司、茶碗蒸し、ふきと大根の煮物、抹茶ようかん 七草粥、肉じゃが、白菜と厚揚げの煮浸し、べったら漬け、のっぺい汁、ゼリー ごはん、鰆の粕漬け焼き、五目豆、漬物、小松菜のスープ、おしるこ
2月	節分 バレンタインデー	卵の太巻き寿司といなり寿司、鶏肉と大根の煮物、はんぺんのすまし汁、水ようかん ごはん、クリームシチュー、南瓜サラダ、漬物、ベーコンとエリンギのスープ、 チョコレートババロア
3月	ひなまつり 愛光創立記念日	菜の花のちらし寿司、じゃが芋の煮物、胡瓜のぬか漬け、花麸とうどのすまし汁、 水仙の練りきり お赤飯、春野菜の天ぷら、まぐろの山かけ、卵豆腐、はんぺんのすまし汁、 水ようかん

６　運営管理

６－１　職員状況

職　　名		2016.4.1 現員数	2016.4.1～2017.3.31				2017.3.31 現員数
			採用	異動 入	異動 出	退職	
総　　数		95 (52)	16 (13)	6	9 (3)	18 (17)	96 (50)
苑長（施設長）		1		1	1		1
総務課	副苑長	1					1
	主任事務員	1					1
	事務員	1(1)					1(1)
	運転手	1(1)	1 (1)			1 (1)	1(1)
	クリーンスタッフ	6(6)	2 (2)			2 (2)	6(6)
	管理宿直者	3(3)					3(3)
	配食サービス配達員	4(4)	2 (2)				4(4)
施設サービス課	課長	1			1		1
	主任ケアスタッフ	3		1	1		3
	ケアスタッフ	33(13)	2 (1)	1	4 (1)	3 (3)	33(13)
	生活相談員	1					1
	管理栄養士	1					1
居宅サービス課	**【ケアプラン】** 主任ケアマネジャー ケアマネジャー	3 (1)	1 (1)			1 (1)	3 (1)
	【デイサービス】 主任ケアスタッフ	1					1
	ケアスタッフ	11(7)	6 (6)	2	1 (1)	6 (6)	13(8)
	生活相談員	1					1
	ボランティアコーディネーター	1 (1)					1 (1)
	【ホームヘルプ】 主任ケアスタッフ（サ提）	1					1
	サービス提供責任者	2				1	2
	訪問介護員		1	1			2
	登録ヘルパー	13 (13)			1 (1)	3 (3)	10 (10)
健康管理室	医師	1(1)					1(1)
	主任看護師	1					1
	看護師	6 (2)	1			1 (1)	6 (2)
	機能訓練職	1 (1)					1 (1)

※　網掛けについては総数に計上していない。
※　数字は総数で表示し、内パート職員の数は（　）内に再表示している。
※　登録ヘルパー1名特養と兼務している。

６－２　職員研修・訓練など実施状況

施設（内）			施設（外）		
月・日	研修名	人数	月・日	研修名	人数
5/4	権利擁護と職業倫理研修	6	4/8	介護力向上講習①	4
6/1	嚥下機能低下と誤嚥予防研修	8	4/22	ケース検討会	1
6/29	感染症対策訓練研修	12	5/17	介護保険改正　地域包括ケアに関する	2
7/6	防災訓練	25		セミナー	
8/3	認知症研修	15	5/13	ケース検討会	2
9/7	防災訓練	25	6/10	介護力向上講習②	3
10/11	楽ワザ介護セミナー　外部講師	35	6/23	ちょこっとサービスの紹介と現状･課題に	2
11/2	防災訓練（夜間想定）	4		ついて	
11/30	感染症対策訓練	10	6/30	法人　虐待防止研修	4
12/7	リスクマネジメント研修	6	7/10	法人研修　シーティング研修	2
H29 年				千葉県認知症カフェ連絡協議会	1
1/23	数字力アップ講座	6	7/20	法人　マネジメント研修	3
3/1	ターミナルケアについて	8	8/5	介護力向上講習③	3
			8/18	神経難病の症状と経過について	1
			9/13	経営協セミナー	1
			10/7	介護力向上講習④	3
			10/14	C-MAS 全国大会	2
			10/24	法人　評価者研修	6
			11/8	地域包括ケアシステムについて	2
			11/11	介護の日 D ケアセミナー	2
				C-MAS 経営セミナー	2
			11/24	法人　マネジメント研修	3
			11/25	経営協　特養経営セミナー	2
			12/4	認知症の人のﾊﾟｰｿ・ｾﾝﾀｰﾄﾞ・ｹｱ	3
			12/8	どうなる総合事業	4
			12/9	介護力向上講習⑤	2
			12/16	介護事業所の実践的経営セミナー	1
			H29 年	介護職・看護職が集まる採用方法ｾﾐﾅｰ	15
			1/19	実践発表会	3
			2/5	介護力向上講習⑥	3
			2/10	法人　マネジメント研修	2
			2/14	佐倉市介護支援専門員研修会	2
			2/23	法人　労務管理者研修	2
			3/15	ケアテックス研修	1

７　諸会議の開催状況

	総数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
代表者会議	12	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
特養主任会議	12	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
入居判定会議	5	0	0	1	1	0	1	0	1	0	0	1	0
ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽ会議	11	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0
栄養改善会議	6	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0
居宅会議	5	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1
ｻｰﾋﾞｽ担当者会議	51	0	5	5	5	5	5	4	4	5	5	4	4

８　実習受け入れ状況

依頼教育機関等	実　習　目　的	日数	件数	人数
	※総数	67	16	79
新国際福祉カレッジ	介護福祉士	20	1	2
新国際福祉カレッジ	介護福祉士	6	1	2
印旛特別支援学校さくら分校	職場体験実習	5	5	46
植草学園短期大学	介護福祉士	5	1	3
植草学園短期大学	介護福祉士	15	1	3
植草学園短期大学	介護福祉士	7	1	3
千葉県新規採用職員施設研修	職場体験	2	2	6
千葉県社会福祉協議会	介護職場体実習	2	1	2
日本医科大学学生実習	介護看護体験	3	3	9
南部中学校実習	職場体験	2	1	3

９ ボランティア活動

９－１ 活動状況（年間実績）　※この他に、近隣の小学生・中学生との交流会なども実施

活動内容			理髪	施設環境・備品整備	清拭布・洗濯物たたみ	生活介助	作業補助	行事協力	傾聴、朗読等	手工芸　陶芸クラブ	音楽療法	生花・茶道クラブ	公演・発表	その他
4月	延人数	57	0	0	0	0	57	0	0	0	0	0	0	0
	人数	92	1	2	13	7	0	41	5	5	5	5	0	8
	回数	119	2	15	29	20	0	4	4	2	2	3	0	38
5月	延人数	193	4	15	33	24	0	46	9	5	8	11	0	0
	人数	98	2	2	12	7	0	46	3	5	4	8	0	0
	回数	107	4	15	20	19	0	4	4	1	2	3	0	0
6月	延人数	184	3	13	35	23	0	23	16	9	8	16	0	0
	人数	76	2	1	13	7	0	23	4	5	4	8	0	0
	回数	110	3	13	22	19	0	4	8	2	2	3	0	0
7月	延人数	186	4	14	36	22	0	18	20	9	8	11	0	0
	人数	74	2	3	12	7	0	18	6	5	4	8	0	0
	回数	118	4	14	22	18	0	3	10	2	2	3	0	0
8月	延人数	193	3	13	45	28	0	0	13	9	8	22	12	40
	人数	69	2	1	15	7	0	0	4	5	5	11	12	8
	回数	129	3	13	27	22	0	0	15	2	2	3	4	38
9月	延人数	311	3	13	40	21	0	34	16	9	4	12	20	41
	人数	110	2	1	15	7	0	34	4	6	4	8	20	8
	回数	121	3	13	24	17	0	7	8	2	1	3	5	37
10月	延人数	205	3	12	38	28	0	19	15	10	8	11	24	41
	人数	100	2	1	15	7	0	19	4	6	4	10	24	8
	回数	125	3	12	25	23	0	6	8	2	2	3	5	7
11月	延人数	256	3	13	38	25	0	24	14	9	8	8	74	40
	人数	130	2	1	15	7	0	6	0	5	5	8	74	8
	回数	123	3	13	24	22	0	4	9	2	2	2	6	36
12月	延人数	194	4	12	32	25	0	42	19	7	8	11	0	34
	人数	59	2	1	15	7	0	4	4	6	5	8	0	7
	回数	109	4	12	20	22	0	4	9	2	2	3	0	31
1月	延人数	142	2	10	33	20	0	18	14	5	4	5	0	31
	人数	65	1	1	15	5	0	18	4	5	4	5	0	7
	回数	89	2	10	18	16	0	4	7	1	1	1	0	29
2月	延人数	163	2	15	36	19	0	16	14	10	8	8	0	35
	人数	70	2	2	15	5	0	16	4	5	4	8	0	9
	回数	101	2	12	20	16	0	5	8	2	2	2	0	32
3月	延人数	190	3	18	48	18	0	14	21	9	8	13	0	38
	人数	70	2	2	16	5	0	14	4	5	4	8	0	10
	回数	118	3	18	27	15	0	4	9	2	2	3	0	35
合計	延人数	2274												
	人数	1013												
	回数	1369												

９－２　ボランティア登録状況

活動内容	人数	団体名
施設環境整備	3	
理美容	2	
清拭・洗濯たたみ	14	すみれ コスモス ひまわり くちなし 山王ワンツークラブ
生活補助	3	なでしこ等
傾聴	6	やまゆり等
陶芸クラブ	6	
音楽クラブ	5	
茶道クラブ	2	
囲碁・将棋	3	
歌・演奏	4	うたごえ こすもす会等
その他（誘導・散歩等）	6	

１０　行事・活動等実施状況（2016.4.1～2017.3.31）

月	行　事　内　容
4月	花見お茶会（5）　あいとひかりのコンサート（17）　オレンジカフェ（24）
5月	オレンジカフェ（22）
6月	山王自治会清掃活動（5）　大掃除と家族懇談会（12）　オレンジカフェ（26）
7月	七夕祭り　参議院議員不在者投票(7)　オレンジカフェ・納涼祭（24）
	山王小1年生徒の交流会（26）
8月	お盆（お盆まで亡くなられた方々の慰霊）（13～15）オレンジカフェ（28）
9月	山王自治会清掃活動（6）　特養敬老会（18）　オレンジカフェ（25）
	デイサービス敬老会（21・24・27・29・30日）　山王小3年生との交流会（27）
10月	愛光秋まつり（8）　さんまパーティー（12・19・26）
	山王小2年生徒の交流会（10）　秋の日帰り旅行（27）
	オンレジカフェ（23）　山王小4年生との交流会（24）
11月	山王小5年生との交流会（4）寿司パーティー（18・25）
	特養秋の日帰り旅行（24）山王小6年生との交流（25）
	オレンジカフェ（27）
12月	特養家族第三者委員との懇談会特養入居者忘年会（18）　オレンジカフェ（25）
1月	オレンジカフェ（27）　デイサービス忘年会（22・23・24・28）
2月	獅子舞（1）　オレンジカフェ（22）
3月	山王自治会清掃（5）　オレンジカフェ（26）
	にこにこコンサート（5）オレンジカフェ（26）
	特養　誕生会（随時）
	生花クラブ（2回／月）　茶道クラブ（2回／月）　音楽クラブ（2回／月）
	陶芸クラブ（2回／月）　買物・個別出（随時）
	デイサービス　誕生会（毎月）　ボランティア演芸会（月2～3回）

Ⅴ. 地域福祉事業部

2016（平成 28）年度　事業報告

南部児童センター・学童保育所

概況

スローガンは､「あそびを中心とした今日の活動に満足し､明日の施設利用を楽しみにする生活」とした。児童センターは家庭、学校に加えて「第三の居場所」として、学童保育所は「家庭に代わる生活の場」としての機能を、可能な限り発揮できるようにアイデアを出し合いながら児童の健全育成に努めてきた。

南部児童センターの年間利用者総数が､32,839 名となった｡昨年対比 109%となり､年間約 2,600 余名の増加は、常に企画の新しさを追求しながら、居心地の良さを求めて環境整備を行ってきた成果だったと思われる。特に特徴的なこととして、幼児の増加に加えて、両親や祖父母も同伴するなどの傾向が見られた。また、中学生の利用増があった一方で、小学生の減少が目立った。

学童保育は、特に根郷小学校区と寺崎小学校区での過密化が顕著であり、寺崎学童保育所では定員を 30 名から 60 名に増員した。また、第二根郷学童保育所ならびに大崎台学童保育所では、利用学年を 1 年生からとし、夏休み中の臨時的な利用増への対応を図った。和田学童保育所では、年間を通じて 200%近い登録者がおり､保育室が慢性的な狭隘化に対応して､公民館の空室を借用するなどしてしのいだ。

なお、児童センター内の学童保育は、佐倉市条例から削除され、正式に廃止となった。

〇サービス目標

吉見光の子保育園（佐倉市吉見 193－1）と連携した「子育てコンシェルジュ」の定期的な相談会に加え、南部保健センターの保健師や地域の子育て支援者等の協力を仰ぎながら、利用者ニーズに沿った企画を開催した。

小中学生健全育成事業として、特に不登校児の居場所づくりに取り組んだ。学校や各関係機関と連携しながら、子どもたちに向けて､「居るところがなかったら　児童センターにおいでよ。」などと呼びかけてきた。子どもたちのあるがままの素直な気持ちを受け入れるところからスタートし､「居場所づくり」とした。また、祝日の「子どもの日」に加えて、新たに「山の日」が国民の祝日に制定された。本来であれば「休館」とするところを夏季休業中であることから「開館」し、居場所づくりを図った。

〇人材育成目標

順次、千葉県における放課後児童支援員認定資格研修を受講した。ベテラン指導員も含めて、これまで経験則から生み出された知識であったが、基礎知識、より専門性の高い研修を受講することで、経験を裏打ちする機会となった。加えて、計画的に内部研修も実施した。特に「感染症対応について」や「コンプライアンス/接遇」等についての研修会を開催した。

〇環境整備

児童センター来館者の要望により、共有スペースの整備に加えて、Staff Room を授乳室として整備した。また、老朽化したロールカーテンや壁紙の一部を新調するとともに、かつて学童保育室として利用してきたロッカーを撤去するなどした。老朽化した木製の滑り台も撤去し、安全性を確保した。中庭にはバスケットゴールを設置するとともに、ガラス面保護のためにネットを張るなどの整備を行った。寺崎学童保育所は、定員の増加に伴う保育室の拡張整備を行った。大崎台学童は、倉庫の整備や室内間仕切り用ネットの交換、和田学童保育所は、登録者数が倍増したことから、可能な限り荷物の整理をして、居室スペースを広くするための整備を行った。

〇2014～2016 年度第 2 期中期経営計画最終報告

【児童センター】関係機関と連携して、不登校児の居場所づくりを念頭に置いた、児童の健全育成を図った。

【学童保育所】過密化対策の一環として、定員を越えての入所や、利用増傾向のある地域の学童保育所の定員を見直すとともに、施設の環境整備を行い､「待機児童」を出さないようにした。

（所長　吉田　信之）

Ⅳ－1　サービスの利用状況（2016.4.1～2017.3.31）

Ⅳ－1－1　佐倉市立南部児童センター

（1）施設利用状況

	開館日数	幼児	小学生	中学生	高校生	一般	合計
年間利用数	298	9,683	6,697	4,893	457	11,109	32,839
一日平均		32.5	22.5	16.4	1.5	37.3	110.2

（2）図書貸出状況

	開館日数	延べ利用者数	貸出冊数	新規登録者数
年間利用数	298	1,141	4,592	137
一日平均		3.8	15.4	0.5

（3）事業実施状況（延べ人数）

区　分		事業名称	実施回数	参加人数	事業内容
子育て支援に関する業務	子育て中の親子への遊び場の提供業務	ひよこタイム	143	7,040	火曜日～金曜日、乳幼児親子の遊び
		ミニゆりかご	8	234	0歳児月1回第4木曜(7,8,12,3 月除く)
		ゆりかご	11	513	0歳児月1回第2木曜日(8月を除く)
		ペンギンちゃん	12	412	1歳児月1回第4水曜日（8月を除く）
		ほっぺちゃん	12	368	2歳児親子あそび　各6回
		キリンちゃん	20	256	3歳児親子あそび第1，第3火曜日
	子育て相談業務	ひよこ Q&A	10	39	子育てコンシェルジュ　年8回他
		幼稚園説明会	1	83	近隣幼稚園の概要説明
	子育てサークル等への支援業務	ヨガ	1	39	ママのリフレッシュタイム～子供と一緒に楽しむヨガ・ピラティス・フラダンス
		ピラティス	2	87	
		フラダンス	1	3	
遊びをとおしての体力増進		幼体操教室	2	48	4歳児5歳児対象に各1回
		小体操教室	4	50	1年2年対象に全4回
児童健全育成に関する業務	行事活動業務	遠足	1	15	佐倉草ぶえの丘
		バス遠足	2	46(幼) 60(小)	千葉中央博物館 日本科学未来館
		お話し会	11	369	絵本を中心とした読み聞かせ
	小学生を対象とした活動	生け花教室をはじめとして、12事業を実施	22	1,056	子どもたちの，家庭，学校に次ぐ，第3の居場所づくりをすすめ，集団的，個別的なあそびをとおして楽しむ。
	中高生を対象とした活動	バスケットボール大会	2	50	中学生　高校生（計24名）3対3のゲーム方式(交流戦)
	ボランティアサークル活動	スマイルクラブ	17	223	原則毎月第3日曜日　（3月を除く） 登録制によるボランティア活動
	地域交流・世代間交流活動	ゴミ0運動	1	26	対象:小中学生にまち協の協力による児童センター周辺の環境美化活動
		ニュースポーツ	1	83	県民の日に高齢者クラブの協力による
		福祉まつり	1	ー	地区まつりをとおして，地域住民との交流

Ⅳ－１－２ 学童保育所

（1）登録・利用状況（開所日数293日）

	定 員	登録者数（2017.3 現在）	延べ利用者数（年間総数）	延べ利用者数（開所日平均）
根郷学童保育所（対象学年１年～３年）	55	77	12,911	44.1
第二根郷学童保育所（対象学年１年～６年）	３０	２７	5,046	17.2
和田学童保育所（対象学年１年～６年）	１５	２８	4,288	14.6
弥富学童保育所（対象学年１年～６年）	65	１１	1,937	6.6
寺崎学童保育所（対象学年１年～３年）	60	62	10,171	34.7
大崎台学童保育所（対象学年１年～６年）	30	29	4,268	14.6
山王学童保育所（対象学年１年～６年）	50	27	5,599	19.1

（注）・第二根郷学童保育所は、7 月から、入所対象学年を1年生からとした。
・大崎台学童保育所は、8月から、入所対象学年を3年生からとした。

（2）利用料減免対象者（年間延べ人数）

	A	B	C	D
根郷学童保育所（対象学年１年～３年）	12	148	24	188
第二根郷学童保育所（対象学年１年～６年）	0	45	13	1
和田学童保育所（対象学年１年～６年）	0	23	0	66
弥富学童保育所（対象学年１年～６年）	0	10	26	12
寺崎学童保育所（対象学年１年～３年）	0	22	21	156
大崎台学童保育所（対象学年１年～６年）	12	12	0	26
山王学童保育所（対象学年１年～６年）	0	12	10	74

凡例　A 生活保護受給世帯（減免額　全額）
B 前年度の市民税所得割課税額が非課税のひとり親世帯若しくは在宅障害者のいる世帯（減免額　全額）
C 前年度の市民税所得割課税額が 10,000 円以下の世帯（減免額　１／２）
D 兄弟入所（減免額　１／２）

３人事関係

			４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月
月初現員数		正　職	3	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4
		サポート	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
		非常勤	36	34	33	34	54	42	36	35	39	39	38	32
		総　数	47	45	44	46	66	54	48	47	51	51	50	44
月内	採　用	総数	1	1	3	13	7	1		2	3		3	3
		（非）	(1)	(1)	(3)	(13)	(7)	(1)		(2)	(3)		(3)	(3)
	異動入	総数	1			1								
		（非）	(1)			(0)								
	異動出	総数												2
		（非）												(1)
	退　職	総数	2	2		1	12	8			1	1	1	5
		（非）	(2)	(2)		(1)	(12)	(8)			(1)	(1)	(1)	(4)
月末現員数		正　職	3	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4
		サポート	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
		非常勤	35	33	35	47	54	43	36	37	40	38	38	43
		総　数	46	44	46	57	65	54	47	48	51	49	49	54
月末日退職者数			パ2	パ2		パ1	パ1 ア1	パ1 ア6			パ1	ア1	パ1	サ1 パ4

Ｖ－２　総合相談センター

2016（平成 28）年度　事業報告

佐倉市南部地域包括支援センター／佐倉市障害者生活支援センターアシスト

概況

当年度のスローガンは『この地区に根ざして、住民とともに』であった。法人が南部地域福祉センターの指定管理を受託したこともあり、南部地域福祉センター内に事務所を移転し、正式に「総合相談センター」の名称を掲げてスタートを切った。年度当初は隣接する地区社会福祉協議会や南部地域福祉センターとハード面・ソフト面ともに調整が必要な状態であったが、1 年が経過し良好な関係が築けてきている。特に地区社会福祉協議会とは物理的に近くなったことで、以前と比べ情報共有が図りやすく、また支援や事業の面でも連携が取りやすくなった。

アシストについては、佐倉市障害者総合支援協議会生活支援部会で、佐倉市の不足している資源について（特に高齢化してきた障害者への支援）検討を重ねた。年度途中から、親亡き後の支援について検討する作業部会を設け、活発に議論を交わしている。計画相談は、新規利用者が増加する中で計画終了者はほとんどおらず、相談支援専門員の疲弊が顕著であった。次年度に増配置が決まったことは、職員にとっても嬉しい知らせとなった。とはいえ年々新規利用者が増えている状況では、余裕を生み出すまでに至らないという厳しい現状はある。佐倉市全体として相談支援事業所数や従業者が増えない限り、苦しい状況は続くと思われる。

南部地域包括センターについては、当年度は公募が実施された。結果は、今までの積み重ねと総合相談センターとしての取り組みが評価され、無事受託することができたが、圏域の他法人からも応募があり、気を引き締めて業務にあたらなければならないと感じた。次回の公募がいつになるのかは不明であるが、事業部内で協力し、圏域の福祉拠点となるように取り組んでいきたい。新たにモデル事業として生活支援コーディネーター（認知症地域支援推進員兼務）、認知症初期集中支援チームが包括内に配置となり、事業内容についての理解に努め、また住民へは出前講座で説明などを行った。年度後半には、次年度から開始になる介護予防・日常生活支援総合事業への対応に追われた。南部圏域の事業所を対象として南部包括独自と佐倉市と協働で 2 回勉強会を開催した。

〇サービス目標

【アシスト】

計画相談・モニタリング件数 90 件→　428 件
認定調査　60 件→　122 件
※認定調査では、年々依頼件数が増加。
※計画相談については、昨年度同様に年々新規利用者が増加する中、計画終了になる方はほとんどおらず、各職員の負担は増している。

【南部包括】

介護予防教室（としとらん塾）16 回→実績 12 回
介護者のつどい　8 回→　8 回
介護者教室　2 回→　2 回
予防プラン給付件数　月 100 件→平均 70 件
※予防プラン給付件数については、担当職員が年度途中で勤務時間数減になり、目標を達成できなかった。

〇地域連携目標

前年度に引き続き、当年度は南部地域福祉センターとの協働で Aikoh フォーラム「安心して老後を送るための知識～成年後見制度～」を実施した。講師である吉野理事の丁寧な説明と人柄で、研修終了後も質問者が殺到していた。

〇業務遂行目標

移転に際し、職場環境について整理を行ったが、年度当初はパソコン環境が悪く、インターネットが使用しにくい・動作が遅いなどのトラブルがあり随時対応した。業務の整理を進めたが、マニュアルの作成には至らなかった。会議や朝の申し送りは定例となった。

〇人材育成目標

職員間の異動もあり、「障害者のみ」「高齢者のみ」ではなく、家族全体の課題などについて考えることができるようになってきている。幅広い視点で検討する力を育成するために、隔月で相談支援事業所きらりと合同事例検討会を実施した。

〇2014～2016 年度第 2 期中期経営計画（最終年度）

合同イベント企画　2 回/年→実績　2 回

（所長　近藤　美貴）

【アシスト】

１－１　業務内容

〇基幹相談支援センター事業並びに業務
　①総合的・専門的な相談支援の実施
　②地域の相談支援体制の強化の取組
　③地域移行・地域定着の促進の取組
　④権利擁護・虐待の防止
〇生活全般の相談
〇サービス利用に関する情報提供等の福祉サービスの利用援助
〇情報提供、相談、アセスメント、サービス等利用計画の作成、サービス調整、モニタリング
　個別ケース会議　等
〇サービス事業者との連絡調整、担当者会議の開催
〇利用者負担の上限額管理
〇社会資源を活用するための支援や各種支援施策に関する助言・指導等
〇社会生活力を高めるための支援や権利の擁護のために必要な援助
　人間関係、健康管理、金銭管理等
〇ピアカウンセリング
〇専門機関の紹介
〇総合支援協議会の運営
《社会資源の改善・開発に向けた調整》
　①相談支援事業をはじめとするシステム作りに関し、中核的役割を果たす協議の場
　②相談支援事業者、福祉サービス事業者、保健・医療、学校、企業、高齢者介護等の関係機関、障害当事者団体、権利擁護関係者、地域ケアに関する学識経験者等で構成する。
　③主な機能
　　〇福祉サービス利用に係る相談支援事業の中立・公平性の確保
　　〇困難事例への対応の在り方に関する競技・調整
　　〇地域の関係機関によるネットワーク構築等に向けた協議
　　〇地域の社会資源の開発、改善
　　〇権利擁護等の分野別のサブ協議会等の設置、運営
　　〇その他（市町村障害福祉計画の作成・具体化に向けた協議など）
　　〇専門的な相談支援等を要する困難ケース等への対応
　　〇相談支援事業者間の連携

１－２　相談形態別利用状況

（１） 相談者実人数

	実人員	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	その他
4月	134	21	2	42	70	11	5	3
	0	0	0	0	0	0	0	0
5月	146	21	1	50	79	11	5	5
	0	0	0	0	0	0	0	0
6月	150	25	3	51	75	12	4	5
	0	0	0	0	0	0	0	0
7月	143	24	3	48	72	10	4	6
	0	0	0	0	0	0	0	0
8月	147	23	1	55	79	10	2	4
	0	0	0	0	0	0	0	0
9月	154	30	0	54	85	11	2	4
	0	0	0	0	0	0	0	0
10月	148	26	1	52	80	10	2	4
	0	0	0	0	0	0	0	0
11月	149	26	0	48	83	13	3	4
	0	0	0	0	0	0	0	0
12月	147	27	3	44	76	15	3	3
	0	0	0	0	0	0	0	0
1月	135	26	0	45	70	12	4	1
	0	0	0	0	0	0	0	0
2月	138	21	1	44	77	12	4	2
	0	0	0	0	0	0	0	0
3月	154	32	1	54	81	9	6	1
	0	0	0	0	0	0	0	0
計	1,745	302	16	587	927	136	44	42
	0	0	0	0	0	0	0	0

＊（　）内は情報提供のみにとどまった人数

（２） 支援方法件数

	訪問	来所相談	同 行	電話相談	電子メール	個別支援会議	関係機関	その他
4月	42	7	20	379	2	9	500	40
5月	51	8	18	407	7	7	471	26
6月	51	5	8	441	4	15	519	13
7月	61	17	11	421	4	4	538	6
8月	38	14	20	377	3	9	450	10
9月	80	8	27	482	76	5	569	18
10月	57	6	24	420	31	4	487	22
11月	55	7	20	405	71	13	484	33
12月	43	12	16	437	49	7	491	10
1月	44	10	20	461	46	9	475	10
2月	57	3	15	436	19	4	537	7
3月	54	11	19	444	8	12	614	10
計	633	108	218	5,110	320	98	6,135	205

（３） 支援内容数

	福祉サービスの利用等に関する支援	障害や症状の理解に関する支援	健康・医療に関する支援	不安の解消・情緒安定に関する支援	保育・教育に関する支援	家族関係・人間関係に関する支援	家計・経済に関する支援	生活技術に関する支援	就労に関する支援	社会参加・余暇活動に関する支援	権利擁護に関する支援	その他	日程調整等軽易な相談	計
4月	440	78	89	144	2	62	12	32	45	2	28	588	167	1689
5月	405	87	142	152	4	77	22	41	20	1	25	715	119	1810
6月	434	59	121	161	3	72	15	36	14	4	28	776	163	1886
7月	433	87	143	167	1	71	8	47	26	3	42	790	175	1993
8月	421	37	148	127	4	71	11	37	11	2	5	638	213	1725
9月	516	97	225	159	5	84	36	78	18	14	19	904	248	2403
10月	449	64	146	148	2	67	36	40	13	8	6	681	198	1858
11月	465	69	126	139	2	70	48	53	19	0	1	640	261	1893
12月	454	112	166	141	6	104	17	50	19	3	7	609	166	1854
1月	543	78	114	175	13	91	35	55	18	14	1	622	186	1945
2月	499	99	104	149	7	104	14	75	35	10	5	697	168	1966
3月	526	83	144	158	1	119	55	50	28	5	1	557	183	1910
計	5,585	950	1,668	1,820	50	992	309	594	266	66	168	8,217	2,247	22,932

（４）障害支援区分認定調査人数

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
人数	11	5	10	10	12	12	10	10	9	12	11	10	122

（５） 計画相談件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用計画	15	12	8	13	16	6	15	39	5	6	24	20	179
モニタリング	20	12	39	15	10	22	26	12	14	23	34	22	249
計	35	24	47	28	26	28	41	51	19	29	58	42	428

【南部包括】

１－１介護予防ケアマネジメント事業

予防給付（要支援認定者）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	総 数
直営件数	65	67	69	70	70	76	77	75	73	67	67	65	841
委託件数	190	195	191	192	191	196	197	204	215	214	216	216	2417
計	255	262	260	262	261	272	274	279	288	281	283	281	3258

１－２総合相談・権利擁護・ケアマネジメント支援

	実数	延数
相談件数	539	1960

１－３方法別相談延べ件数（総合相談のみ）

	平日		土・日	総数	%
	業務時間中	業務時間外	祝日		
来所	167	0	30	197	39
電話	264	4	18	286	57
その他	15	0	2	17	4
合計	421	29	45	501	100

１－４　内容別相談件数　（重複有）

内容	件数	内容	件数
１．ねたきり高齢者	0	11．権利擁護・成年後見制度	6
２．ひとり暮らし高齢者	42	12．消費者被害	2
３．認知症高齢者	64	13．高齢者の虐待（疑いも含む）	6
４．介護に関する事柄	74	14．施設入所	15
５．介護・福祉サービス	294	15．介護方法（技術）	3
６．保健・医療	27	16．やむを得ない事由による措置	0
７．精神的支援	10	17．苦情全般	3
８．生活支援	12	18．家族間調整	4
９・状況確認	41	19.個人の悩み事	9
10．関係機関調整	29	20．その他	9

２　運営管理

２－１　職員状況

	2016.4.1 現員数	2016.4.1～2017.3.31				2017.3.31 現員数
		採用	異動入	異動出	退職	
総　　数	11(2)		3			11(2)
所長（兼務）	1					1
【アシスト】						
管理者（兼務）	1					1
相談支援専門員	4(1)		1			4(1)
【南部包括】						
管理者（兼務）	1					1
主任ケアマネジャー	1					1
社会福祉士	2		1			2
看護師	2		1			2
ケアマネジャー	1(1)					1(1)
生活支援コーディネーター（認知症地域支援推進員兼務）	1					1

※数字は総数で表示し、うちパート職員の数は（　）内に表示。

２－２　職員研修の状況

施設内		施設外	
月日	研修名	月日	研修名
6月30日	法人虐待研修	5月13日	障害支援区分認定調査員研修（ア）
7月20日	法人マネジメント研修	7月9日	認知症初期集中支援研修
9月20日	認知症初期集中支援チーム員伝達研修	7月10日	認知症カフェ連絡会
		7月11～12日	包括支援センター初任者研修
10月21日	法人防犯研修		中核センター大会（ア）
24日	法人評価者研修	8月25～26日	包括支援センター初任者研修
11月24日	法人マネジメント研修		相談支援従事者専門コース別研修（ア）
1月23日	法人数字力講座	9月2日	キャラバンメイト研修
2月23日	マネジメント研修	6日	保健所研修（ア）
3月15日	法人労務管理者講習会	8日	認知症初期集中支援チーム員推進員研修
		21日	高次脳機能障害支援センター研修
			いんば圏域相談事業合同研修（ア・南）
		29日	安全運転管理者講習会
		10月17日	包括支援センター現任者研修
		19～20日	生活支援コーディネーター研修
		22日	看看ケアマネ研修
		25～26日	元気シニアを対象とした生活支援の担い手養成研修
		11月7日	介護予防・日常生活支援総合事業移行支援事業第3回市町村セミナー
		8日	生活支援ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ・協議体メンバー情報

			交換会、病院との意見交換会
		12～13 日	生活支援コーディネーター養成研修
		12 月 1 日	成年後見制度研修会
		2 日	ふまねっとスキルアップ研修会
		4 日	パーソンセンタードケア研修
		9 日	CSK 就労研修
		10 日	相談コース別研修（ア）
		12～13 日	精神保健福祉士実習指導者講習会
		14 日	障害者虐待防止権利擁護研修（ア）
		1 月 13 日	キャラバンメイト研修
		21 日	退院促進セミナー（ア）
		26 日	生活支援体制整備の推進に向けた勉強会
		30 日	認知症地域支援体制推進セミナー
		2 月 2～3 日	包括支援センター現任研修
		2 日	保健所研修(ア)
		3 月 24 日	障害福祉サービス事業所集団指導（ア）

※(ｱ)…アシスト職員対象研修

２－３　会議等（定例会議）

施設内		施設外	
会議名	開催数	会議名	開催数
アシスト会議	月 1 回	【アシスト】	
合同会議	月 1 回	佐倉市障害者総合支援協議会	年 2 回
包括会議	月 2 回	佐倉市障害者総合支援協議会運営委員会	年 2 回
		同　　生活支援部会	回
		佐倉市障害福祉関係機関連絡会	年 2 回
		佐倉市相談支援事業所事例検討会	月 1 回
		印旛メンタルサポートネットワーク連絡会	月 1 回
		中核・相談事業所合同会議打ち合わせ	年 2 回
		〃　　研修会	年 1 回
		【南部包括】	
		管理者会議	月 1 回
		5 包括事例検討会	月 1 回
		生活支援コーディネーター定例会	月 1 回
		認知症地域支援推進員・認知症初期集中支援	
		チーム員会議	月 1 回
		民児協定例会	月 1 回
		そよ風運営推進会議	随時
		ミック運営推進会議	随時
		マーチン運営推進会議	随時
		地域活動計画策定委員会	随時
		南部圏域買い物支援検討会	月 1 回

３ 南部地域福祉センターと南部児童センターの協働事業報告

３－１ 南部地域福祉センター

・ヨガ教室　毎週金曜日 17:45～19：15
・自力整体　第 3・4 水曜日 17：45～19:15
・体操教室　第 1・4 火曜日 11:00～12：00
・介護技術研修
・Aikoh フォーラム 2016「老後を安心して過ごすための法律知識～成年後見制度～」

３－２ 南部児童センター

・スマイルクラブ認知症サポーター養成講座

Ｖ－３　南部地域福祉センター

2016（平成28）年度　事業報告
佐倉市指定管理者施設　南部地域福祉センター

概況

『交流と支え合いの地域づくりを目指そう』を当年度スローガンに地域福祉の推進に関する施策を実施し、住民の地域福祉に関する取り組みを支援することを目的に南部圏域の福祉拠点としての役割を担い、施設の管理運営を行った。

事務所内に総合相談センターが入るという佐倉市では初めての取り組みに挑戦し、日常的に総合相談と連携しながら体操教室や講座で共同事業を実施するとともに地域福祉センター内に事務所を持つ根郷・和田・弥富地区社会福祉協議会、また地域福祉センターを主な活動拠点とする民生委員児童委員協議会・まちづくり協議会等の住民組織の福祉活動がしやすいように互いに情報提供するなど連携しながら相談等の支援をした。

〇サービス目標

愛光が指定管理者として児童センターと併せて、ワンストップで南部保健福祉センターという複合施設内で児童・高齢者・障害者という総合相談体制の確立を形にすることができ、地域住民にも受け入れられた。

11 月からは和田・弥富の交通不便地域へ向けた送迎をする「愛光たすけあい移送サービス」をスタートした。施設の利用者への利便を図るため、大型バスを週４日走らせる取り組みは、まだまだ芽を吹いたばかりだが、引きこもりがちな方等がバスを利用することでサロンや水彩画講座に参加し始め、できることから歩みをすすめた１年であった。地域福祉の拠点として、住民に求められる移送サービスにどう育てていくかが課題である。

多様な世代との交流イベントとして、根郷地区社会福祉協議会と協賛で児童センターと一体的に取り組んだ地域密着の夏まつり・七夕飾りづくり・消しゴムはんこづくりの講座を実施した。

〇地域連携目標

根郷地区社会福祉協議会の研修会、理事会、福祉委員会への出席、根郷・和田・弥富３地区の社会福祉協議会との日常的な相談支援活動をするとともに逆に地域福祉センターの企画する講座への協力をいただき、活動拠点として１つのチームが成り立っていると考える。

地域向けにボランティアの拡充を図るため、傾聴を実技で学ぶなど４回シリーズのボランティア地域デビュー講座を愛光としてボランティア委員会と連携協力して開催することができた。

〇業務遂行目標

個人情報保護・リスクマネジメントに対する職員の意識の徹底に努め、業務に当たることができた。

佐倉市ボランティアセンターの運営委員会・定例連絡会議へ出席し、業務をスムーズにすすめるための連携を図ることができた。

高齢者教養教室・サロン等は、口コミによる広報活動によって参加者が増えるなど充実を図ることができた。大型バス運行事業においても幅広く適正な業務運行に努め多くのご利用をいただいた。

〇人材育成目標

職員は接客マナーも良好で地域住民との関係が構築され、住民ニーズも引き出しやすかった。利用者に気持ちよく過ごしていただくため、職員同士がチェック機能を持ち、業務・サービス改善に向け切磋琢磨することが、新人の育成にも一役かっている。定期的に消防訓練を複合施設として実施するものに参加している。また、救命救急に関する講習会は２年ごとに実施のため、次年度に予定。利用者の安全確保に対する訓練をした人材配置をして運営した。

（所長　高木　千恵子）

【南部地域福祉センター】

１－１　業務内容

○事業並びに業務
１．各種相談事業
２．高齢者交流事業
３．ふれあいサロン事業
４．ボランティアセンター運営事業
５．文化祭・発表会等（イベント）事業
６．大型バス運営事業
７．愛光たすけあい移送サービス
８．浴室運営事業
９．その他施設管理運営業務

１－２　実績

（1）　利用状況（開所日数３０８日　延べ６０，５８１人　）

A棟	浴室	大広間	作業室	教　養 娯楽室	会議室	健　康 談話室	陶芸室	中庭	健康 相談
当年	3,290	8,700	1,369	5,778	4,654	3,099	1,521	2,084	2,004
前年	－	－	－	－	－	－	－	－	－
B棟	研修室	和室	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｾﾝﾀｰ	相談室	愛光たすけあい移送　サービス				
当年	22,610	3,329	1,721	401	21				
前年	－	－	－	－	－				

（2）　大型バス運行利用状況

利用台数	７６台
利用人数	２，８０８人

（3）　高齢者教養教室の開催

教室の種類	開催日	講師名	生徒数
カラオケ	第２第４金曜日	大谷慎氏	４１人
踊り	毎週木曜日	藤塚早苗氏	１２人
民謡	第１第３木曜日	會田和則氏	１４人
尺八	第２第４木曜日	内田政見氏	１０人
大正琴	第２第４水曜日	斉藤玲子氏	１２人
書道	第１第３火曜日	長尾左保里氏	１６人
いけばな	第２第４火曜日	羽根井和子氏	９人
太極拳	第１第３水曜日	塚本景次氏	３９人
自力整体	第１火曜日・第３土曜日	秋田美智子氏	５６人
詩吟	第１第３土曜日	川端恵子氏	１１人

（4）　講座、イベント

講座・イベント名	回数	人数
サロン事業	１８	４７２
高齢者交流事業（教養教室のみ）	２５７	３，１４７
趣味の教室	１２	７８
地域福祉のための講座	１７	７５

２－１　職員状況

	2016.4.1 現員数	2016.4.1～2017.3.31				2017.3.31 現員数
		採用	異動入	異動出	退職	
総　　数	11（9）	11（10）	2（1）	0	2（2）	12（10）
所長	1	1	0	0	0	1
事務員	1	0	1	0	0	1
管理員	4（4）	5（5）	0	0	1（1）	5（5）
保健師	2（2）	2（2）	0	0	0	2（2）
用務員	2（2）	2（2）	1（1）	0	1（1）	2（2）
ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ	1（1）	1（1）	0	0	0	1（1）

※数字は総数で表示し、うちパート職員の数は（　）内に表示。

２－２　職員研修の状況

施設内		施設外	
月日	研修名	月日	研修名
6 月 23 日	会計研修	2 月 8 日	会計研修
6 月 30 日	リスクマネジメント研修		
7 月 5 日	会計研修		
8 月 2 日	会計研修		
9 月 28 日	会計研修		
10 月 24 日	評価者研修		
11 月 24 日	マネジメント研修		
12 月 1 日	会計固定資産関係勉強会		
12 月 9 日	中途採用職員研修		
12 月 16 日	会計研修		
1 月 23 日	数字力講座		
2 月 22 日	ホームページ研修		
3 月 15 日	労務管理講習会		
3 月 24 日	ホームページ研修		

２－３　会議等（定例会議）

施設内		施設外	
会議名	開催数	会議名	開催数
スタッフ会議	２	指定管理ミーティング	１０
定期利用団体懇談会	１	佐倉市ボランティアセンター運営委員	６
拡大運営会議	３	会	１０
南部施設長会議	３	佐倉市ボランティアセンター定例会議	１０
		南部圏域買い物支援検討会・準備委員	７
		会	３
		根郷地区社協理事会	
		根郷地区社協福祉委員会	

３　総合相談センター・児童センターと協働事業の報告

３－１　総合相談センターとの協働事業

事業名	回数	人数
高齢者交流事業	２８	５５３
アクティブシニア事業	２１	４７６

３－２　児童センターとの協働事業

事業名	回数	人数
世代間交流事業	２	１３